

第4章 調査結果の分析

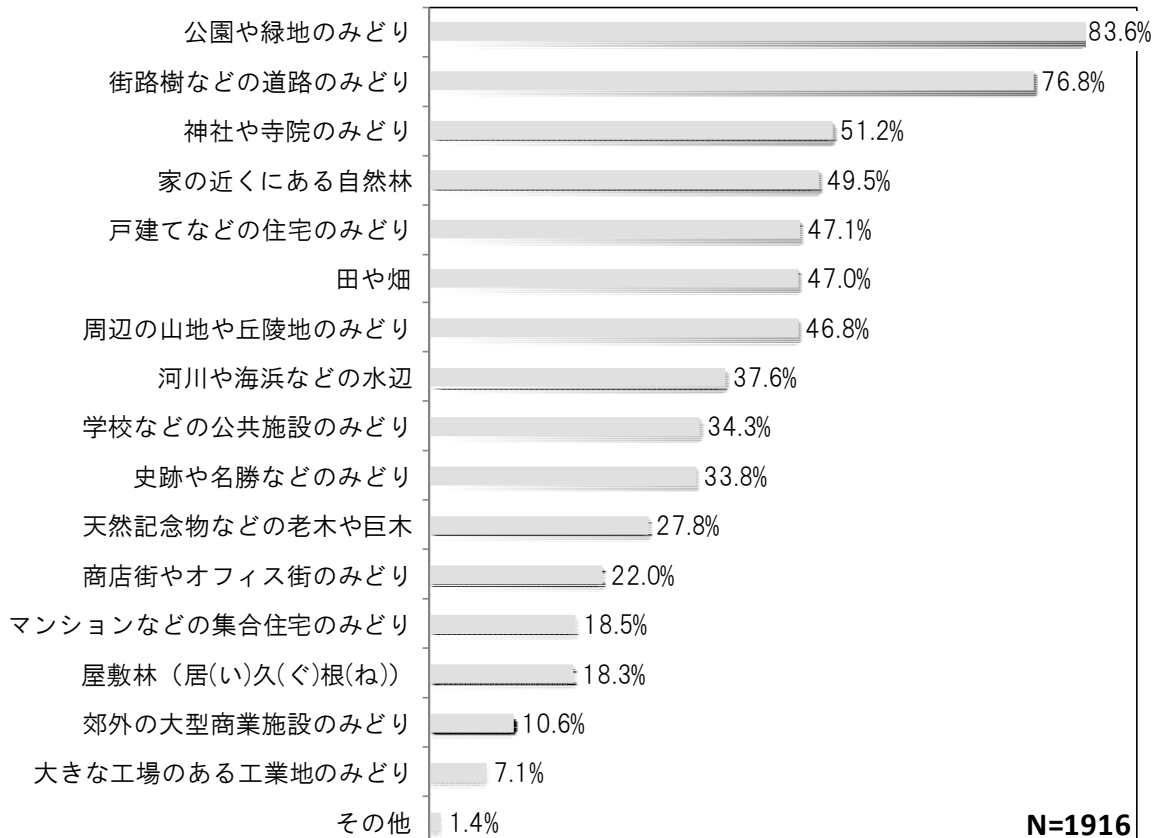
1. 身近なみどりについて

(1) 身近なみどり

身近なみどりについては、「公園や緑地のみどり」(83.6%)が最も多く、次いで「街路樹などの道路のみどり」(76.8%)、「神社や寺院のみどり」(51.2%)、「家の近くにある自然林」(49.5%)、「戸建てなどの住宅のみどり」(47.1%)となっている。

問8 あなたにとっての身近なみどりとは何ですか。

「身近なみどり」とは、あなたのお住まいの近くにあるみどりだけではなく、あなた自身が身近だと感じているみどりも含めます。(あてはまる番号すべてに○)

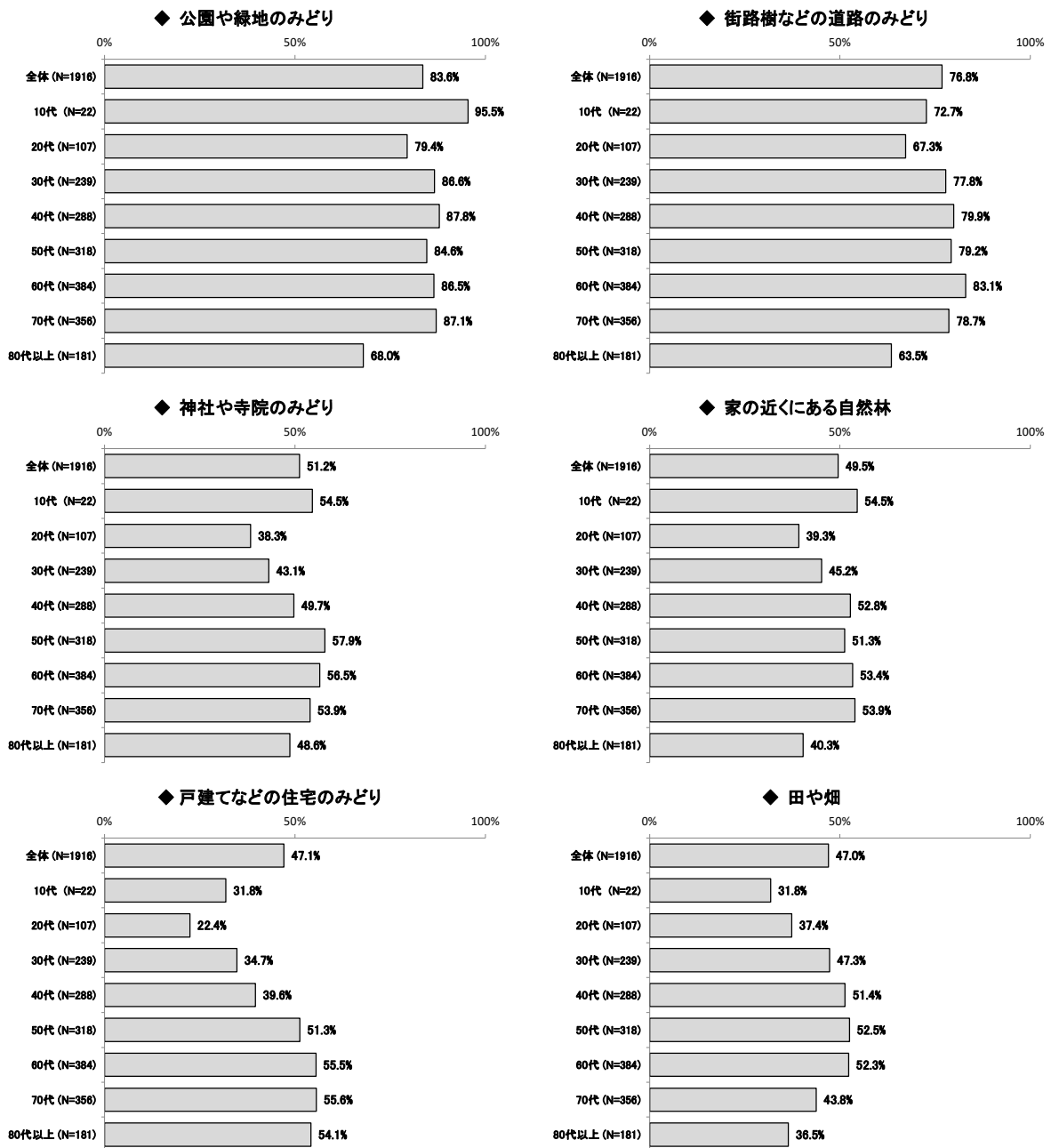


● 年代別 ●

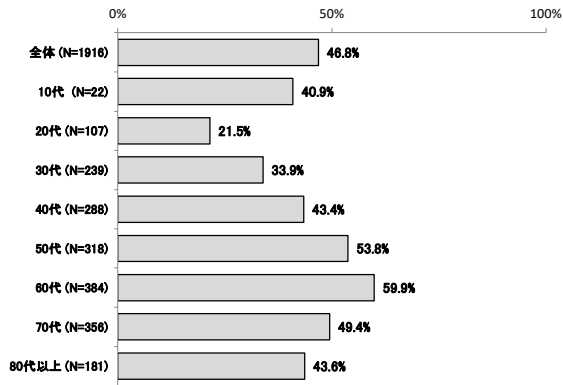
年代別にみると「公園や緑地のみどり」は、【20代】及び【80代以上】以外では、全体の割合を越えている。

また、「街路樹などの道路のみどり」も同様に、【20代】及び【80代以上】以外では、7割を越えており、特に【80代以上】に関しては、上位項目の中でも割合が少ないものが見受けられる。

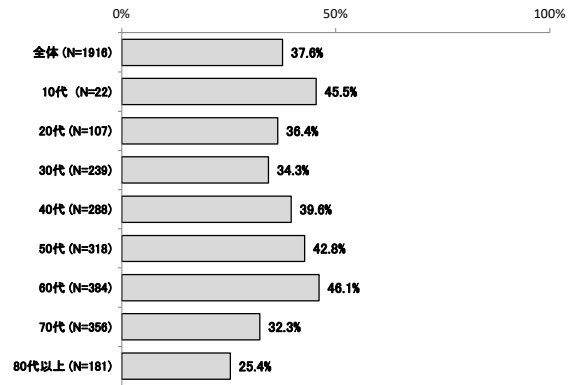
※上位10項目のみ抜粋



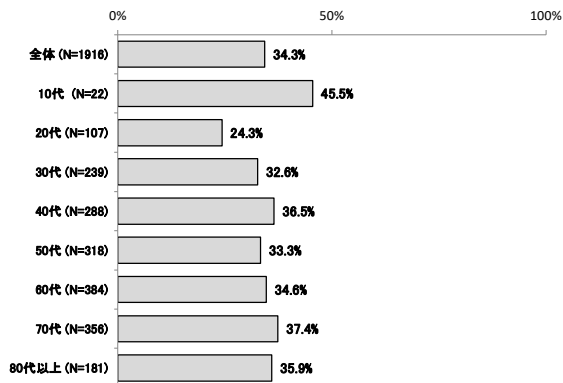
◆ 周辺の山地や丘陵地のみどり



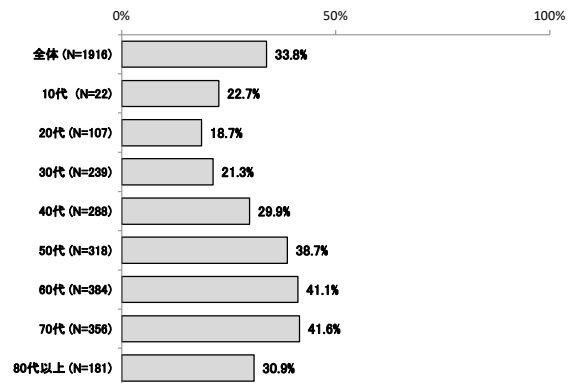
◆ 河川や海浜などの水辺



◆ 学校などの公共施設のみどり



◆ 史跡や名勝などのみどり



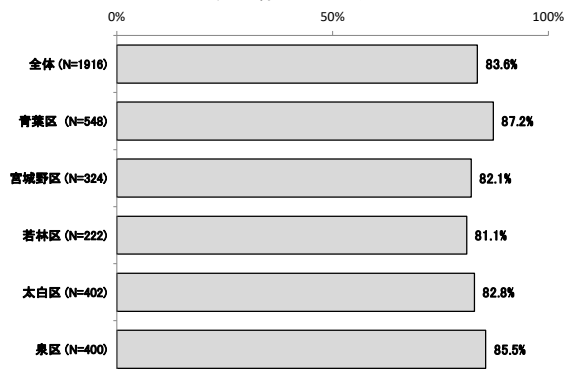
● 居住地区別 ●

居住地区別にみると【泉区】が多くの項目において上位を占めている。

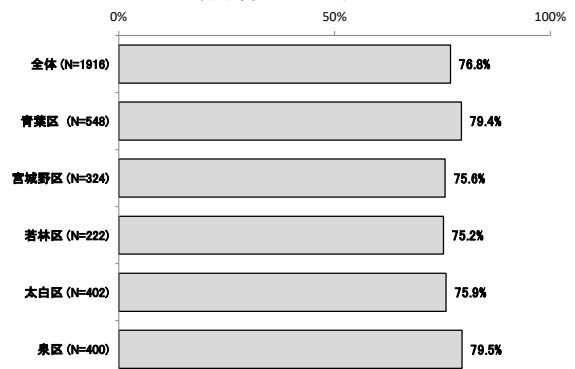
【宮城野区】や【若林区】は他の区に比べて、「家の近くにある自然林」や「周辺の山地や丘陵地のみどり」が少なくなっている。

※上位 10 項目のみ抜粋

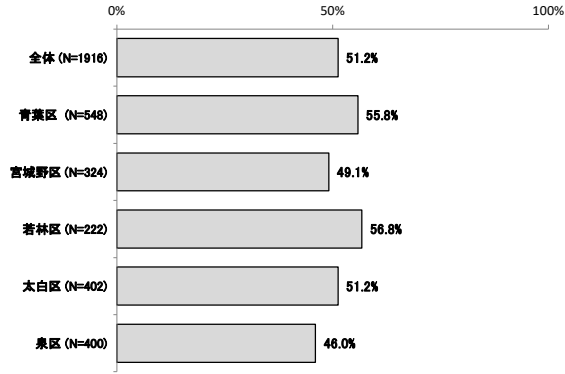
◆ 公園や緑地のみどり



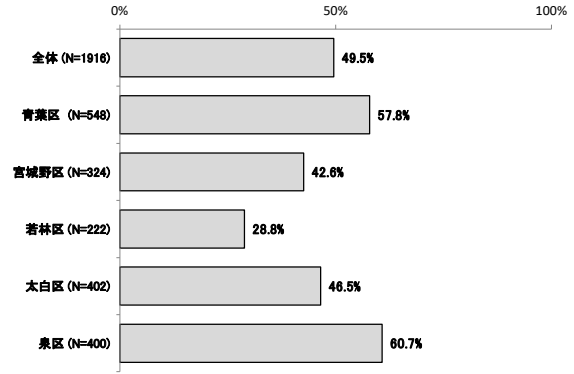
◆ 街路樹などの道路のみどり



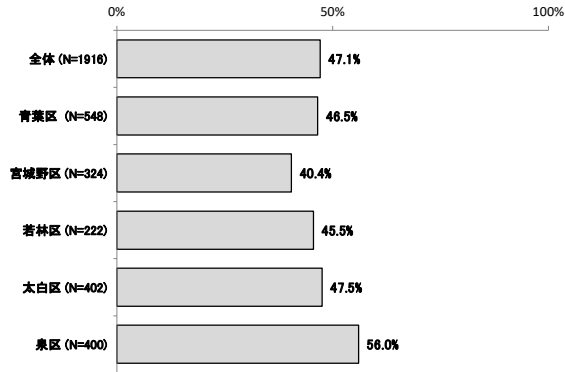
◆ 神社や寺院のみどり



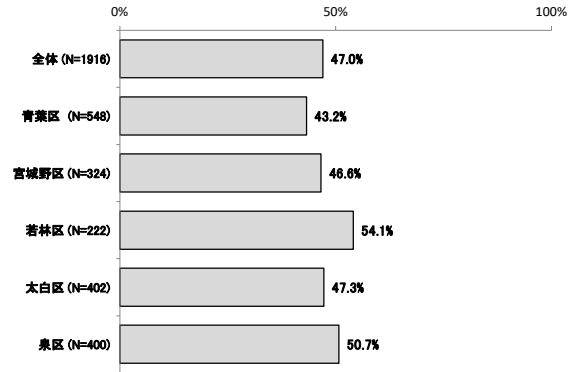
◆ 家の近くにある自然林



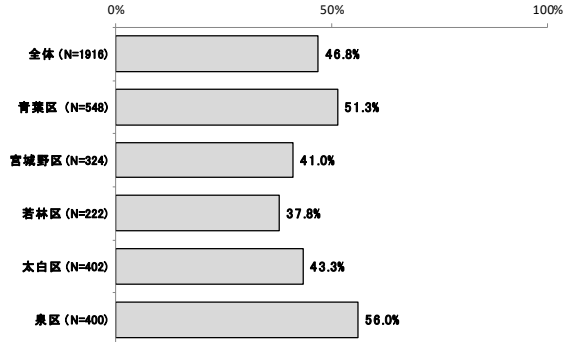
◆ 戸建てなどの住宅のみどり



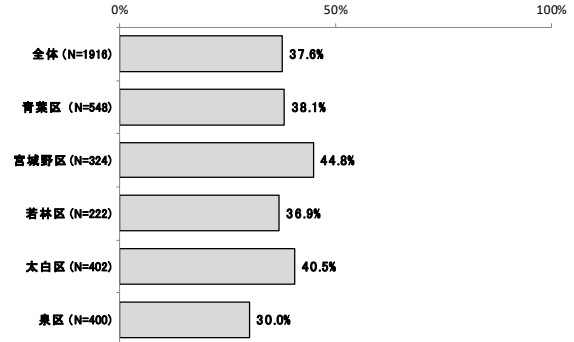
◆ 田や畑



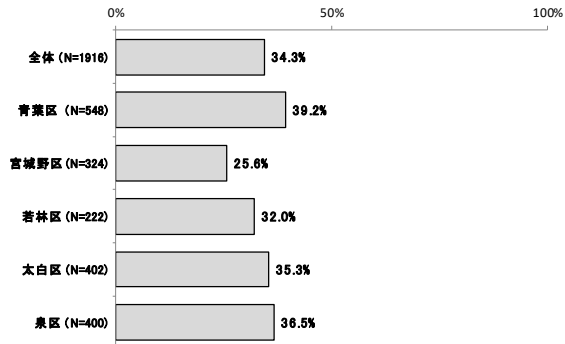
◆ 周辺の山地や丘陵地のみどり



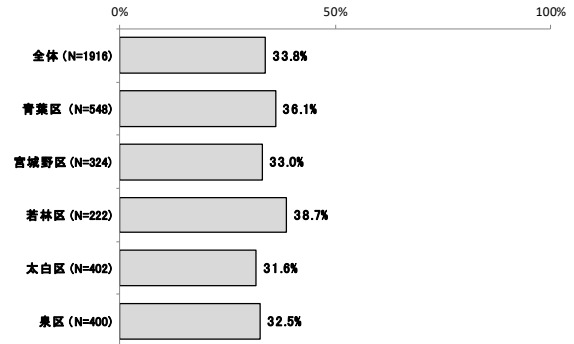
◆ 河川や海浜などの水辺



◆ 学校などの公共施設のみどり

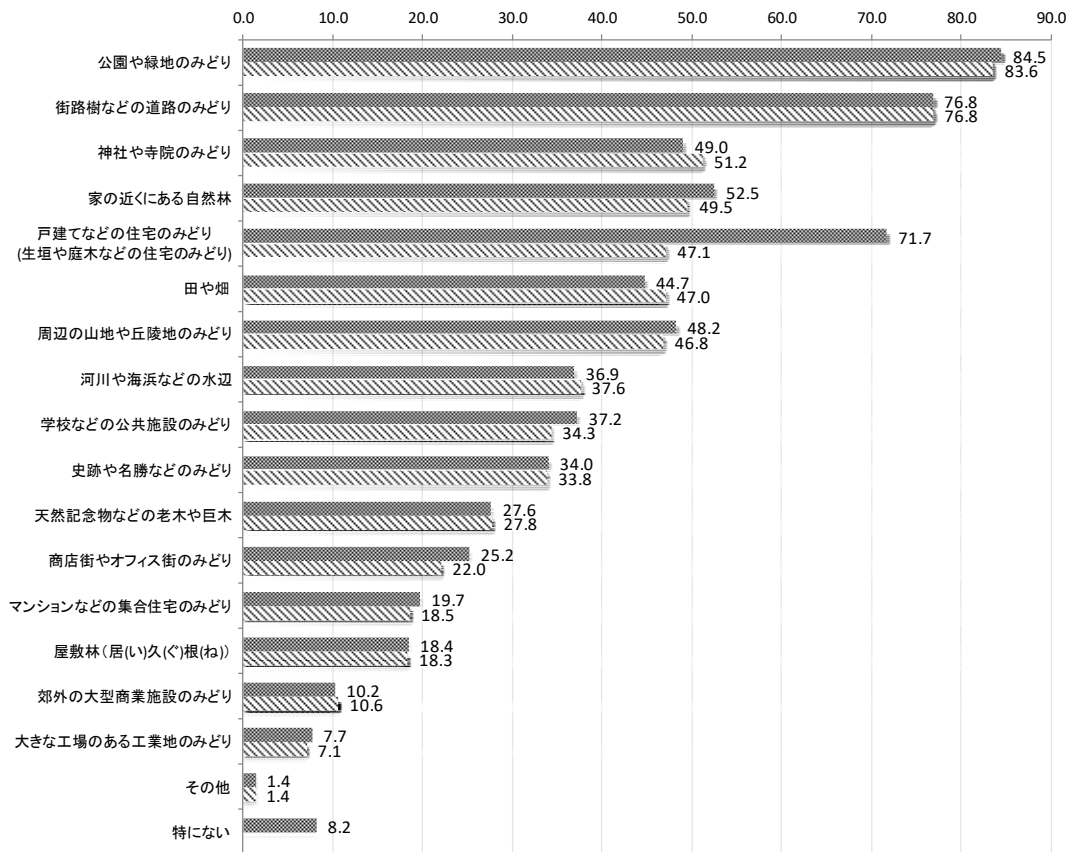


◆ 史跡や名勝などのみどり



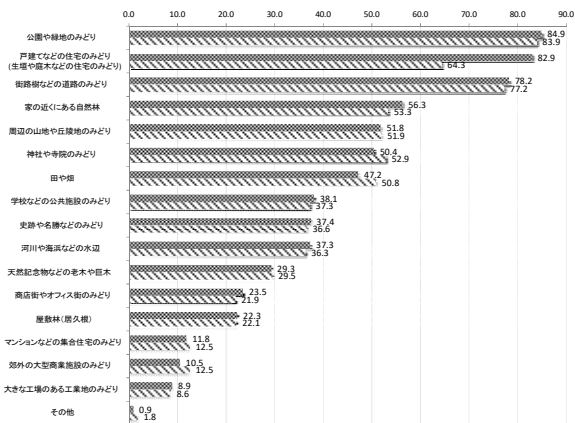
● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年実施のみどりの市民意識調査の結果と比較すると、「戸建てなどの住宅のみどり」(2012年時「生垣や庭木などの住宅のみどり」)が約7割から約5割と減少している。現在の住まい別で比較しても「戸建てなどの住宅のみどり」は住まいの形態に関係なく減少しているが、特に集合住宅で大きく減少している。



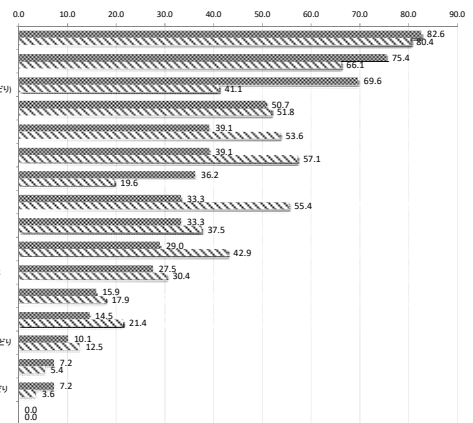
■ 2012 □ 2019

◆持ち家(一戸建て)



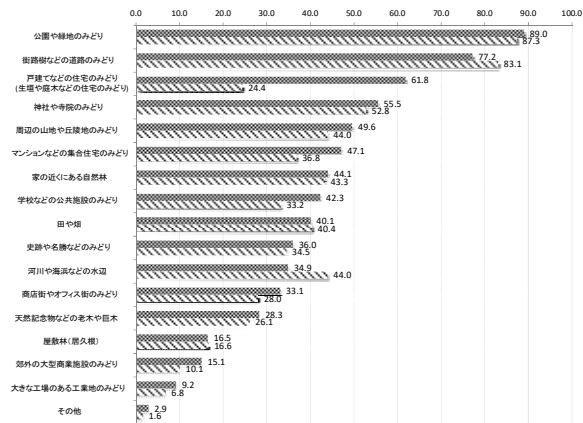
2012 2019

◆賃貸住宅(一戸建て)



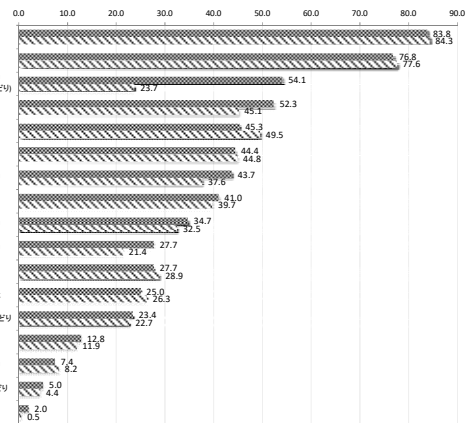
2012 2019

◆持ち家(集合住宅)



2012 2019

◆賃貸住宅(集合住宅)



2012 2019

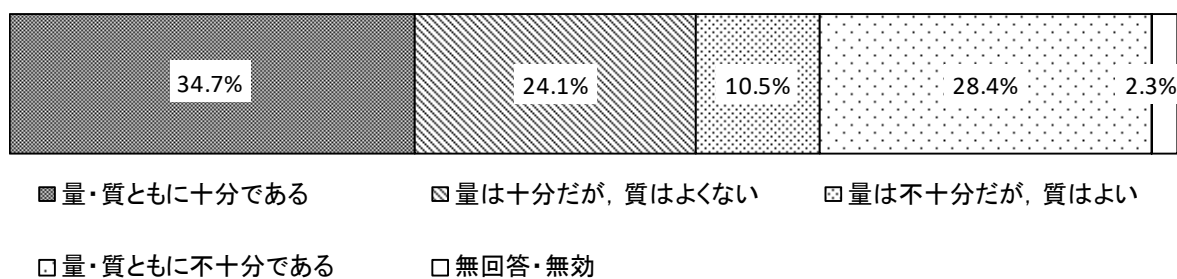
(2)身近なみどりの満足度

身近なみどりの満足度については、「量・質ともに十分である」(34.7%)が最も多く、次いで「量・質ともに不十分である」(28.4%)、「量は十分だが、質はよくない」(24.1%)、「量は不十分だが、質はよい」(10.5%)となっている。

問9 現在の身近なみどりの量や質についてどのような印象を持っていますか。

※「質」とは、みどりが持っている機能のことで、具体的には、生活環境を良くする、生物を保全する、景観を美しくする、癒し(いやし)になるなどの機能のことです。

(あてはまる番号1つに○)

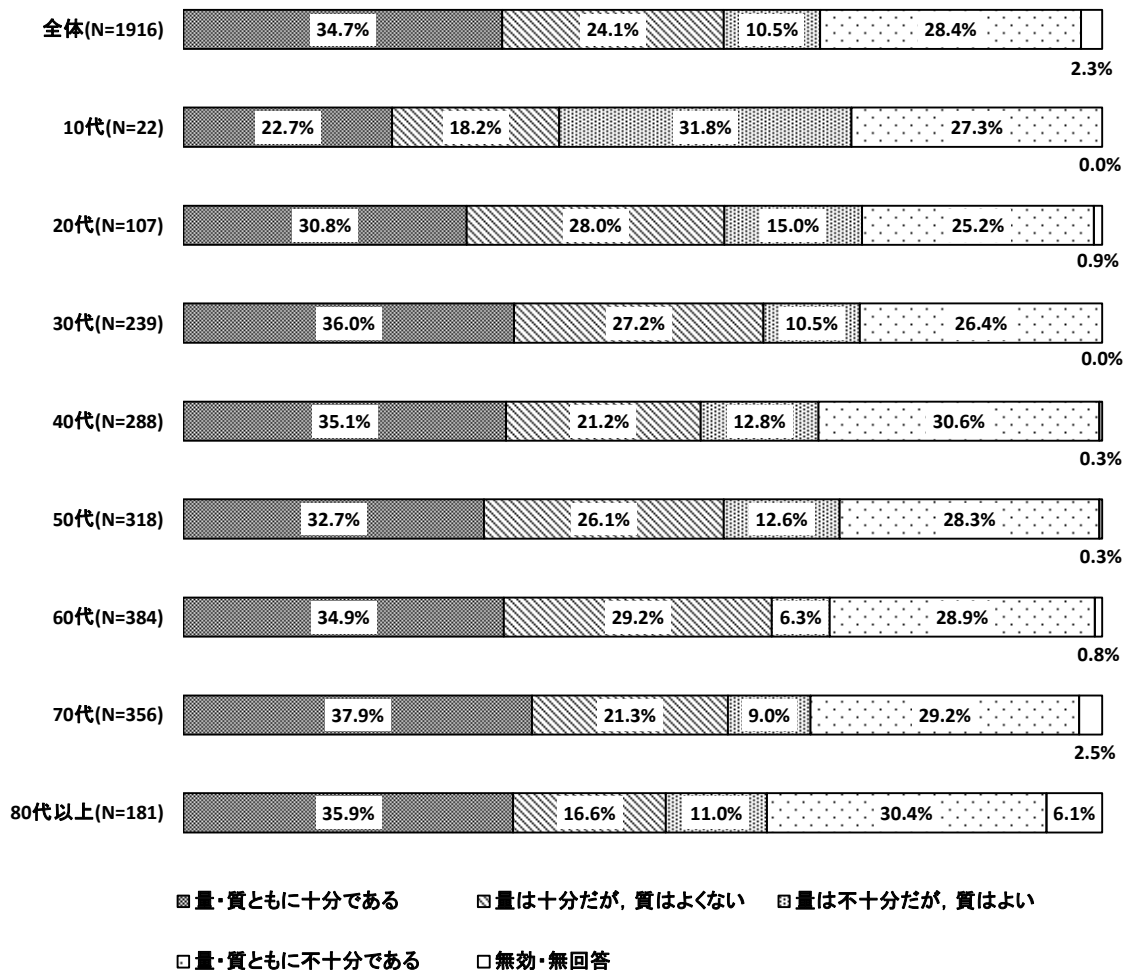


N=1916

● 年代別 ●

年代別にみると、「量・質ともに十分である」は、【70代】(37.9%)が最も多く、【10代】を除く各年代で3割を超えている。

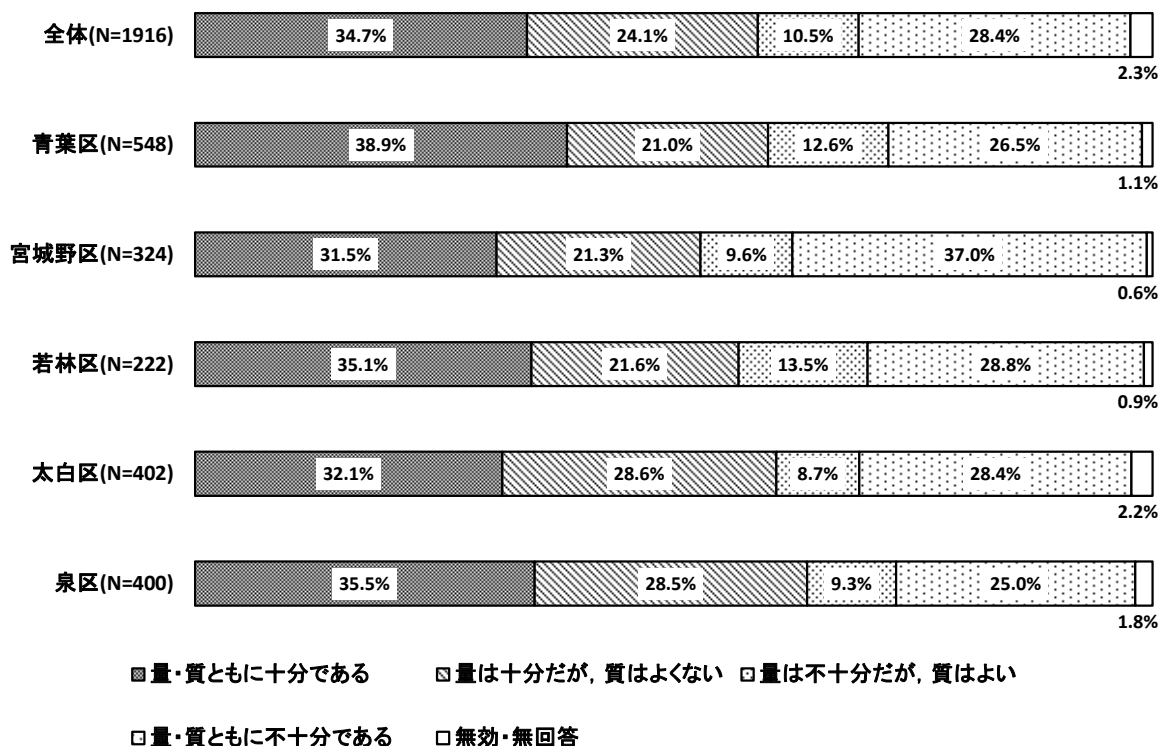
一方、「量・質ともに不十分である」は、【40代】(30.6%)、【80代以上】(30.4%)のみ3割を超えている。



● 居住地区別 ●

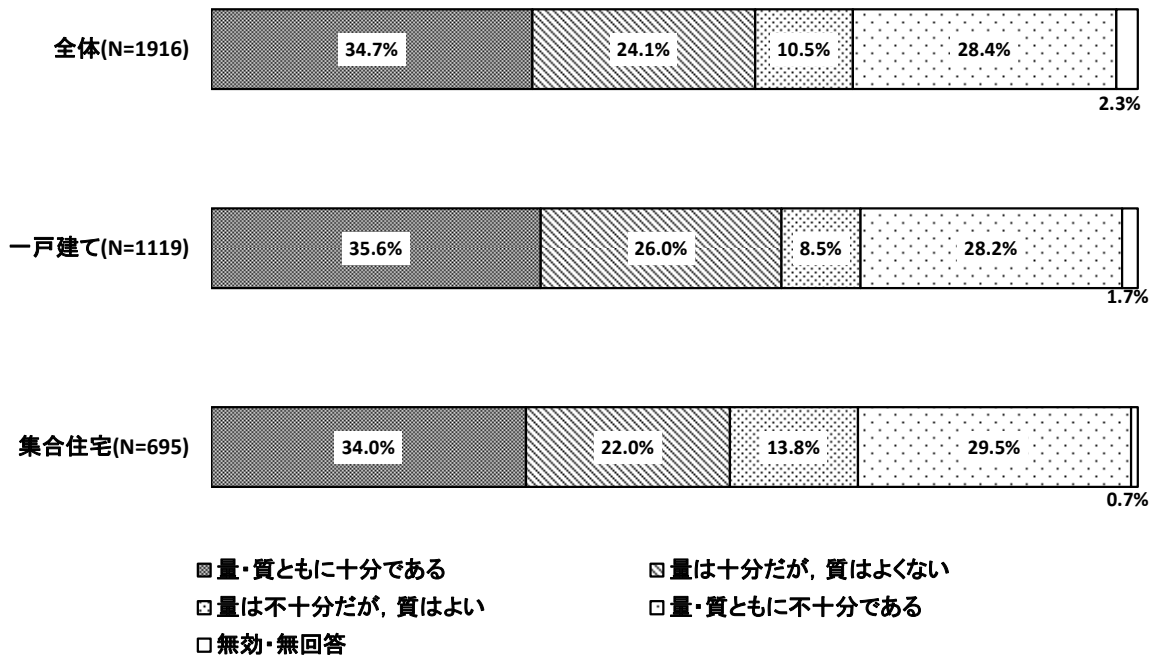
居住地区別にみると、「量・質ともに十分である」は、【青葉区】で38.9%、【泉区】で35.5%と、他の区に比べて多くなっている。

一方、「量・質ともに不十分である」は、【宮城野区】で37.0%と、他の区に比べて多くなっている。



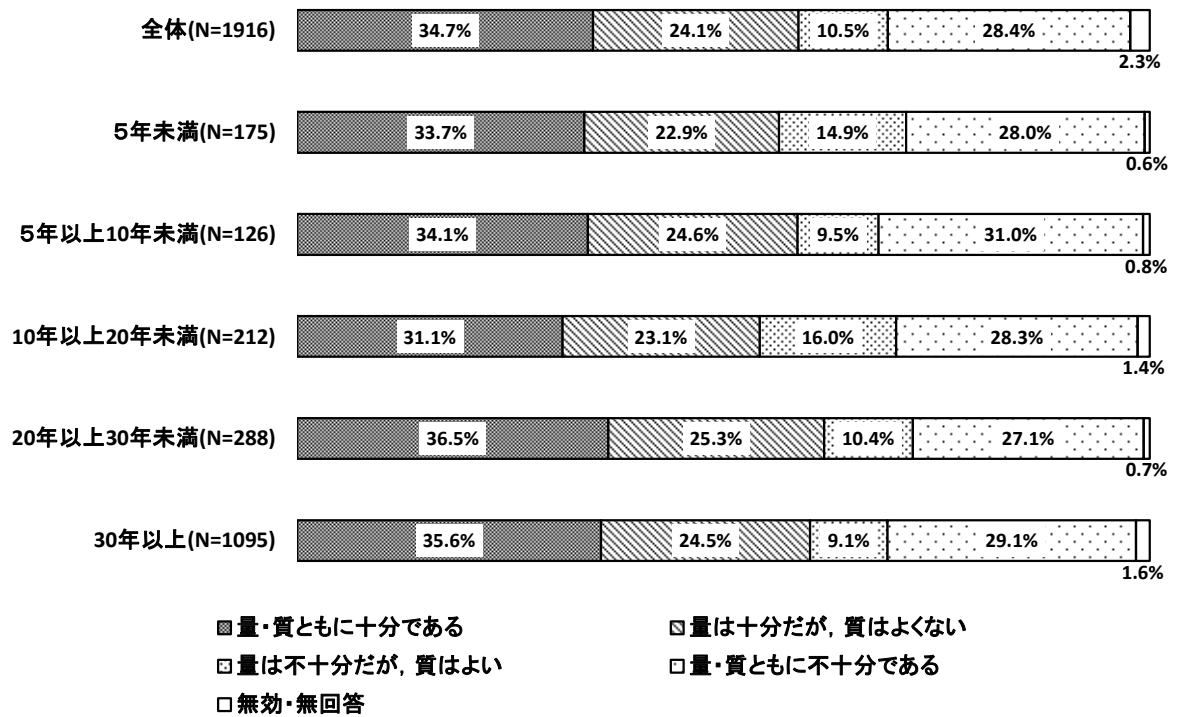
● 現在の住まい別 ●

現在の住まい別にみると、【一戸建て】、【集合住宅】共に「量・質ともに十分である」が「量・質ともに不十分である」を上回っている。



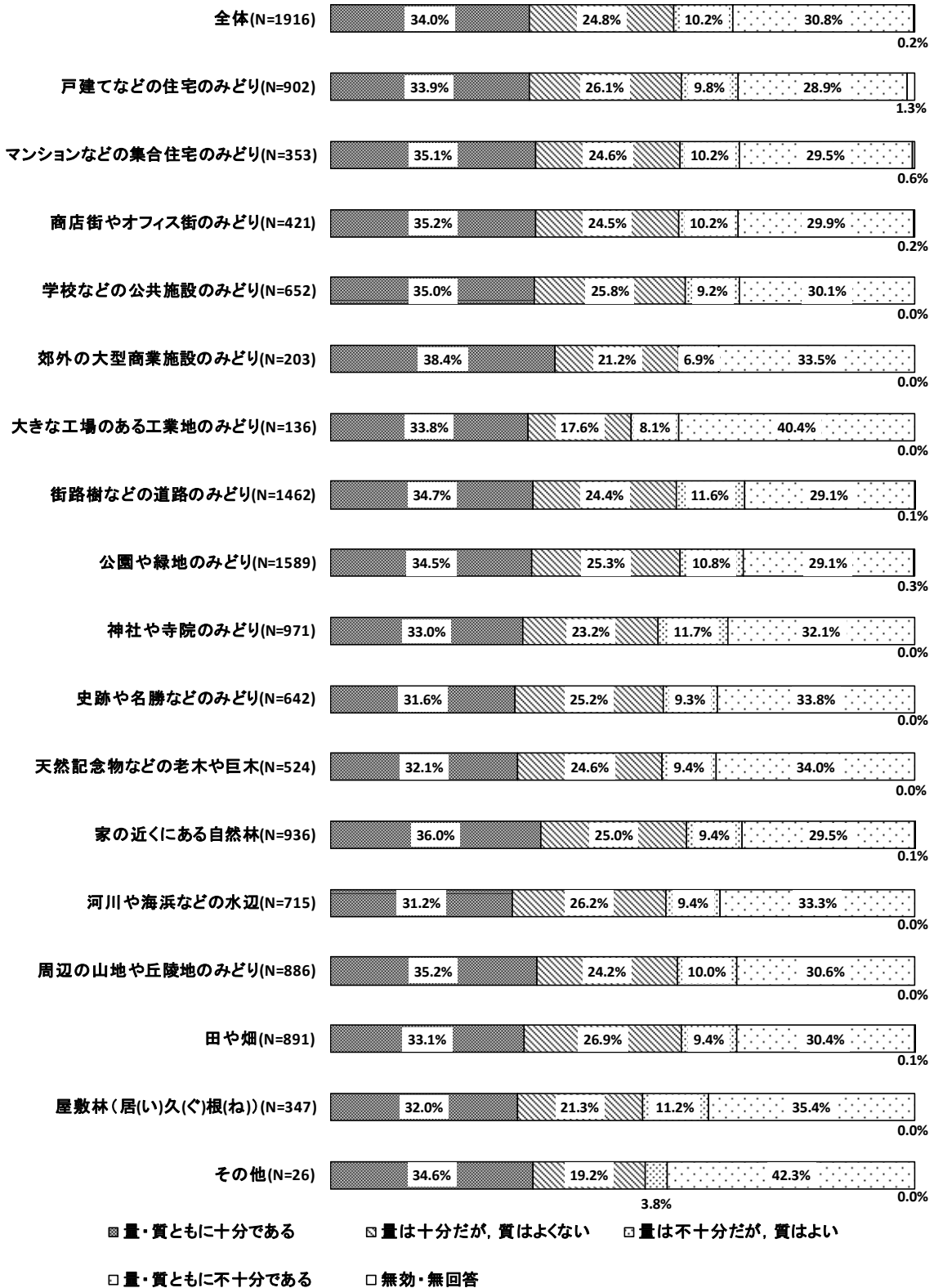
● 居住年数別 ●

居住年数別にみると、「量・質ともに十分である」は、【20年以上30年未満】で36.5%と、最も多くなっている。



● 身近なみどり(問9)別 ●

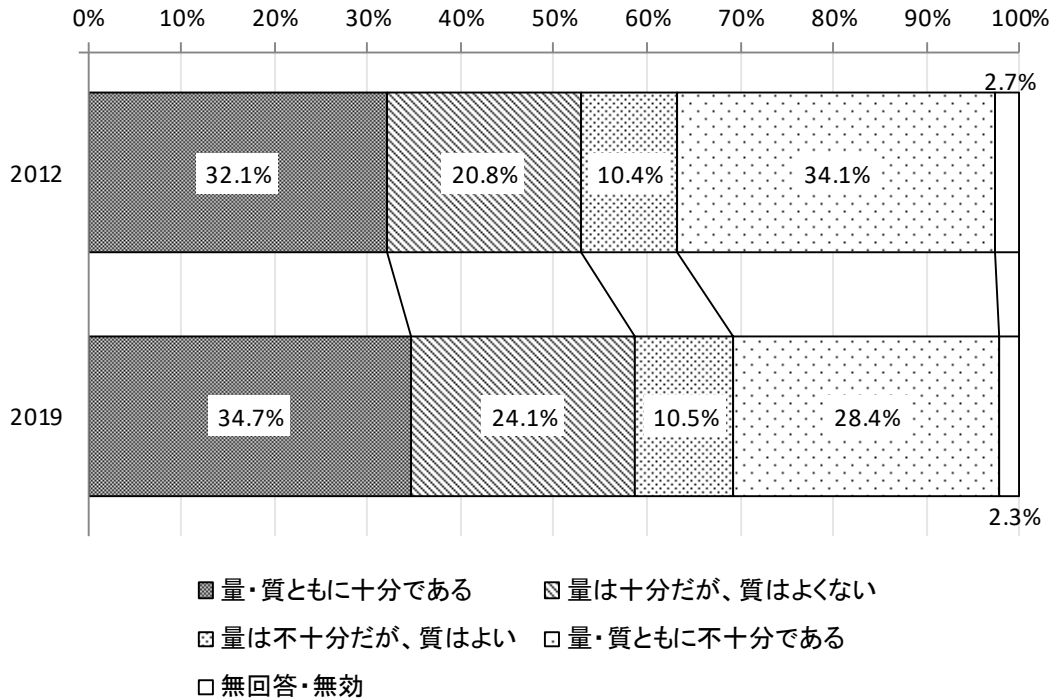
身近なみどり別にみると、「量・質ともに十分である」は、全項目で3割を越えており、「量・質ともに不十分である」は、【大きな工場のある工業地のみどり】(40.4%)のみ4割を超えている。



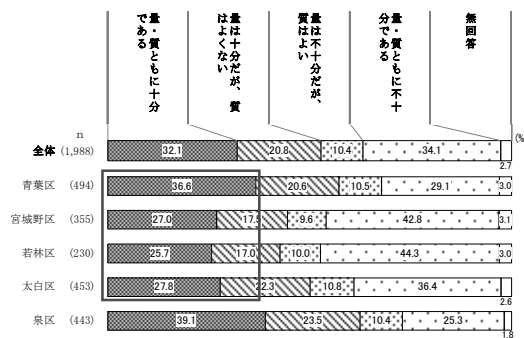
● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「量・質ともに十分である」が増加し、「量・質ともに不十分」の割合が減少している。

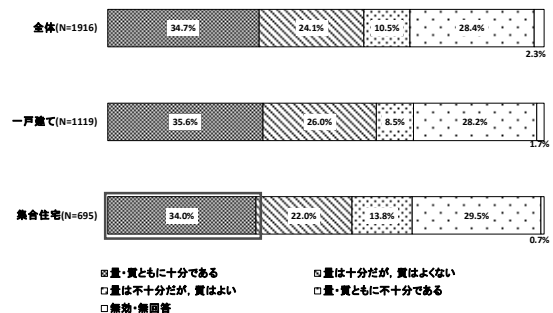
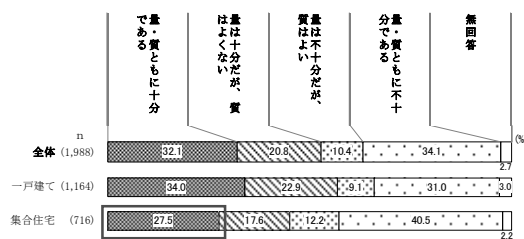
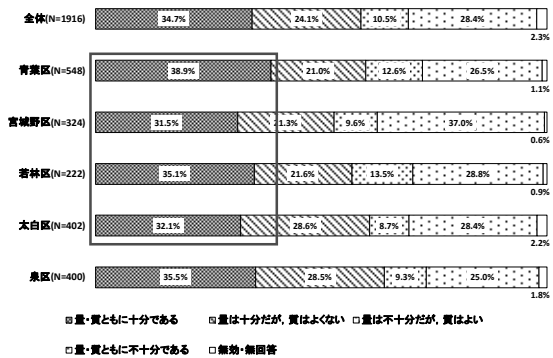
また、居住地区別の【泉区】を除く各区は「量・質ともに十分である」が増加し、現在の住まい別の【集合住宅】は「量・質ともに十分である」が大きく増加している。



「2012年調査」



「2019年調査」

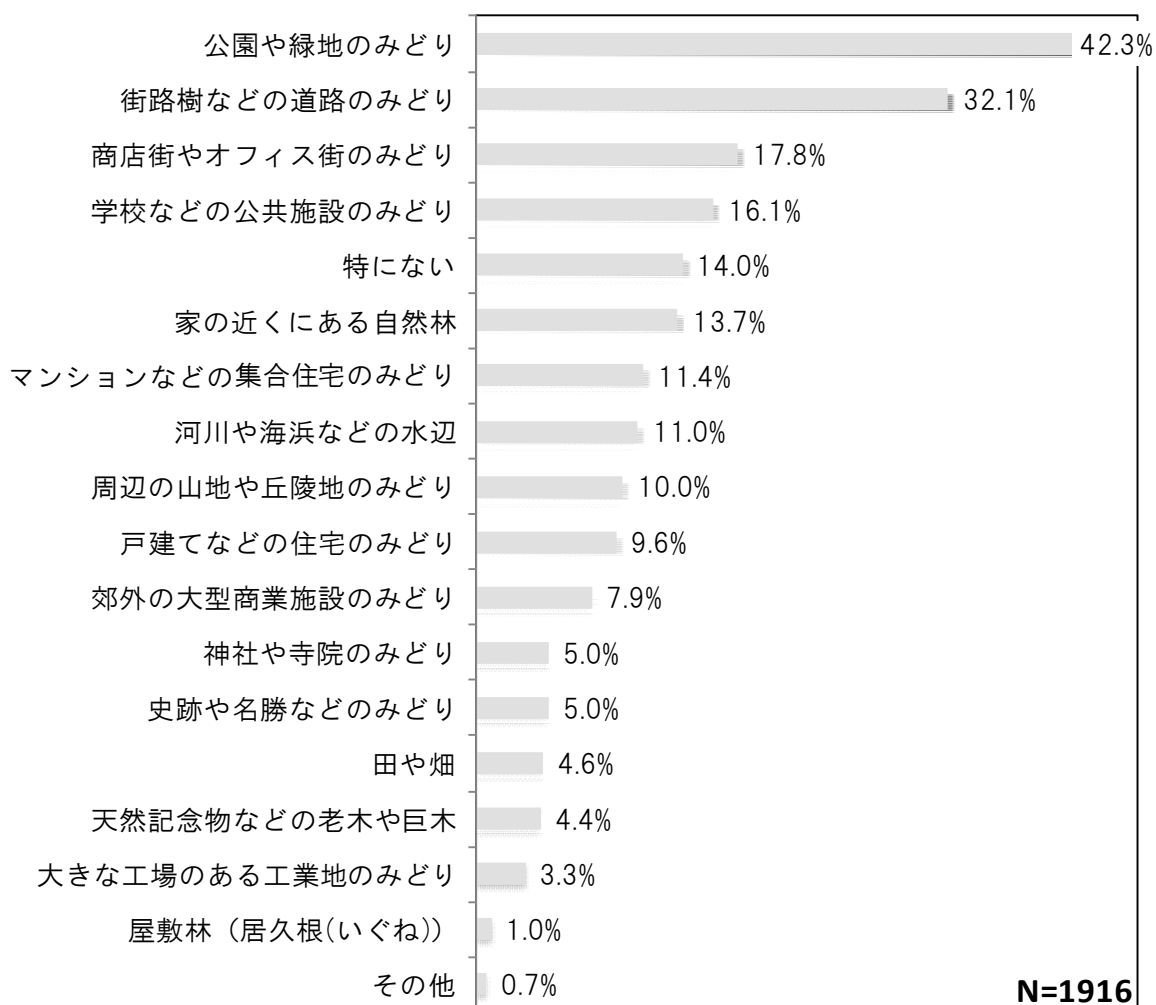


(3)欲しいと思う身近なみどり

欲しいと思う身近なみどりについては、「公園や緑地のみどり」(42.3%)が最も多く、次いで「街路樹などの道路のみどり」(32.1%)、「商店街やオフィス街のみどり」(17.8%)、「学校などの公共施設のみどり」(16.1%)となっている。

問 10 あなたがもっと欲しいと思う、身近なみどりは何ですか。

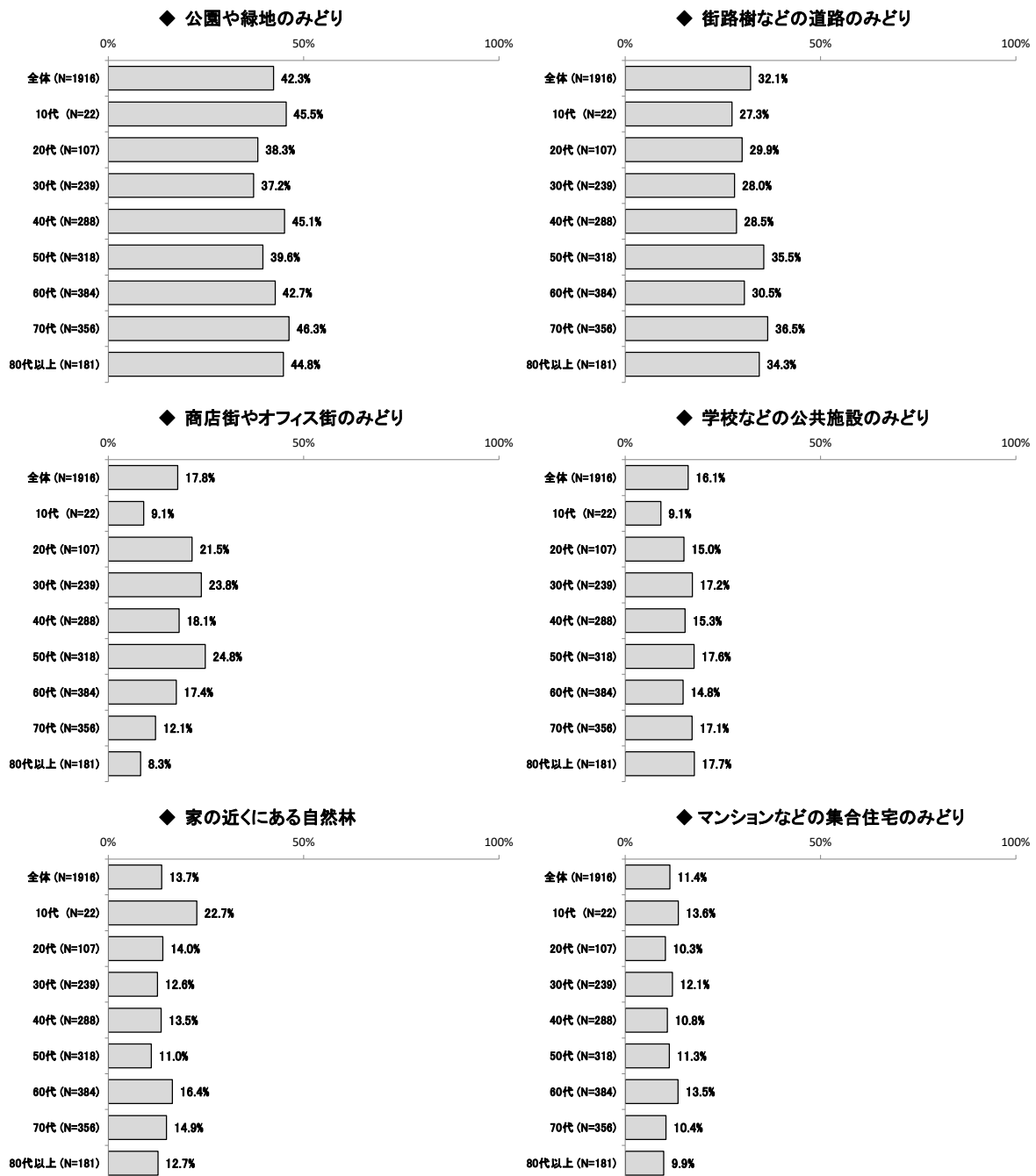
(主にあてはまる番号3つまでに○)



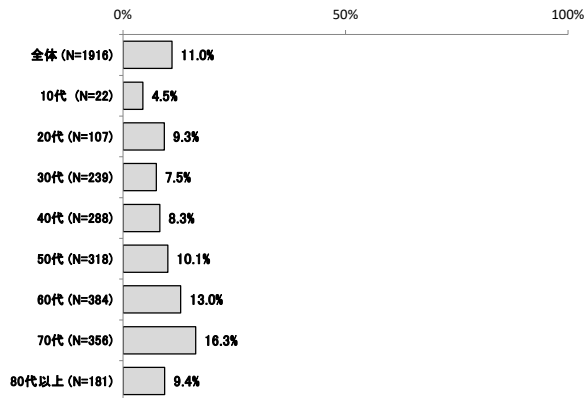
● 年代別 ●

年代別にみると、「商店街やオフィス街のみどり」は、【50代】以降の年代では減少している。

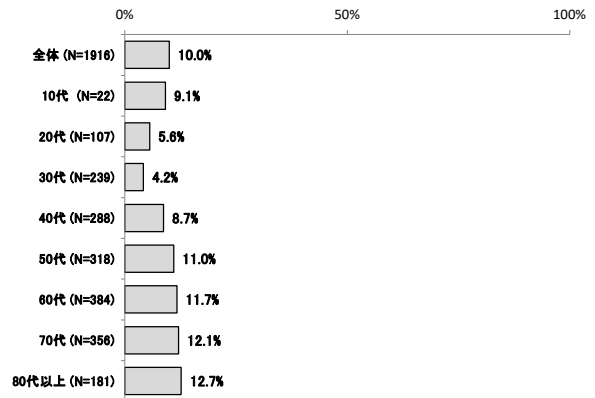
※上位10項目のみ抜粋



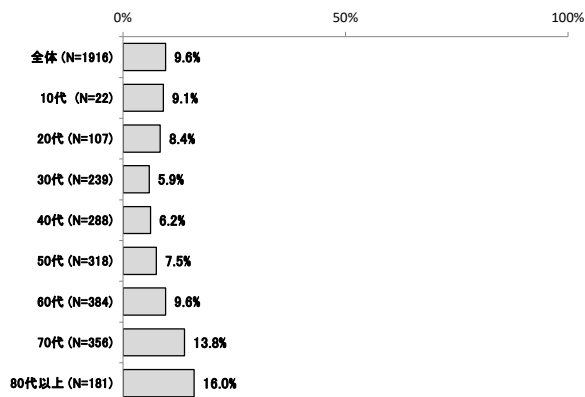
◆ 河川や海浜などの水辺



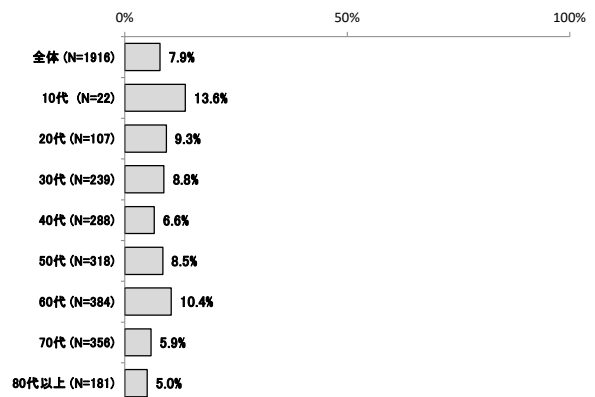
◆ 周辺の山地や丘陵地のみどり



◆ 戸建てなどの住宅のみどり

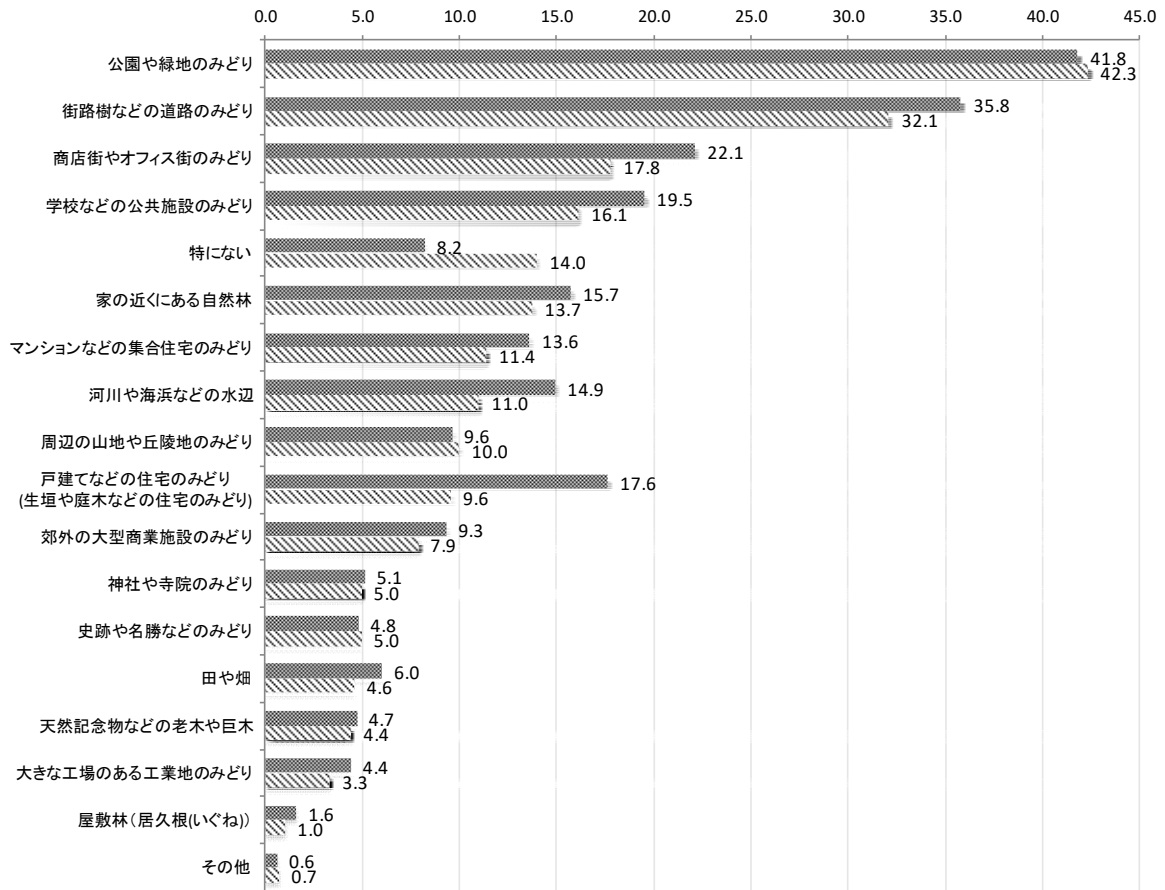


◆ 郊外の大型商業施設のみどり



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、身近なみどりの満足度が上昇傾向にあり、全体的に大きな変化はみられないが、「戸建てなどの住宅のみどり」のみ大きく減少している。



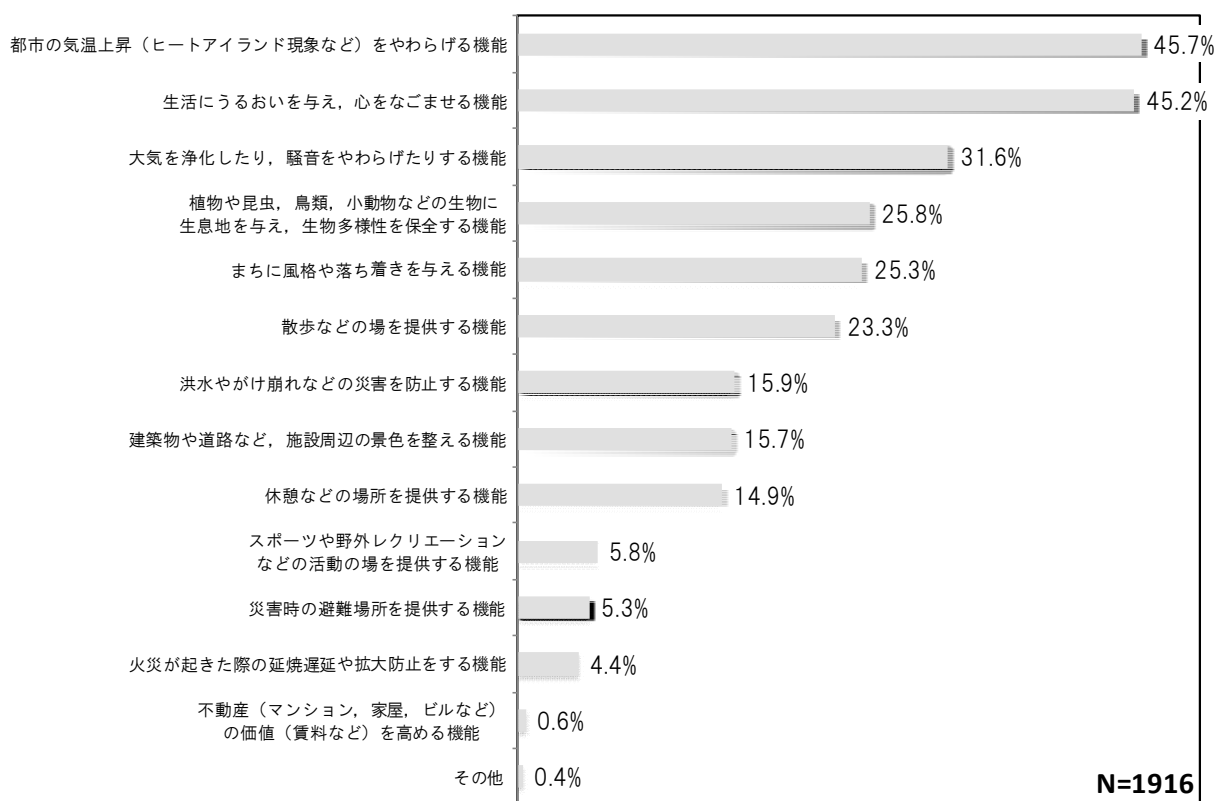
■ 2012年 □ 2019年

(4)身近なみどりに期待する機能

身近なみどりに期待する機能については、「都市の気温上昇（ヒートアイランド現象など）をやわらげる機能」（45.7%）が最も多く、次いで「生活にうるおいを与え、心をなごませる機能」（45.2%）、「大気を浄化したり、騒音をやわらげたりする」（31.6%）、「植物や昆虫、鳥類、小動物などの生物に生息地を与え、生物多様性を保全する機能」（25.8%）、「まちに風格や落ち着きを与える機能」（25.3%）となっている。

問 11 身近なみどりは皆さんの生活の質を高めるための様々な機能を持っています。身近なみどりの機能の中で、特にあなたが期待するものは何ですか。

（主にあてはまる番号3つまでに○）

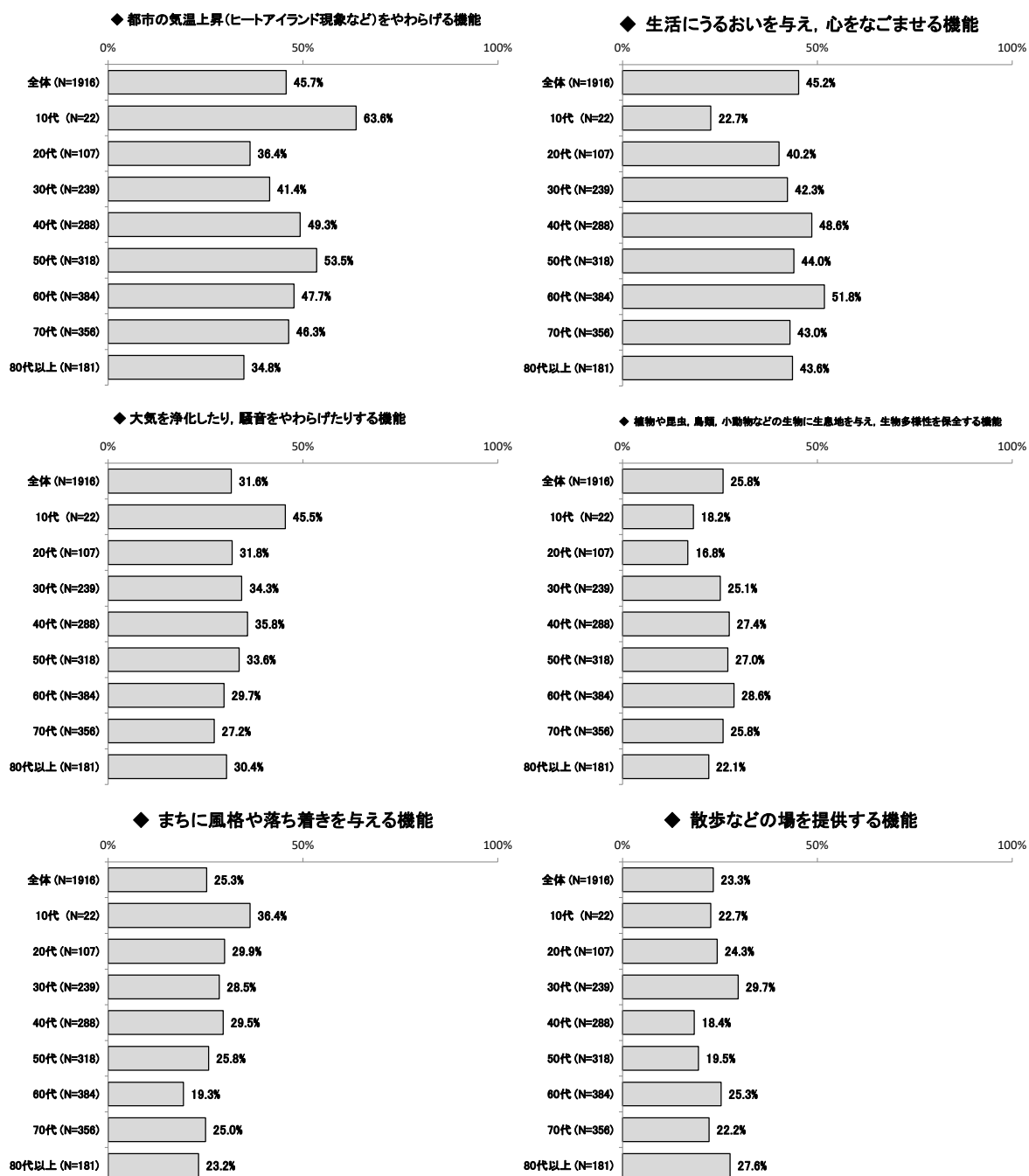


● 年代別 ●

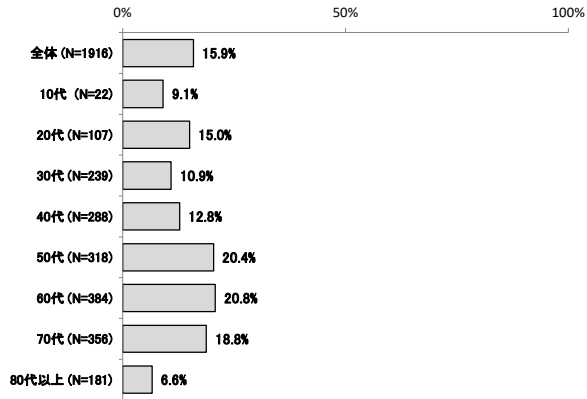
年代別にみると、「生活にうるおいを与え、心をなごませる機能」は、【10代】(22.7%)を除く各年代で4割以上と多くなっている。

また、「建築物や道路など、施設周辺の景色を整える機能」は、【10代】から【30代】は、全体より多くなっている。

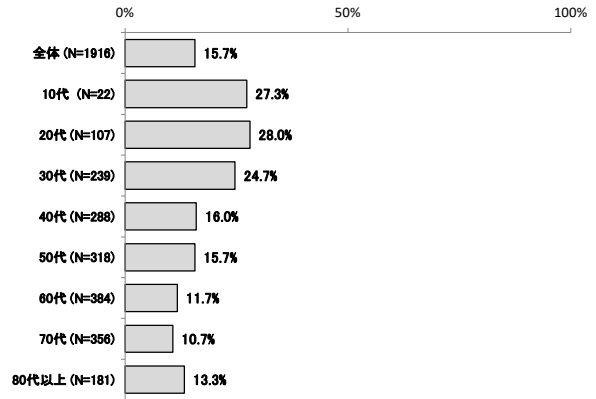
※上位10項目のみ抜粋



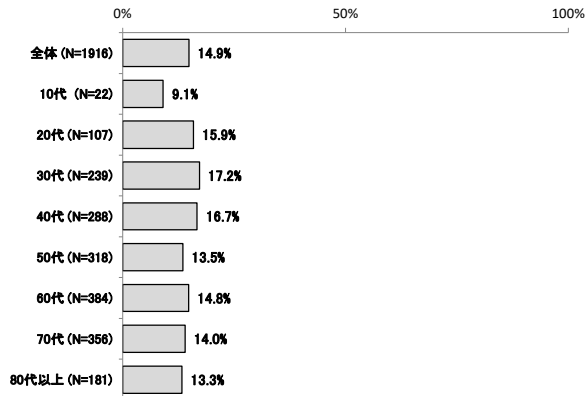
◆ 洪水やがけ崩れなどの災害を防止する機能



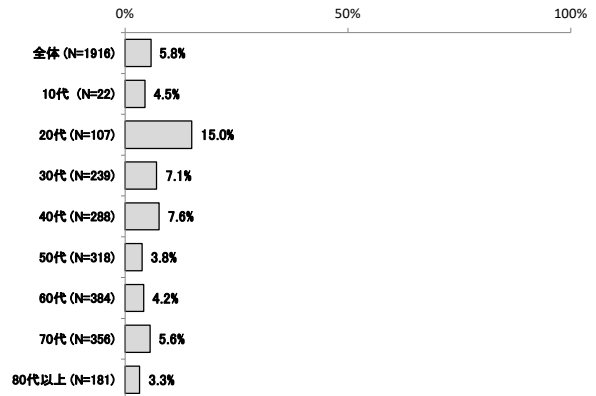
◆ 建築物や道路など、施設周辺の景色を整える機能



◆ 休憩などの場所を提供する機能

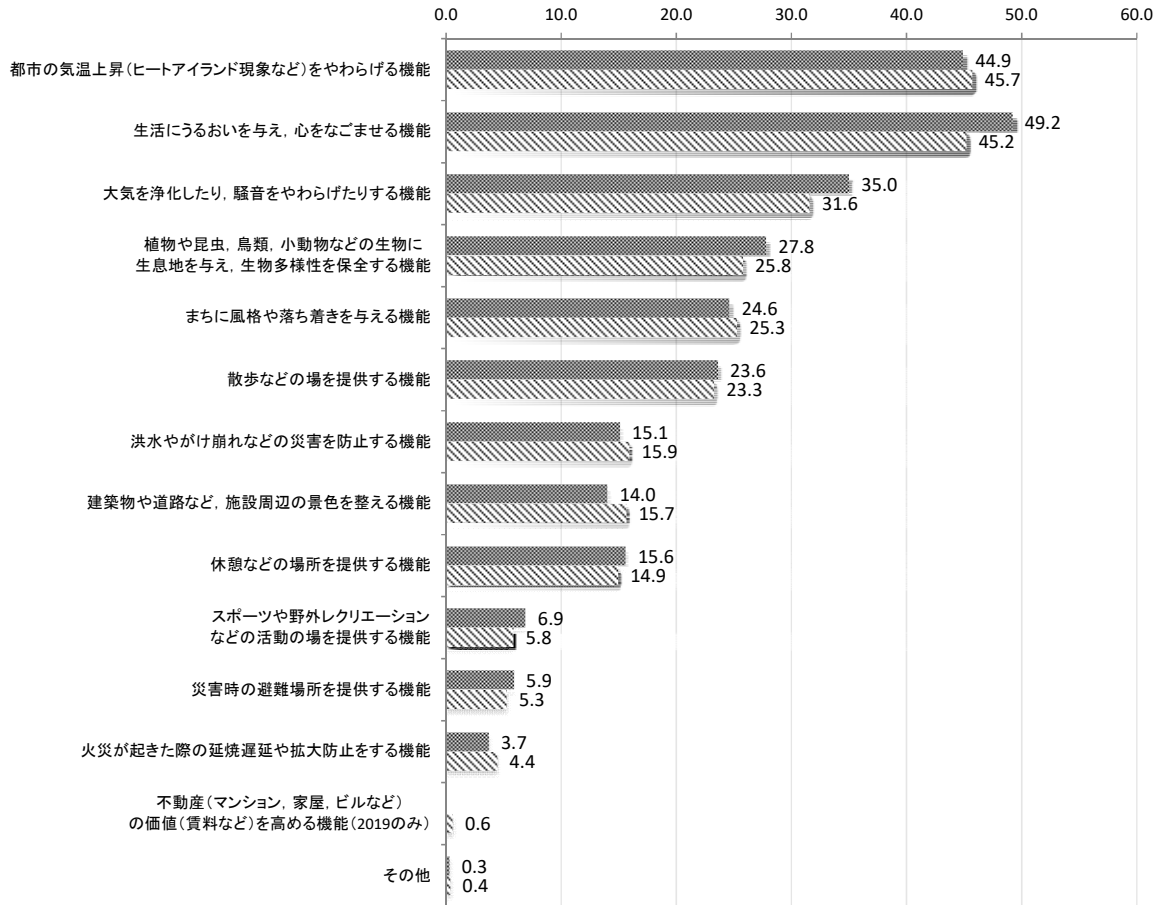


◆ スポーツや野外レクリエーションなどの活動の場を提供する機能



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、全体的に大きな変化はみられず、気温上昇の軽減やリラックス効果など生活環境を改善する機能への期待が高い。



■ 2012 ▨ 2019

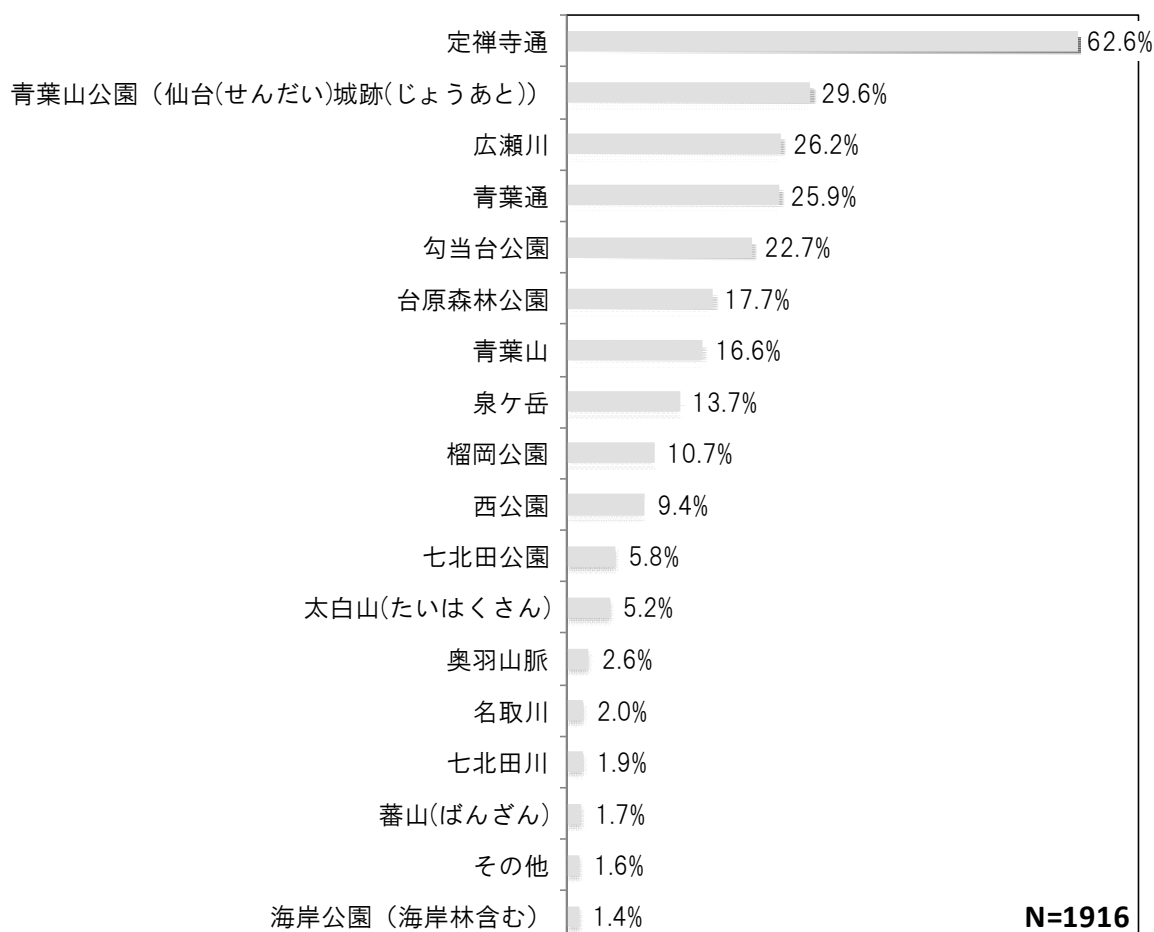
2. 「杜の都」という言葉について

(1)「杜の都」を代表するみどり

「杜の都」を代表するみどりについては、「定禅寺通」(62.6%)が最も多く、次いで「青葉山公園(仙台(せんだい)城跡(じょうあと))」(29.6%)、「広瀬川」(26.2%)、「青葉通」(25.9%)、「勾当台公園」(22.7%)となっている。

問 12 あなたが思う「杜の都」を代表するみどりとは何ですか。

(主にあてはまる番号3つまでに○)

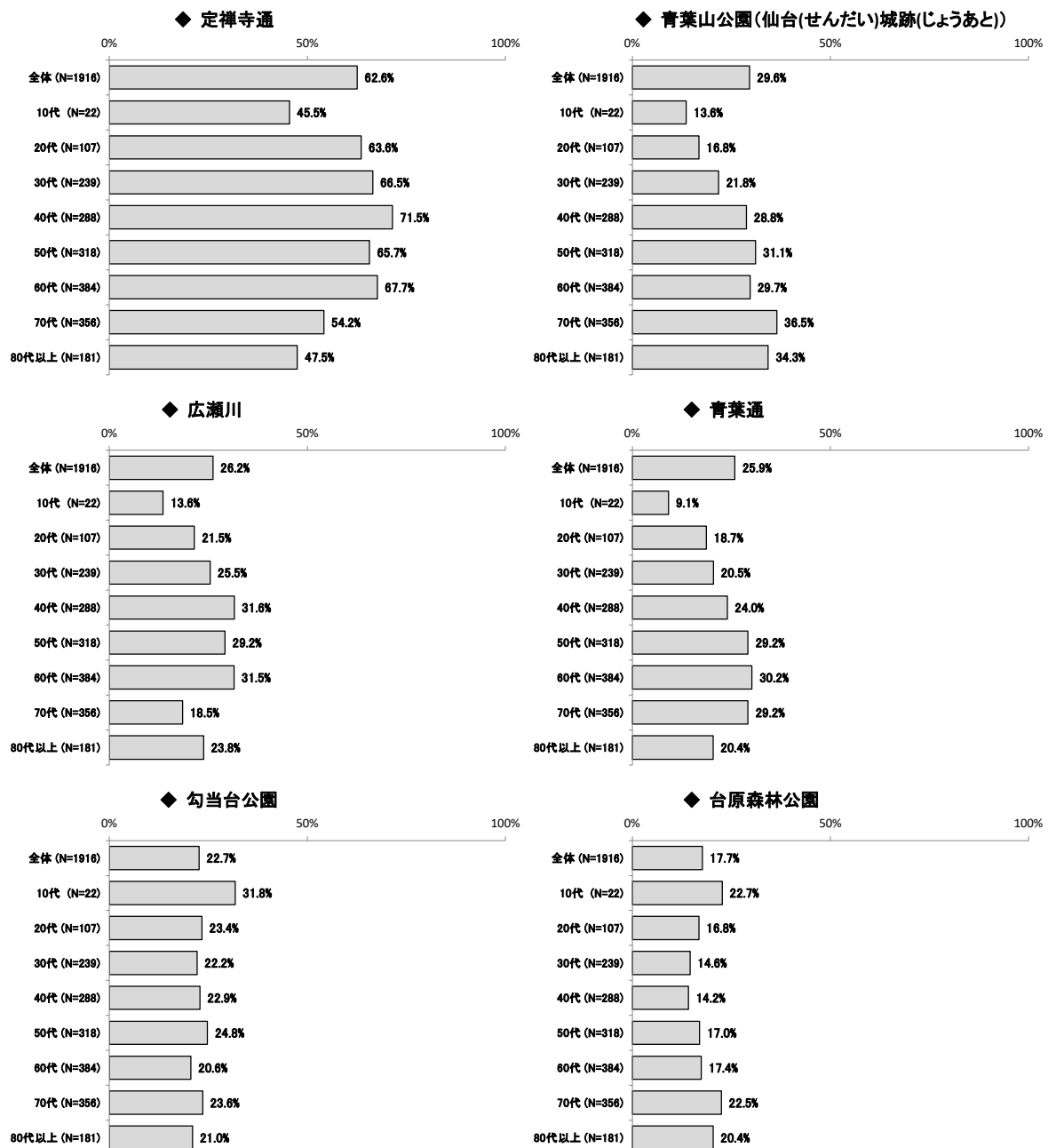


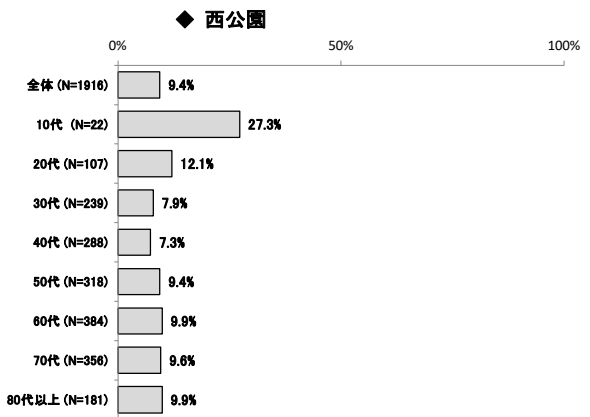
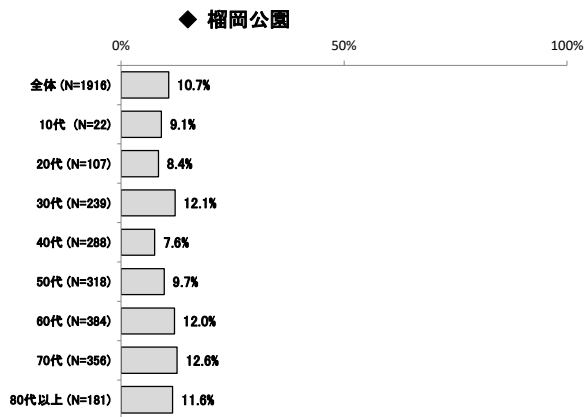
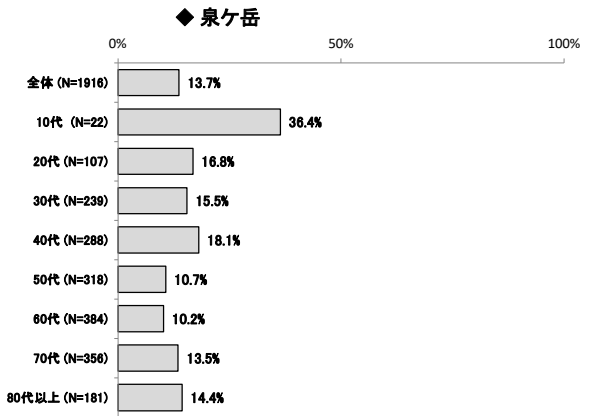
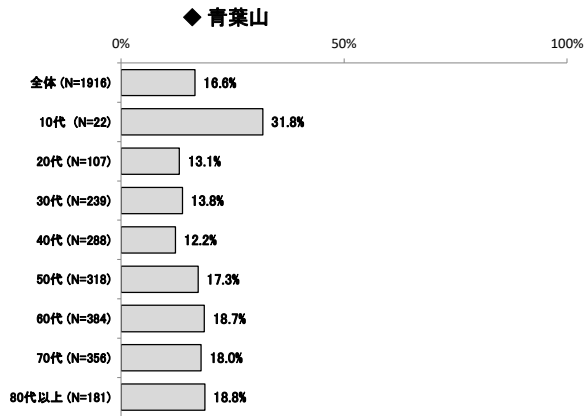
● 年代別 ●

年代別にみると、「定禅寺通」は【40代】(71.5%)をピークに、以降の年代では減少している。

「青葉山公園(仙台(せんだい)城跡(じょうあと))」、「青葉通」は、【80代以上】を除き、【10代】以降は概ね年代が上がるごとに割合が高くなっている。

※上位10項目のみ抜粋

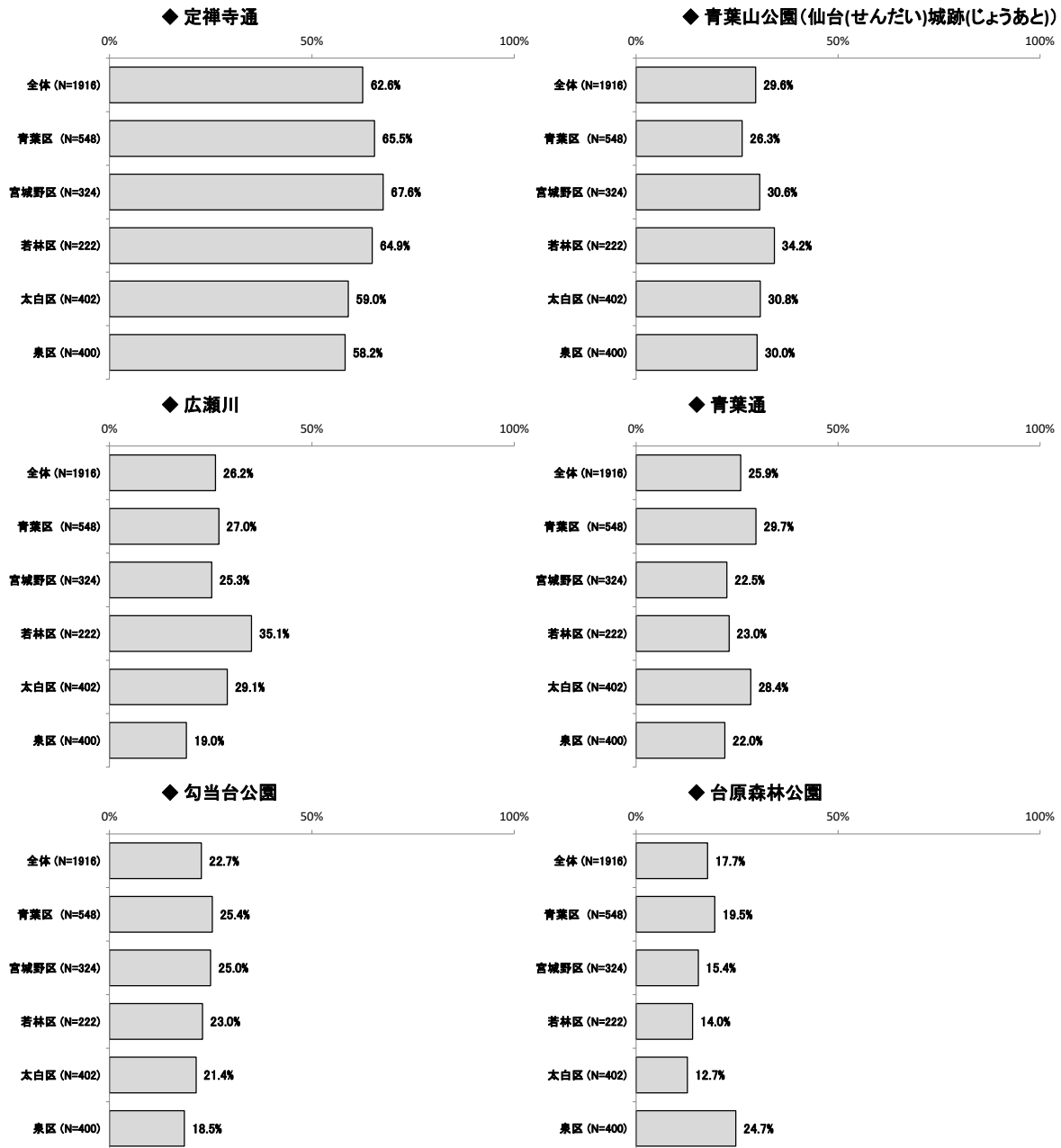


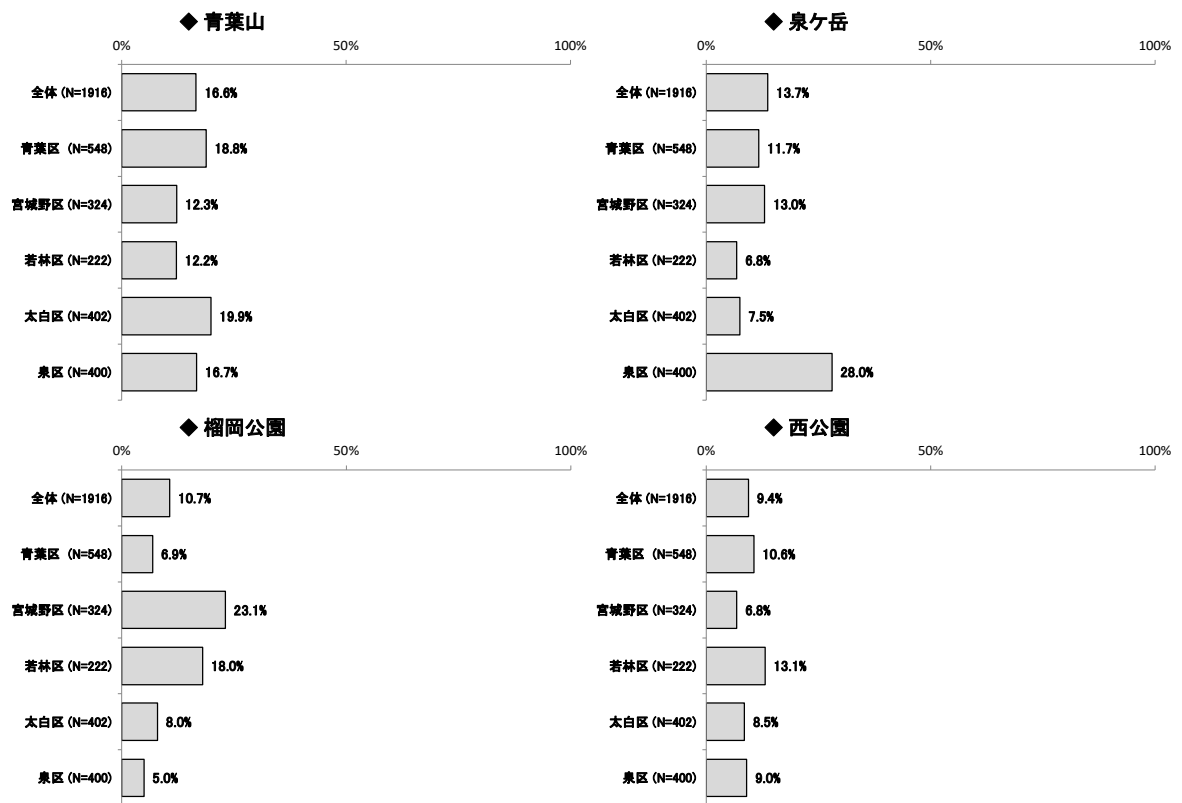


● 居住地区別 ●

居住地区別にみると、「広瀬川」は【若林区】(35.1%)、「台原森林公園」は【泉区】(24.7%)、「泉ヶ岳」は【泉区】(28.0%)、「榴岡公園」は【宮城野区】(23.1%)で、それぞれ他の区に比べて多くなっている。

※上位10項目のみ抜粋

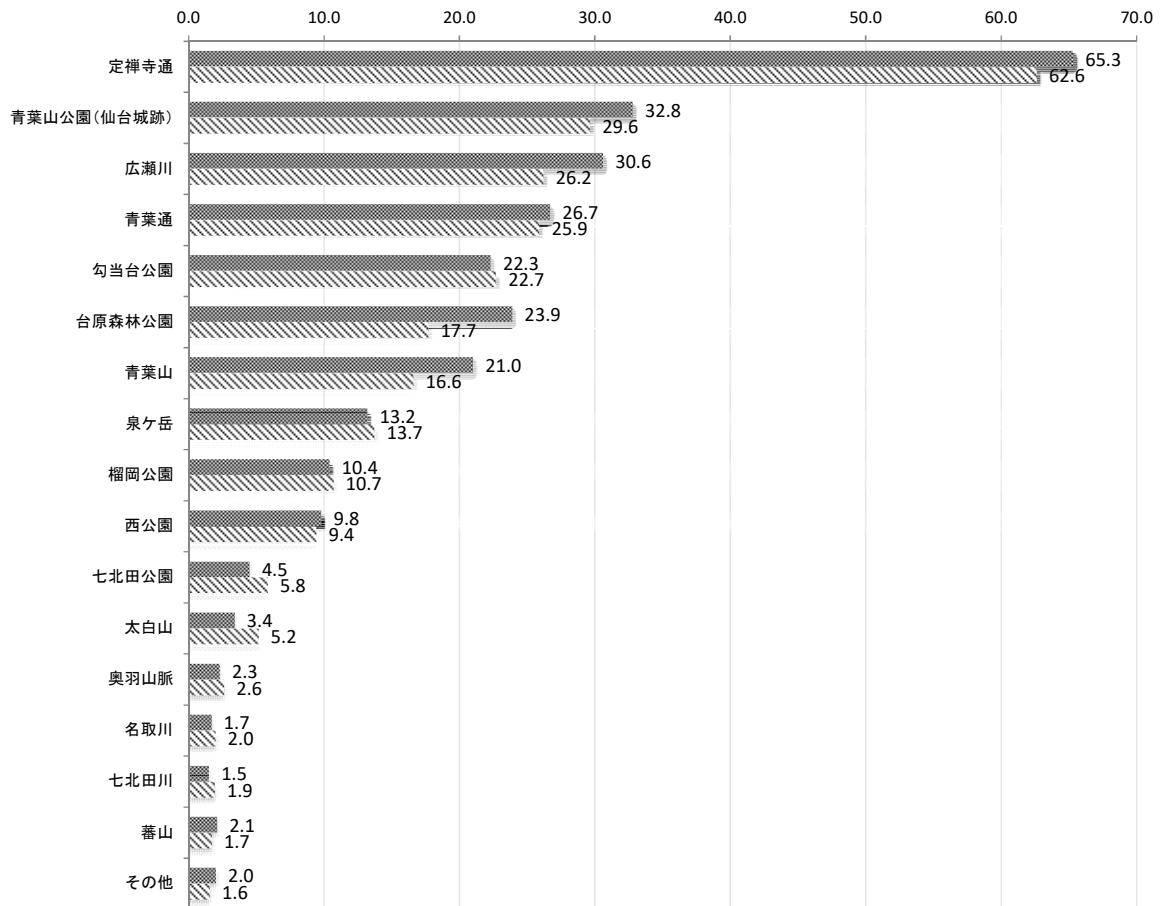




● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「定禅寺通」や「青葉山公園（仙台城跡）」などがこれまでと同様に代表的なみどりとして認識されている一方で、「泉ヶ岳」や「榴岡公園」、「七北田公園」、「太白山」などの身近なみどりも杜の都のみどりとしての認識が高まっている。

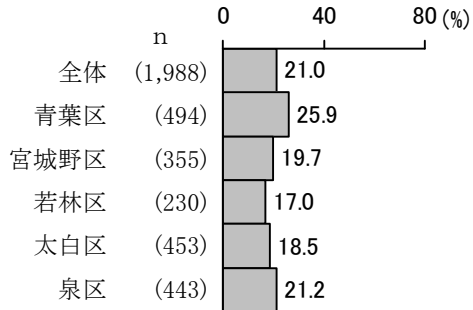
また、「青葉山」や「台原森林公園」はほとんどの区において減少している。



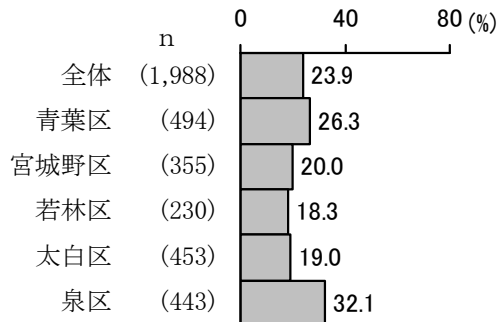
■ 2012 ■ 2019

「2012年調査」

□ 青葉山

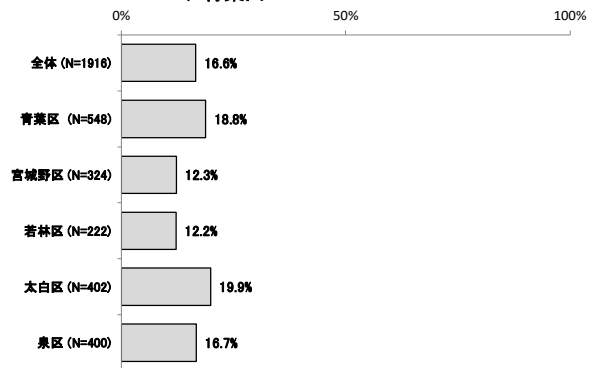


□ 台原森林公園

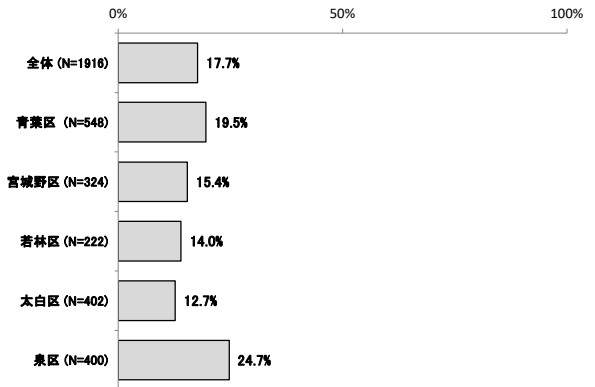


「2019年調査」

◆ 青葉山



◆ 台原森林公園

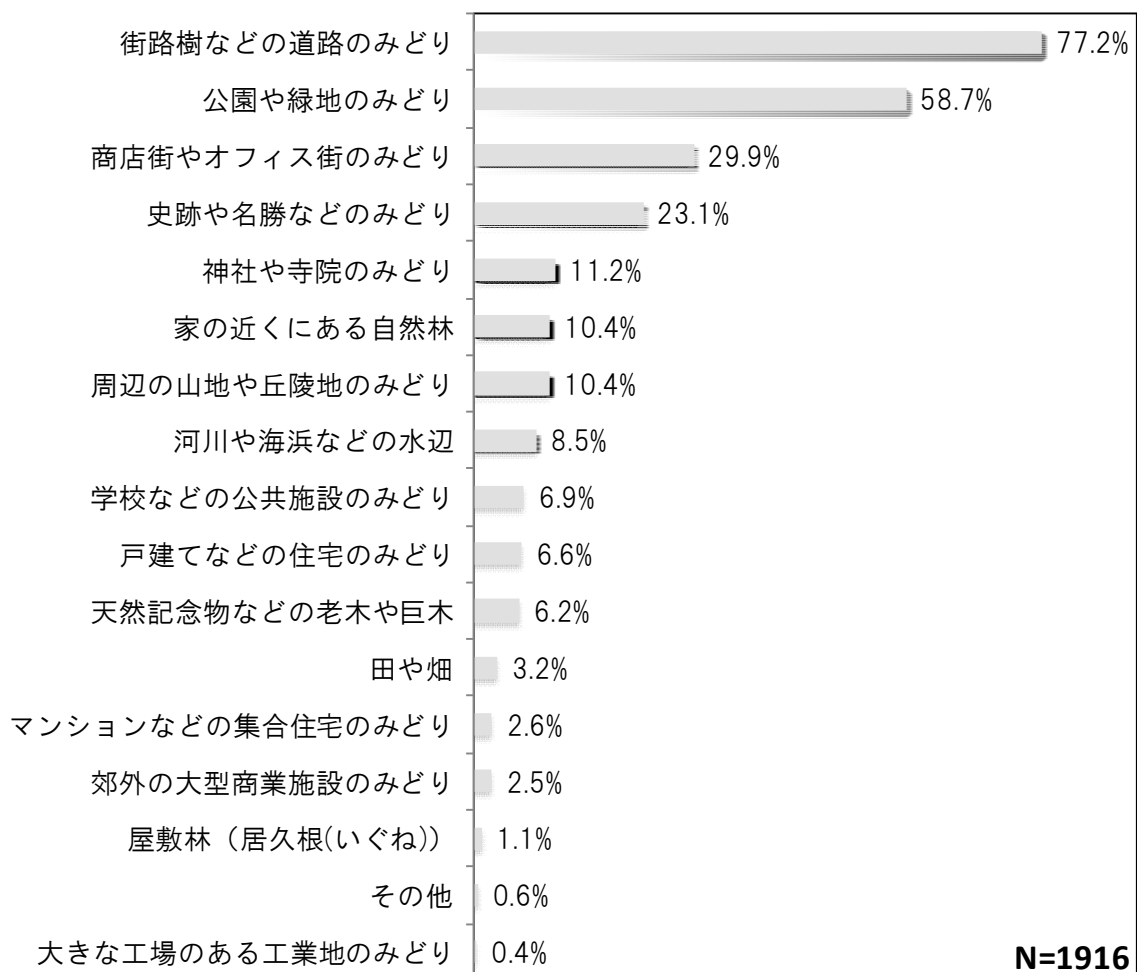


(2)「杜の都」という言葉から思い描くみどり

「杜の都」という言葉から思い描くみどりについては、「街路樹などの道路のみどり」(77.2%)が最も多く、次いで「公園や緑地のみどり」(58.7%)、「商店街やオフィス街のみどり」(29.9%)、「史跡や名勝などのみどり」(23.1%)、「神社や寺院のみどり」(11.2%)となっている。

問 13 「杜の都」という言葉からどのようなみどりが沢山ある街を思い描きますか。

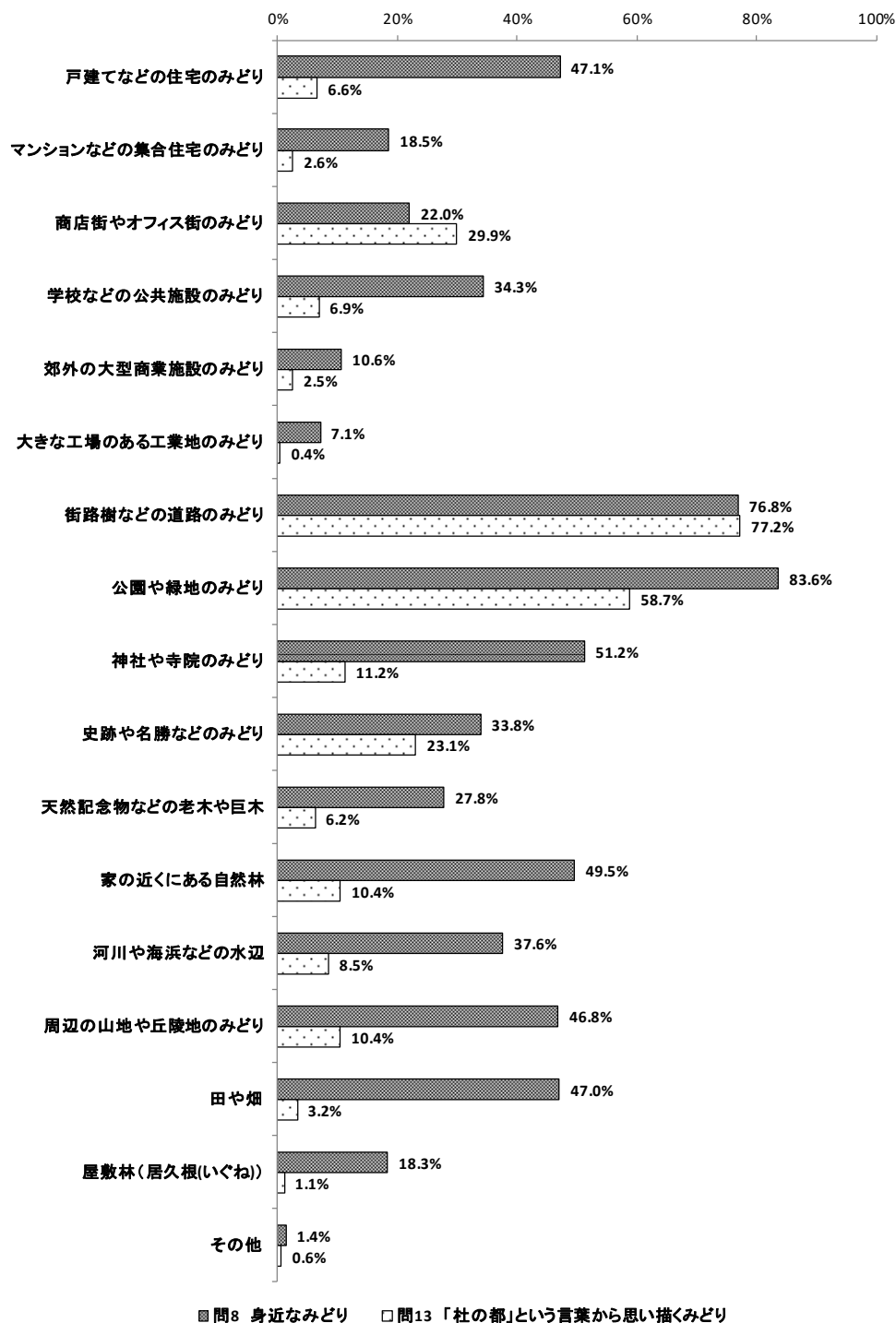
(主にあてはまる番号3つまでに○)



● 身近なみどりと杜の都のみどりの比較 ●

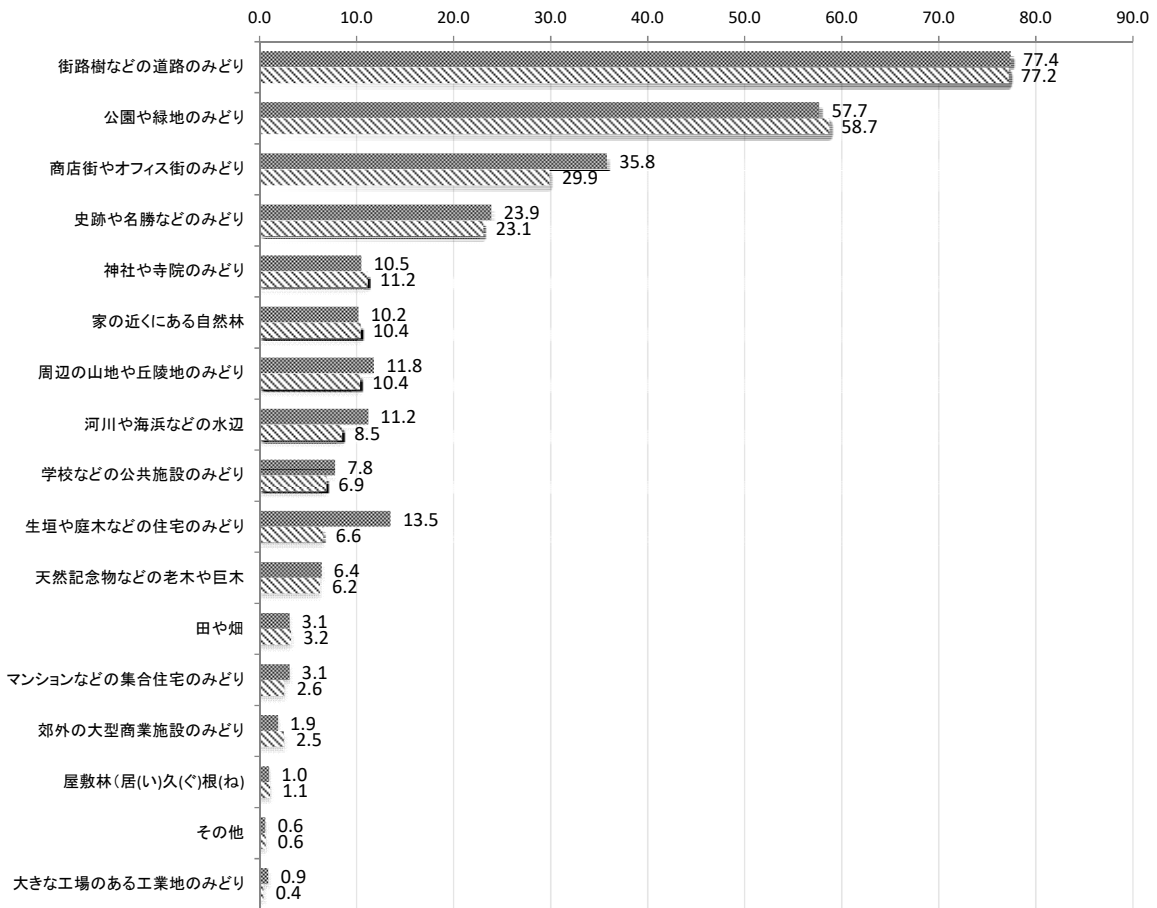
『問8 身近なみどり』と、『問13 「杜の都」という言葉から思い描くみどり』を比較すると、「街路樹などの道路のみどり」、「公園や緑地のみどり」は、両設問に共通して多い。

また、「戸建てなどの住宅のみどり」は、身近なみどりでは47.1%と多いが、「杜の都」という言葉から思い描くみどりでは6.6%と少なくなっている。一方、「商店街やオフィス街のみどり」は、身近なみどりでは22.0%となっているが、「杜の都」という言葉から思い描くみどりでは、29.9%と多くなっている。



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「街路樹などの道路のみどり」や「公園や緑地のみどり」の上位に変動はない。「商店街やオフィス街のみどり」、「生垣や庭木などの住宅のみどり」の回答割合が減少しているが、それ以外の選択肢に大きな変化はみられない。



■ 2012 ▨ 2019

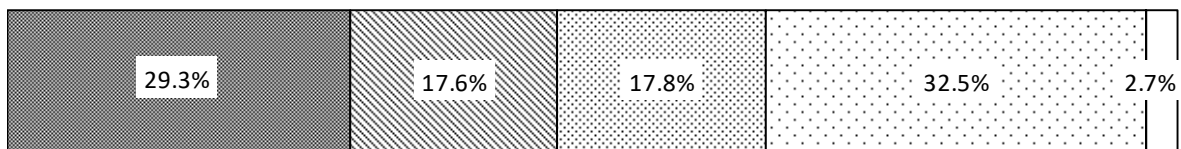
(3)「杜の都」という言葉からみるみどりの満足度

「杜の都」という言葉からみるみどりの満足度については、「量・質ともに不十分である」(32.5%)が最も多く、次いで「量・質ともに十分である」(29.3%)、「量は不十分だが、質はよい」(17.8%)、「量は十分だが、質はよくない」(17.6%)となっている。

問 14 「杜の都」という言葉から現在の仙台をみたときに、あなたはみどりの量や質についてどのような印象を持っていますか。

※「質」とは、みどりが持っている機能のことで、具体的には、生活環境を良くする、生物を保全する、景観を良くする、癒し(いやし)になるなどの機能のことです。

(あてはまる番号1つに○)



■ 量・質ともに十分である

▨ 量は十分だが、質はよくない

▩ 量は不十分だが、質はよい

□ 量・質ともに不十分である

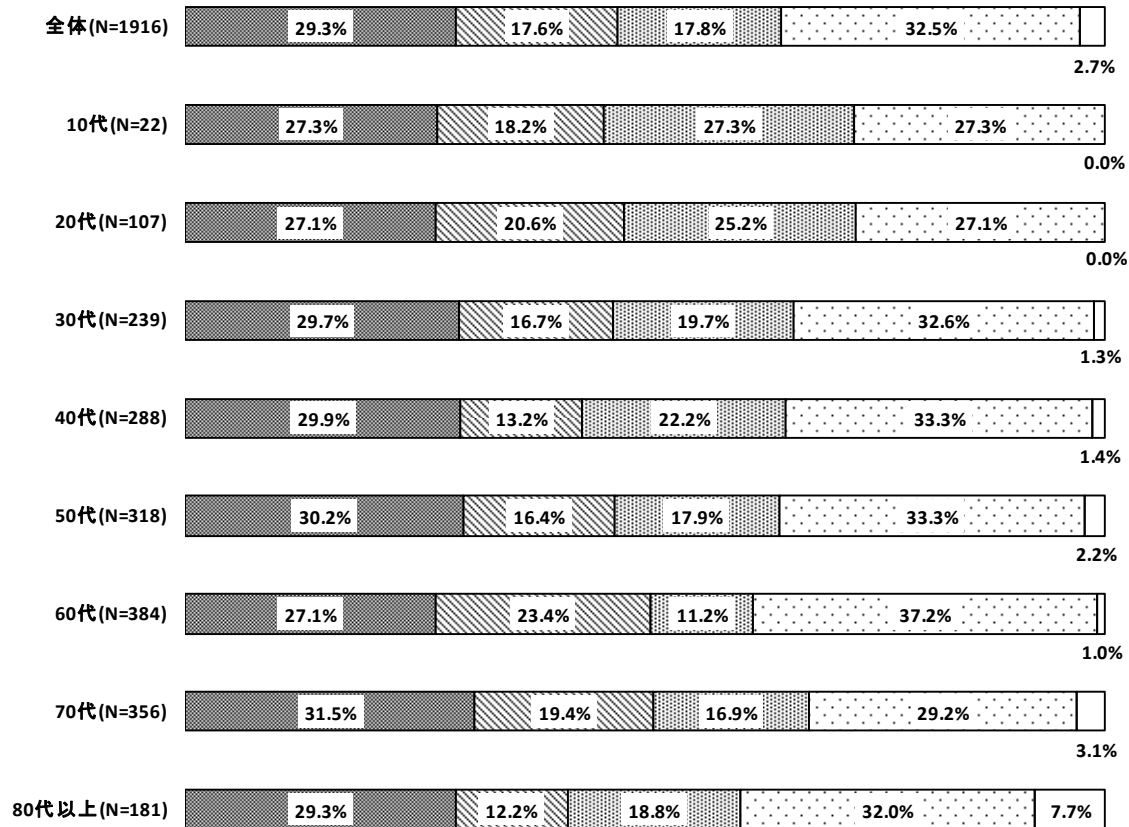
□ 無回答・無効

N=1916

● 年代別 ●

年代別にみると、【20代】から【60代】にかけて、「量・質ともに不十分である」が、年代が上がるに従って多くなる傾向にある。

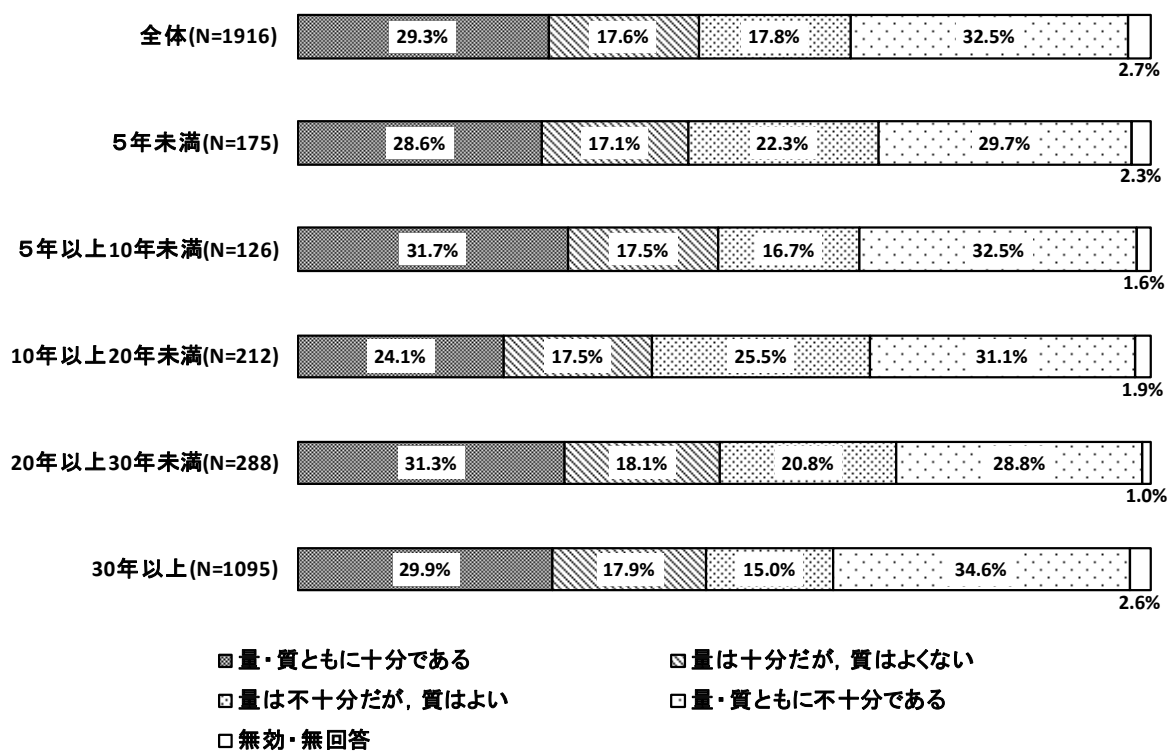
一方、【20代】から【50代】にかけて、「量・質ともに十分である」が、年代が上がるに従って多くなる傾向にある。



量・質ともに十分である
 量は十分だが、質はよくない
 量は不十分だが、質はよい
 量・質ともに不十分である
 無効・無回答

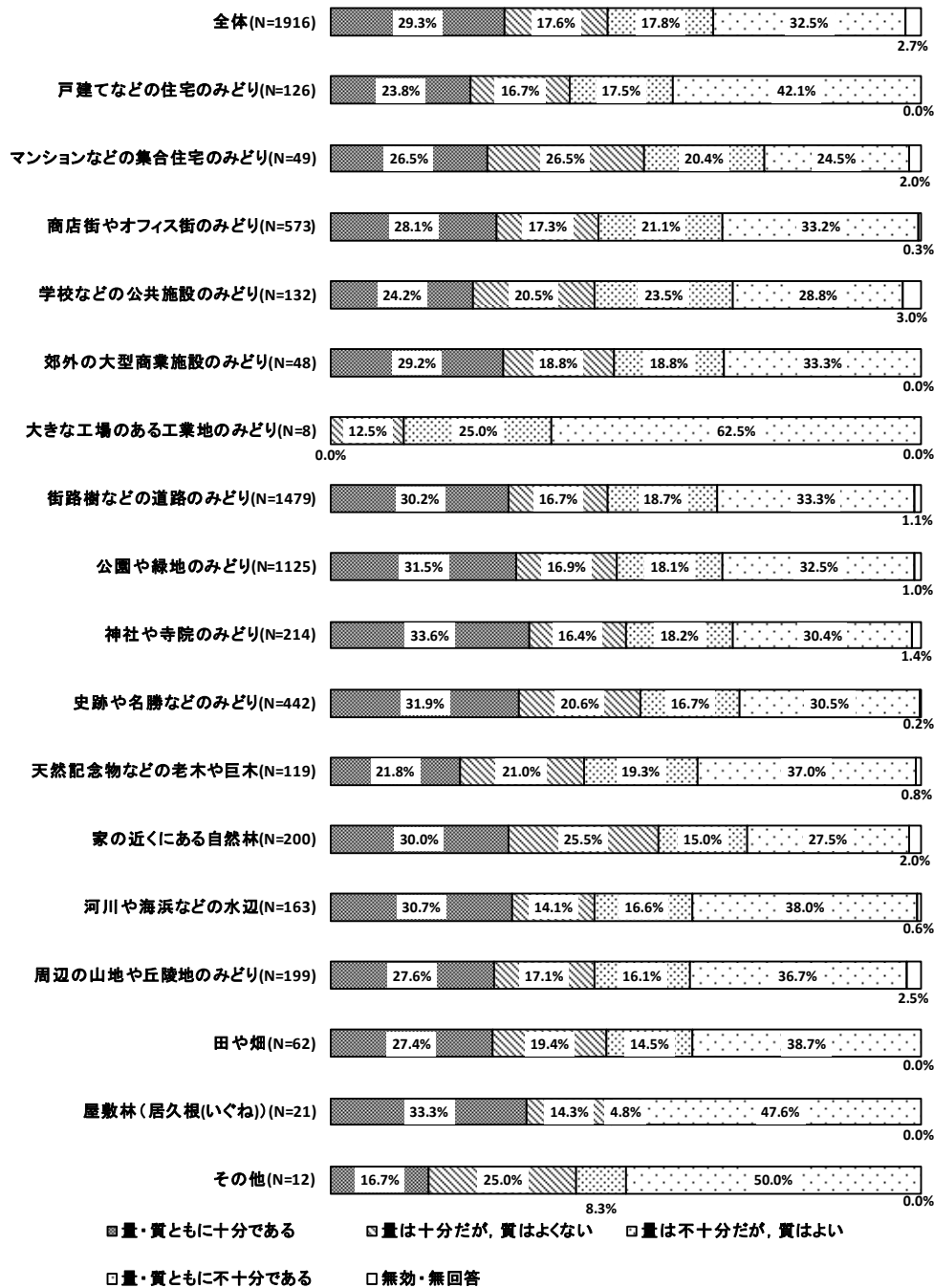
● 居住年数別 ●

居住年数別にみると、「量・質ともに十分である」は、【5年以上10年未満】(31.7%)、【20年以上30年未満】(31.3%)で3割を超えており、他の居住年数に比べて多くなっている。



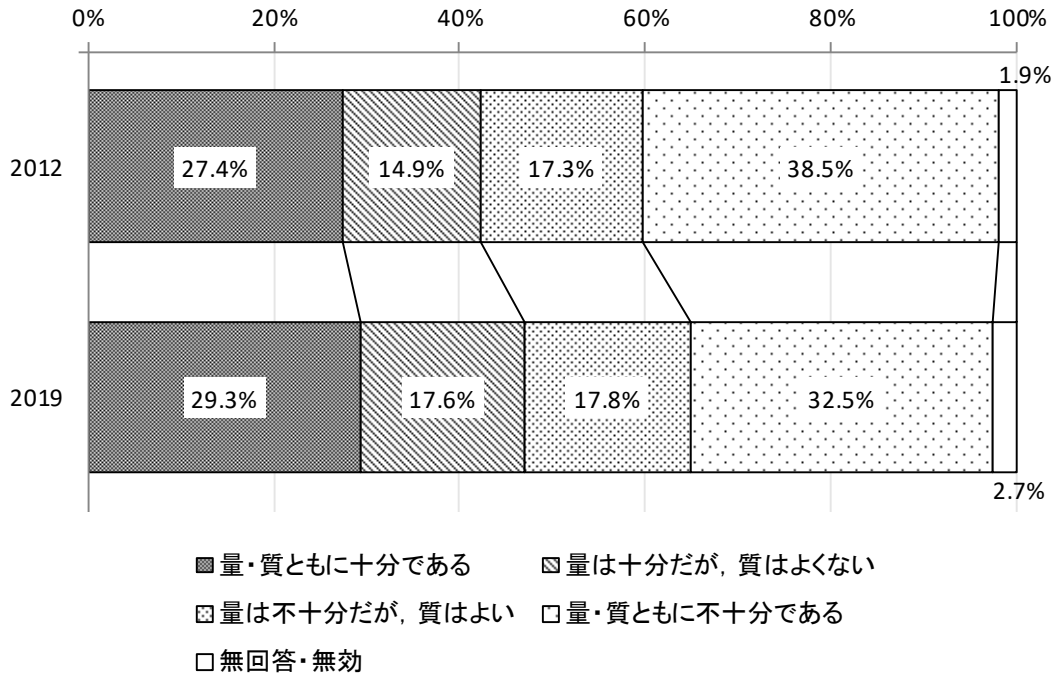
● 「杜の都」という言葉から思い描くみどり(問13)別 ●

「杜の都」という言葉から思い描くみどり別にみると、「量・質ともに十分である」は、【神社や寺院のみどり】(33.6%)、【屋敷林(居久根(いぐね))】(33.3%)、【史跡や名勝などのみどり】(31.9%)、【公園や緑地のみどり】(31.5%)などが3割を超え、多くなっている。一方、「量・質ともに不十分である」は、【大きな工場のある工業地のみどり】(62.5%)、【屋敷林(居久根(いぐね))】(47.6%)、【戸建てなどの住宅のみどり】(42.1%)で4割を超え、多くなっている。



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「量・質ともに十分である」、「量は十分だが、質はよくない」が増加し、量に関する満足度は高まっている。



3. これから先の仙台市のみどりのまちづくりについて

(1) 樹林地などの身近なみどりの保全について

① 自然のみどりの保全と都市開発との調和の方向性

自然のみどりの保全と都市開発との調和の方向性については、「必要な開発はやむを得ないが、できるだけみどりを残し、新たなみどりをつくる努力をする」(67.3%)が最も多く、次いで「これ以上の開発は不必要であり、現状維持にとどまらず環境を回復させる」(24.2%)、「特に保全する必要はなく、自然の成り行きに任せるのがよい」(2.6%)となっている。

問 15 市街地にある樹林地などの自然のみどりの保全と、都市開発との調和について、どのようにしていくべきだと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

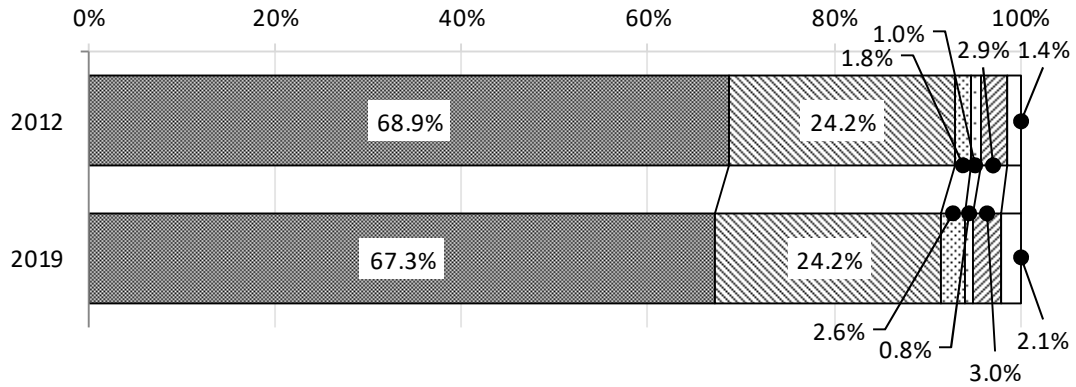


- 必要な開発はやむを得ないが、できるだけみどりを残し、新たなみどりをつくる努力をする
- これ以上の開発は不必要であり、現状維持にとどまらず環境を回復させる
- 特に保全する必要はなく、自然の成り行きに任せるのがよい
- その他
- わからない
- 無回答・無効

N=1916

● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、自然のみどりの保全と都市開発との調和の方向性に、大きな変化はみられない。



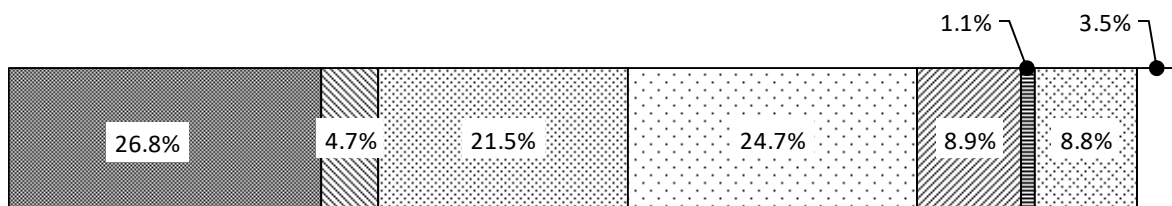
- 必要開発はやむを得ないが、できるだけみどりを残し、新たなみどりをつくる努力
- これ以上の開発は不必要であり、現状維持にとどまらず環境を回復
- 特に保全する必要はなく、自然の成り行きに任せる
- その他
- わからない
- 無回答・無効

②私有地のみどりの保全方法

私有地のみどりの保全方法については、「個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限する」(26.8%)が最も多く、次いで「所有者の意向を踏まえながら、町内会や市民活動団体などが保全活動に参加する」(24.7%)、「市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり、募金をつのる」(21.5%)となっている。

問 16 市街地にある樹林地などの自然のみどりの多くは、個人や企業の土地となっています。これらを保全する方法として、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。

(あてはまる番号1つに○)



- 個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限する
- 他の行政サービスが減ったり、市民の負担が増えたりしても、行政(税金)で土地を買い取って保全する
- 市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり、募金をつのる
- 所有者の意向を踏まえながら、町内会や市民活動団体などが保全活動に参加する
- 個人の土地なので、保全するのも開発するのも個人の意志に任せる
- その他
- わからない
- 無回答・無効

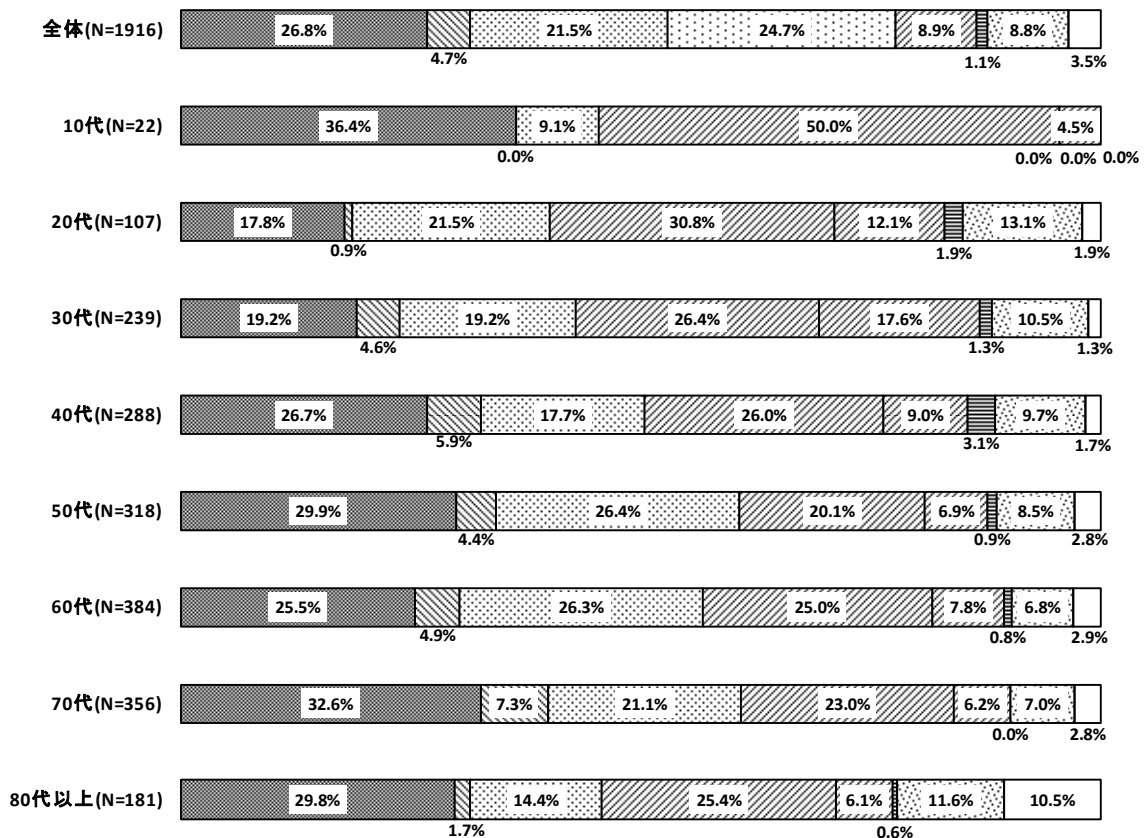
N=1916

● 年代別 ●

年代別にみると、【40代】、【50代】及び【70代】以降では、「個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限する」が最も多くなっている。

【60代】では、「市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり、募金をつのる」が最も多くなっている。

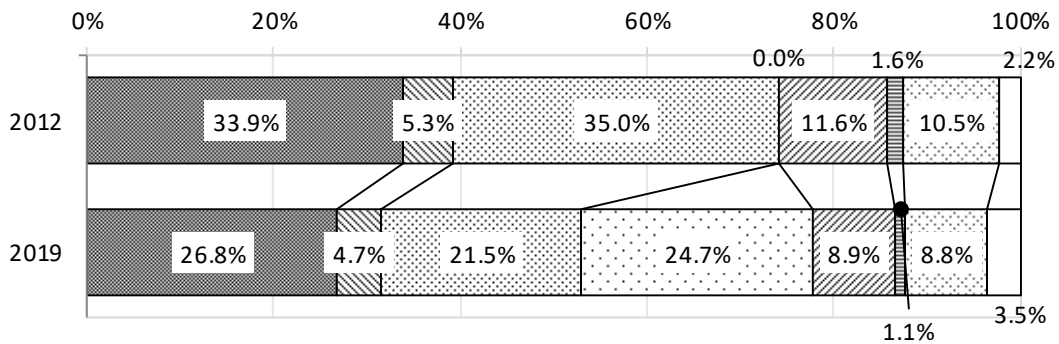
【10代】から【30代】では、「所有者の意向を踏まえながら、町内会や市民活動団体などが保全活動に参加する」が最も多くなっている。



- 個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限する
- 他の行政サービスが減ったり、市民の負担が増えたりしても、行政(税金)で土地を買い取って保全する
- 市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり、募金をつのる
- 所有者の意向を踏まえながら、町内会や市民活動団体などが保全活動に参加する
- 個人の土地なので、保全するのも開発するのも個人の意志に任せる
- その他
- わからない
- 無効・無回答

● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、最も多かった「市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり、募金をつのる」を始めとする回答割合が減少し、新たに追加した選択肢「所有者の意向を踏まえながら、町内会や市民活動団体などが保全活動に参加する」が、「個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限」に次いで多くなっている。

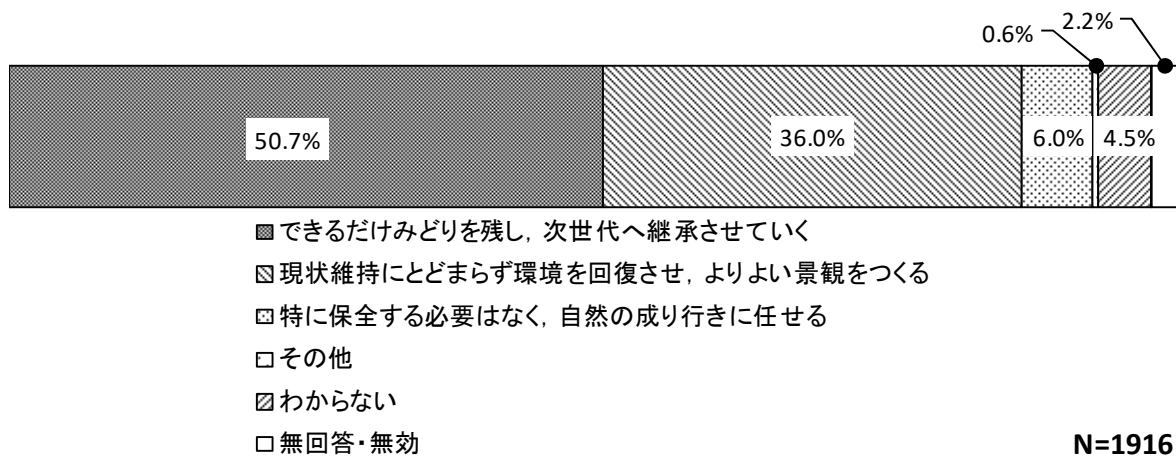


- 個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限
- ▣ 他の行政サービスが減り、市民の負担が増えても、行政で土地を買い取り保全
- ▨ 市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり、募金をつのる
- 所有者の意向を踏まえながら、町内会や市民活動団体などが保全活動に参加
- ▤ 個人の土地なので、保全・開発は個人の意志にまかせる
- 目 その他
- わからない
- 無回答・無効

③屋敷林(居久根)や社寺林の保全の方向性

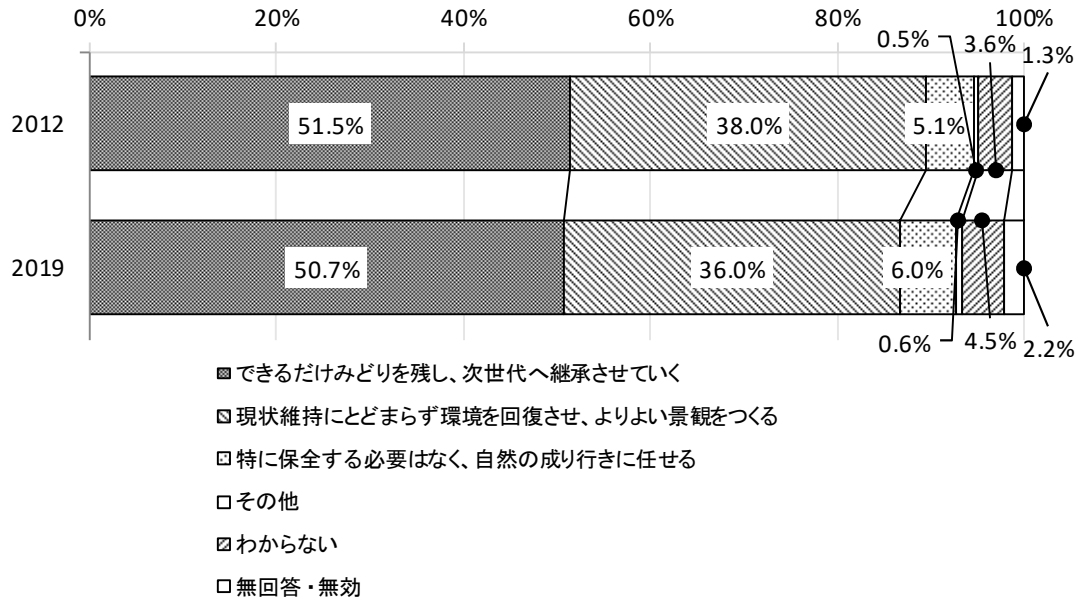
屋敷林（居久根）や社寺林の保全の方向性については、「できるだけみどりを残し、次世代へ継承させていく」（50.7%）が最も多く、次いで「現状維持にとどまらず環境を回復させ、よりよい景観をつくる」（36.0%）、「特に保全する必要はなく、自然の成り行きに任せる」（6.0%）となっている。

問 17 市街地や田園地帯に点在する屋敷林（居久根）や社寺林の保全について、どのようにしていきべきだと思いますか。（あてはまる番号1つに○）



● 2012年アンケートとの比較 ●

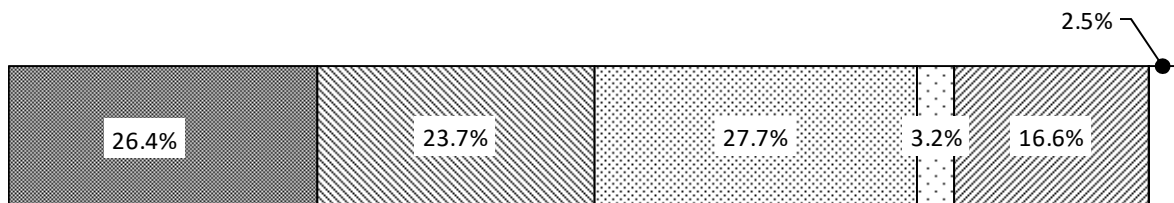
2012年と比較すると、屋敷林（居久根）や社寺林の保全の方向性に、大きな変化はみられない。



④屋敷林(居久根)や社寺林の活用の方向性

屋敷林（居久根）や社寺林の活用の方向性については、「屋敷林（居（い）久（ぐ）根（ね））や社寺林を拠点とした情報発信施設などを整備する」（27.7%）が最も多く、次いで「あずまややベンチを設置し、見学できるようにする。」（26.4%）、「青葉山公園などの歴史的資源を有する公園と連携した観光ツアーを企画・開催する」（23.7%）となっている。

問 18 仙台市では所有者の移行を踏まえながら、屋敷林（居久根）や社寺林について、歴史・文化的に貴重なみどりとして、保全を図るとともに広くPRし、活用していきたいと考えております。屋敷林（居久根）や社寺林の活用について、どのようにしていくべきだと思いますか。（あてはまる番号1つに○）



- あずまややベンチを設置し、見学できるようにする。
- 青葉山公園などの歴史的資源を有する公園と連携した観光ツアーを企画・開催する
- 屋敷林(居(い)久(ぐ)根(ね))や社寺林を拠点とした情報発信施設などを整備する
- その他
- わからない
- 無回答・無効

N=1916

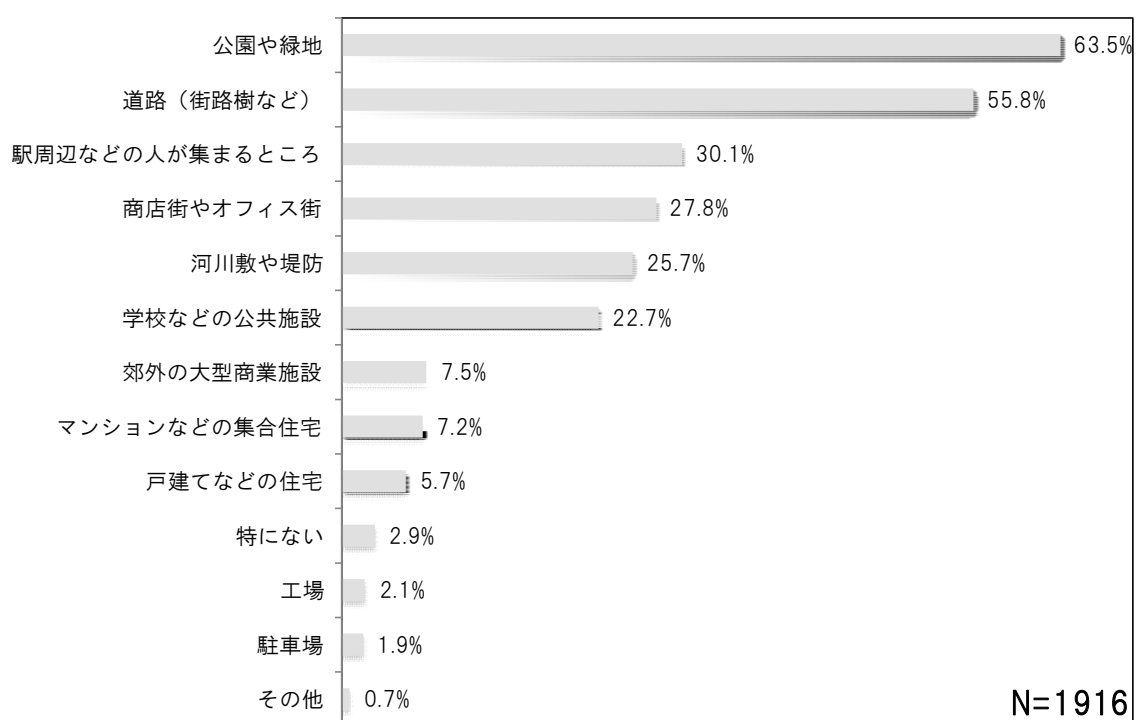
(2)市街地の緑化について

①重点を置くべき緑化箇所

重点を置くべき緑化箇所については、「公園や緑地」(63.5%)が最も多く、次いで「道路(街路樹など)」(55.8%)、「駅周辺などの人が集まる場所」(30.1%)、「商店街やオフィス街」(27.8%)、「河川敷や堤防」(25.7%)となっている。

問 19 市街地の緑化を進めるにあたり、どこの緑化に重点を置くべきだと思いますか。

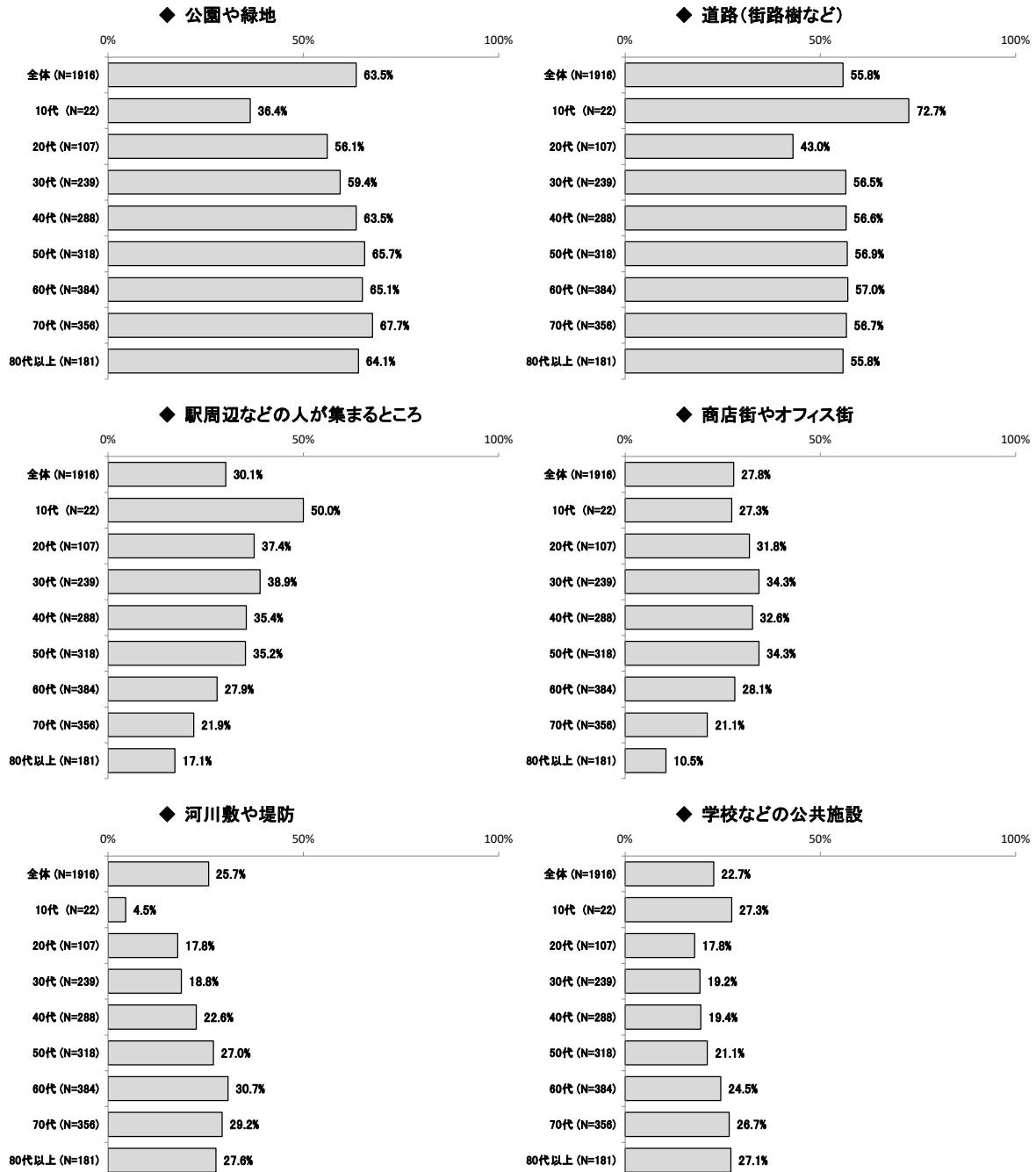
(主にあてはまる番号3つまでに○)



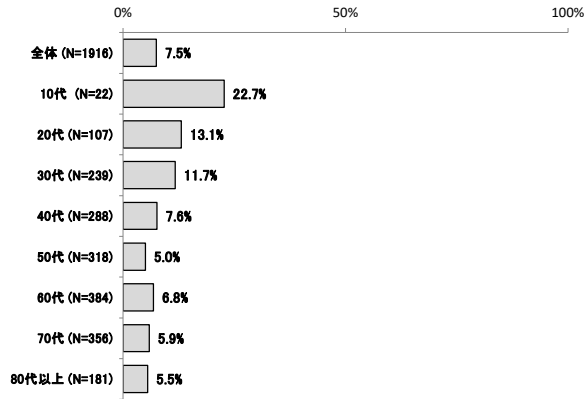
● 年代別 ●

年代別にみると、「駅周辺などの人が集まるところ」は【10代】から【50代】まで3割を超えており、「河川敷や堤防」は【50代】以降の年代で高くなっている。

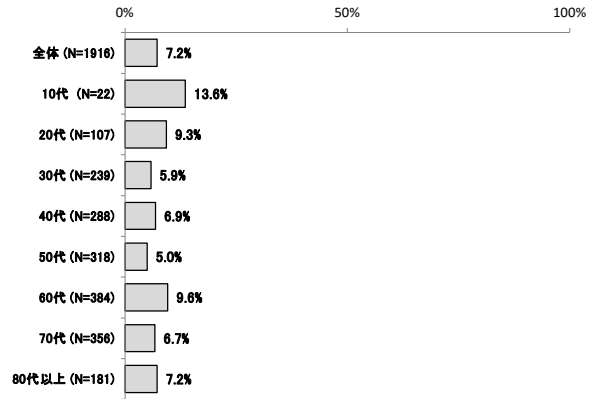
※上位10項目のみ抜粋



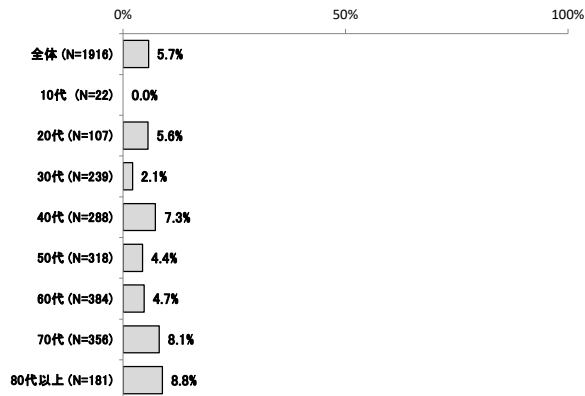
◆ 郊外の大型商業施設



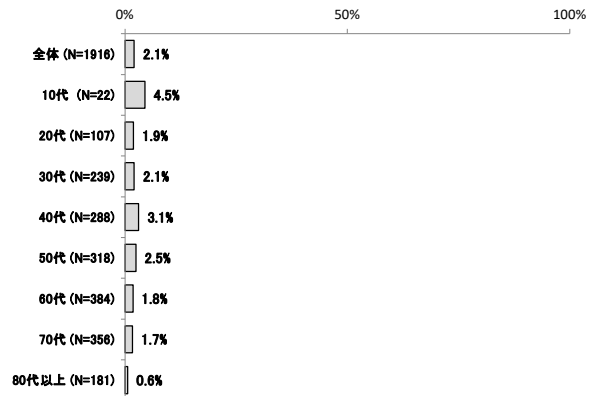
◆ マンションなどの集合住宅



◆ 戸建てなどの住宅

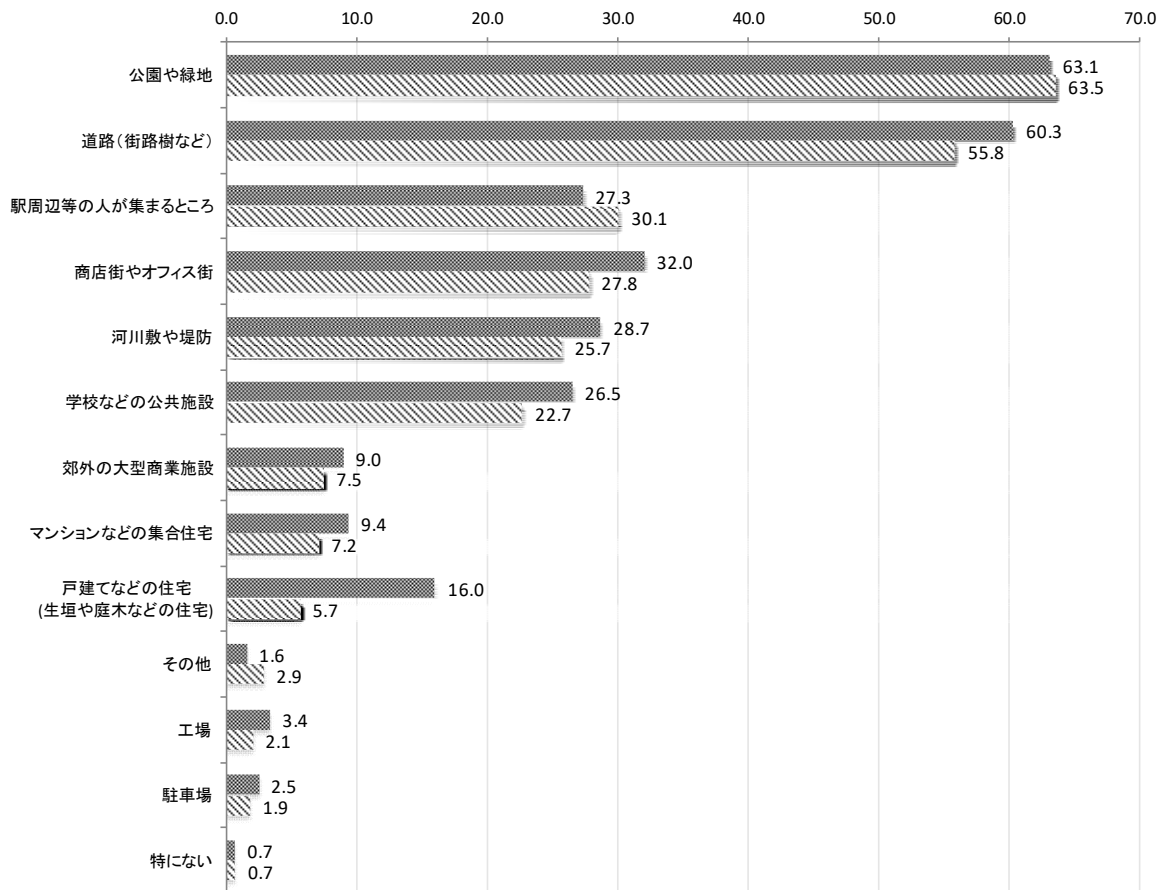


◆ 工場



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、最も多い「公園や緑地」の割合に大きな変化はなく、「戸建てなどの住宅（生垣や庭木などの住宅）」の割合が大きく減少している。

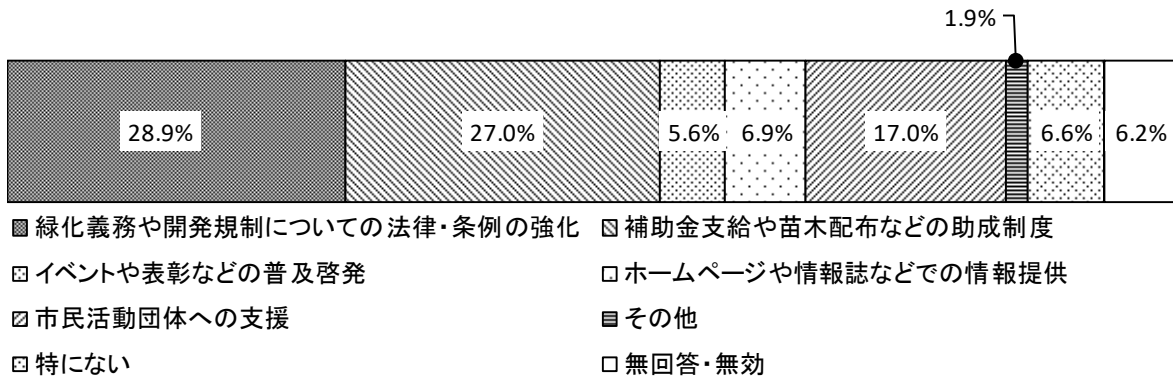


■ 2012 ▨ 2019

②みどりの増加に必要な行政の取り組み

みどりの増加に必要な行政の取り組みについては、「緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化」(28.9%)が最も多く、次いで「補助金支給や苗木配布などの助成制度」(27.0%)、「市民活動団体への支援」(17.0%)となっている。

問 20 公園や街路樹等の整備の他に、都市の緑化を進めるにあたり、行政の取り組みで、特に必要なものは何ですか。
(あてはまる番号1つに○)

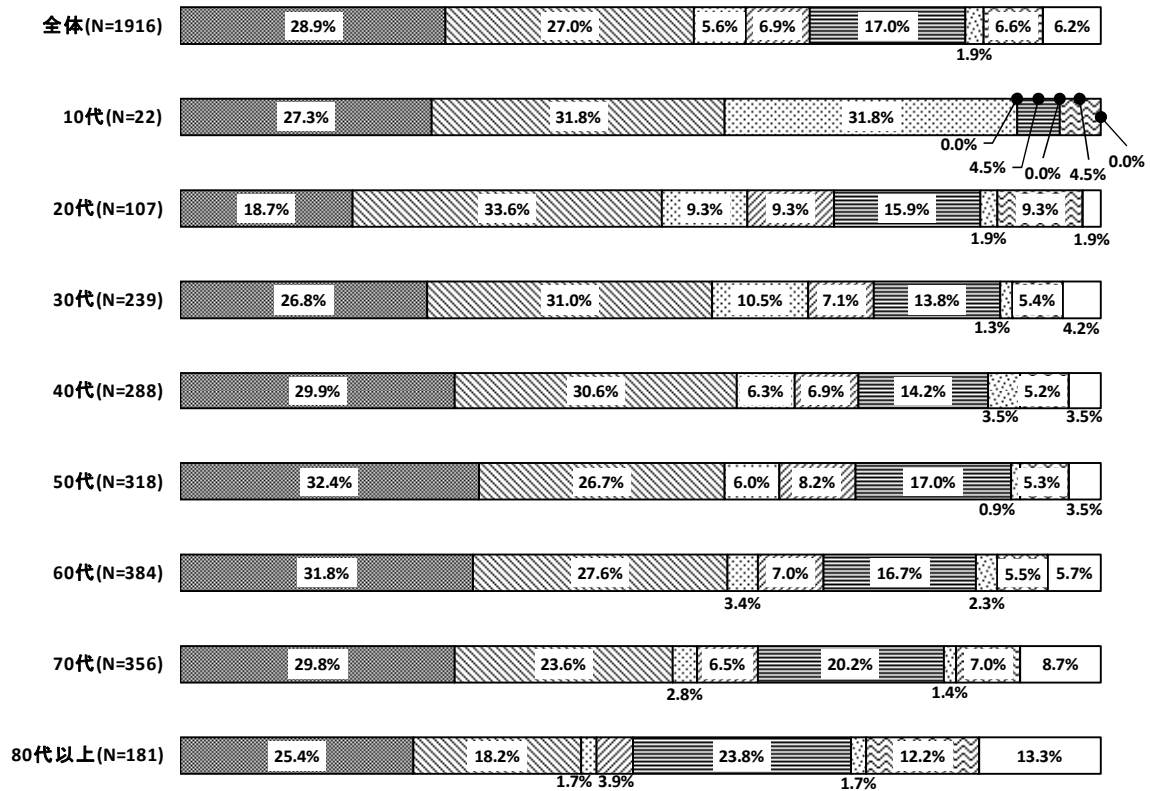


N=1916

● 年代別 ●

年代別にみると、「緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化」は、【20代】のみが他の世代と比較し少なくなっている。

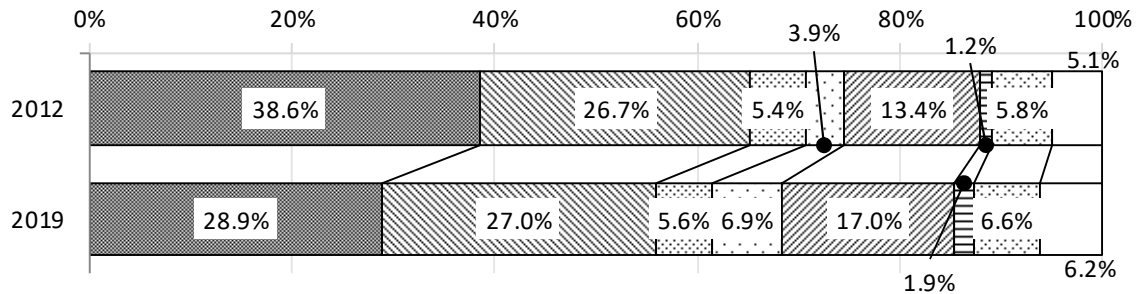
また、【10代】から【40代】では、「補助金支給や苗木配布などの助成制度」が3割を超え最も多くなっている。



- 緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化
- 補助金支給や苗木配布などの助成制度
- イベントや表彰などの普及啓発
- ホームページや情報誌などでの情報提供
- 市民活動団体への支援
- その他
- 特にない
- 無効・無回答

● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化」のみが減少し、それ以外の選択肢の割合が増加している。



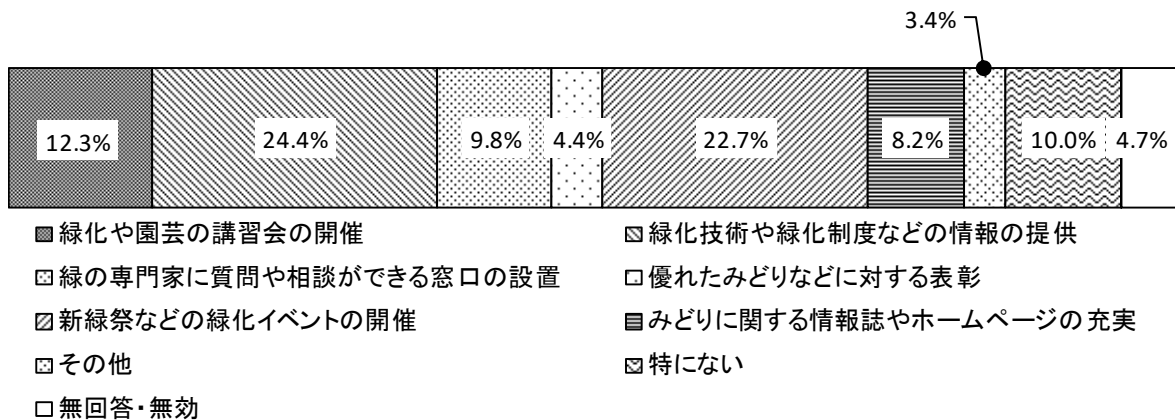
- 緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化
- ▨ 補助金支給や苗木配布などの助成制度
- ▨ イベントや表彰などの普及啓発
- ホームページや情報誌などでの情報提供
- ▨ 市民活動団体への支援
- その他
- ▨ 特にない
- 無回答・無効

③緑化活動に必要な行政の支援

緑化活動に必要な行政の支援については、「緑化技術や緑化制度などの情報の提供」(24.4%)が最も多く、次いで「新緑祭などの緑化イベントの開催」(22.7%)、「緑化や園芸の講習会の開催」(12.3%)となっている。

問 21 あなたが緑化活動を行う場合に、行政の支援の中で、特に必要なものは何ですか。

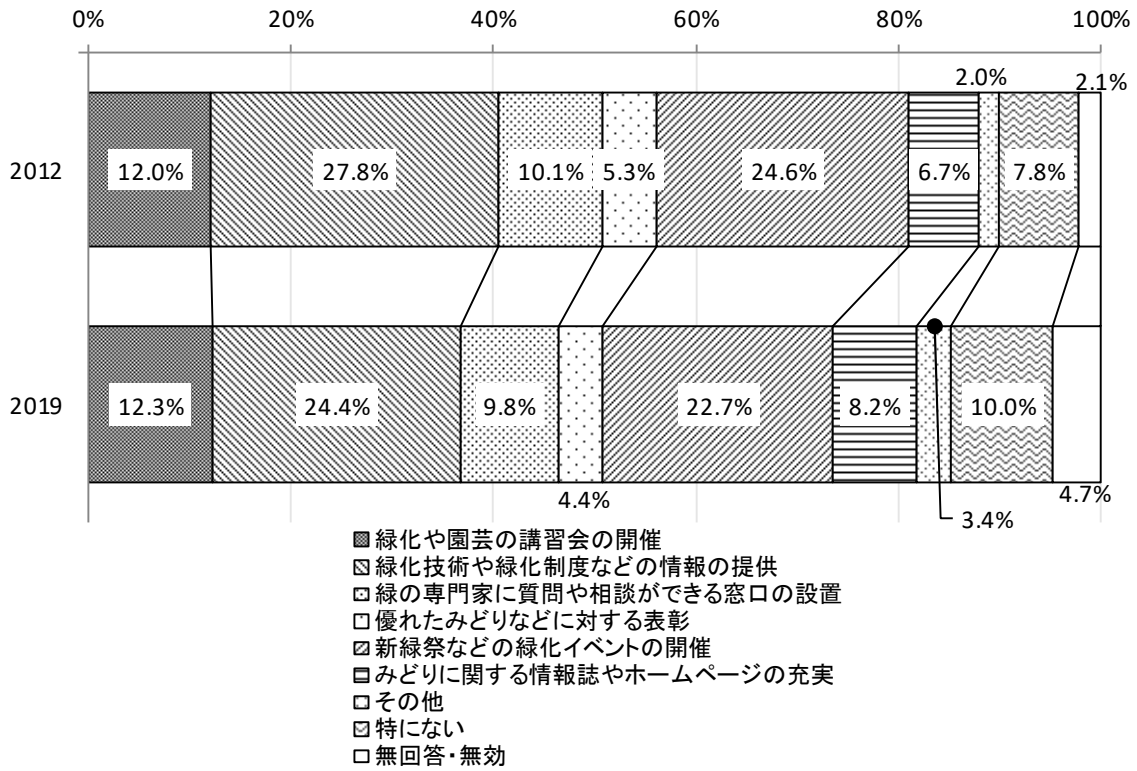
(あてはまる番号1つに○)



N=1916

● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「緑化技術や緑化制度などの情報の提供」などの割合が減少し、「緑化や園芸の講習会の開催」などの割合が増加している。



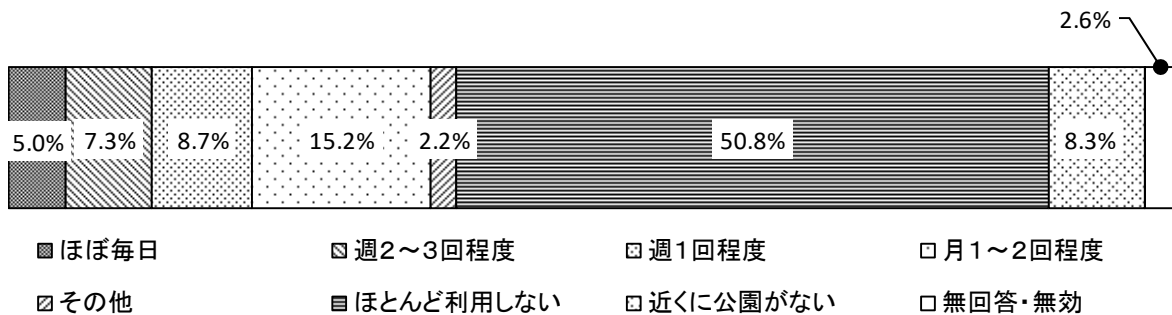
(3)公園について

①住まいの近くの公園の利用頻度

住まいの近くの公園の利用頻度については、「ほとんど利用しない」(50.8%)が最も多く、次いで「月1～2回程度」(15.2%)、「週1回程度」(8.7%)、「近くに公園がない」(8.3%)、「週2～3回程度」(7.3%)となっている。

問 22 あなたはお住まいの近くにある公園をどれくらい利用しますか。

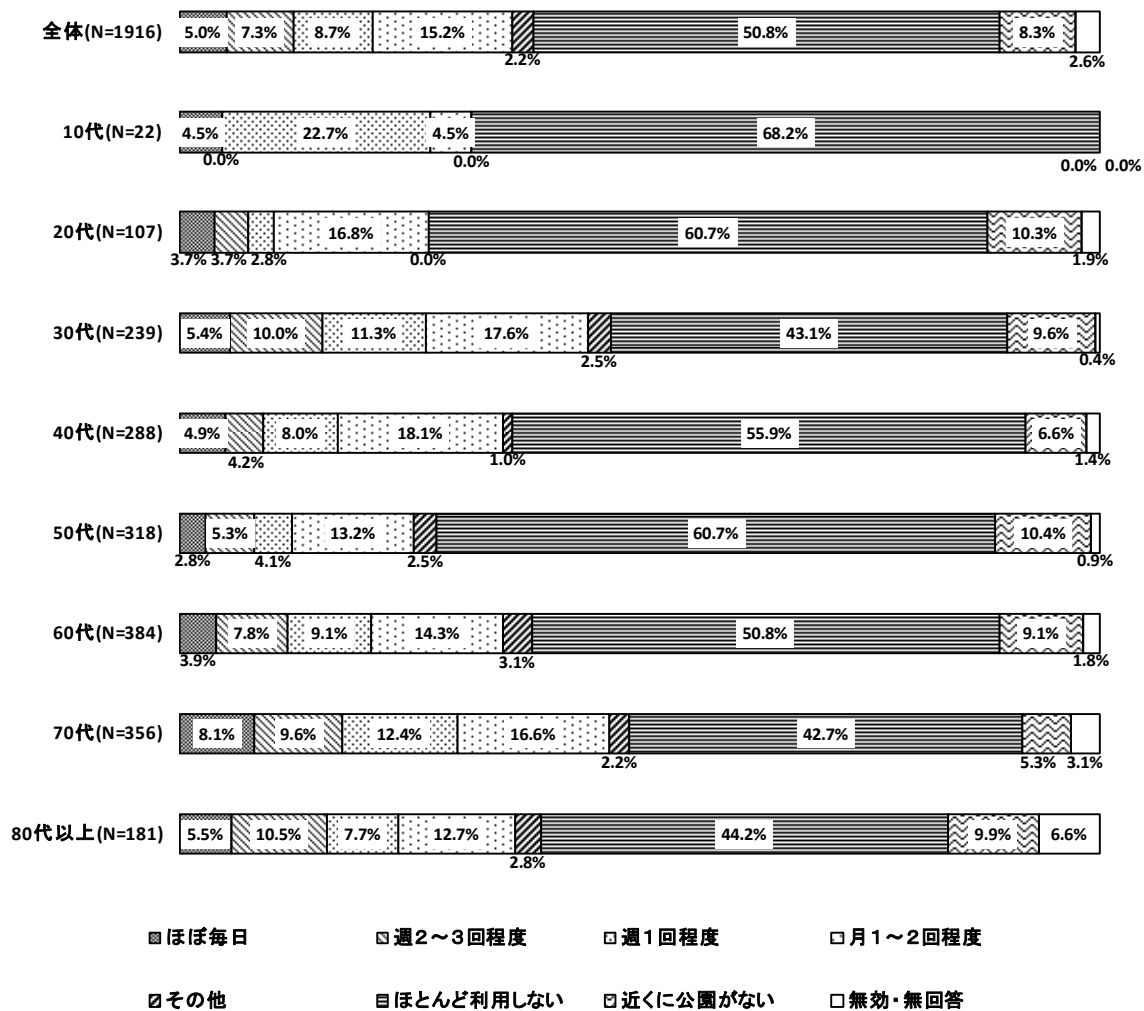
※「お住まいの近くにある公園」とは、目安として、歩いて10分以内の場所にある公園のことです。
(あてはまる番号1つに○)



N=1916

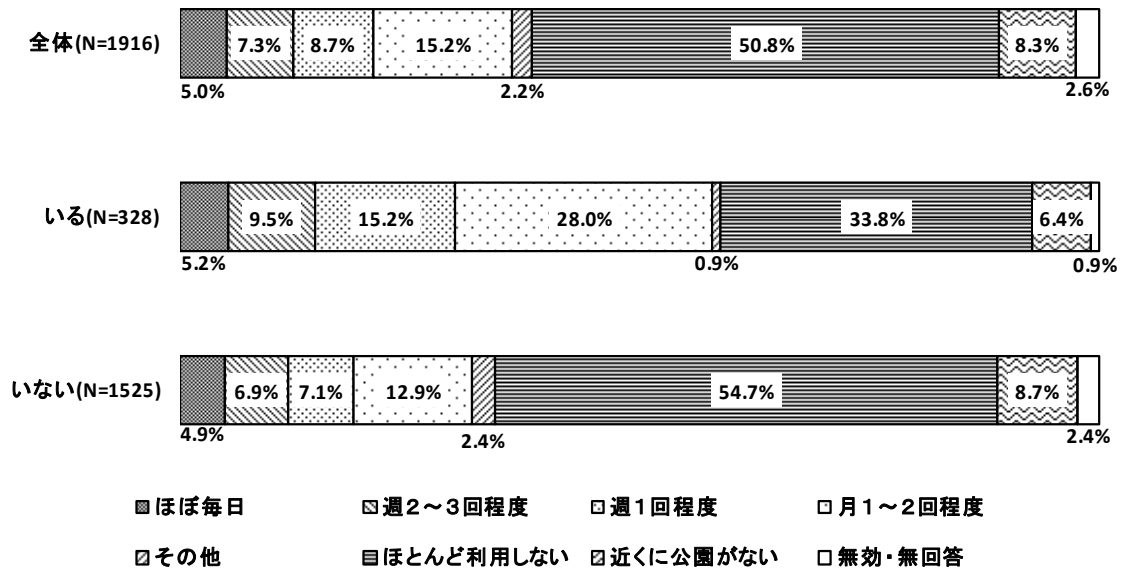
● 年代別 ●

年代別にみると【30代】(44.3%)及び【70代】(46.7%)が、他の年代に比べて《利用している》(「ほぼ毎日」、「週2~3回程度」、「週1回程度」、「月1~2回程度」の合計)の割合が多くなっている。



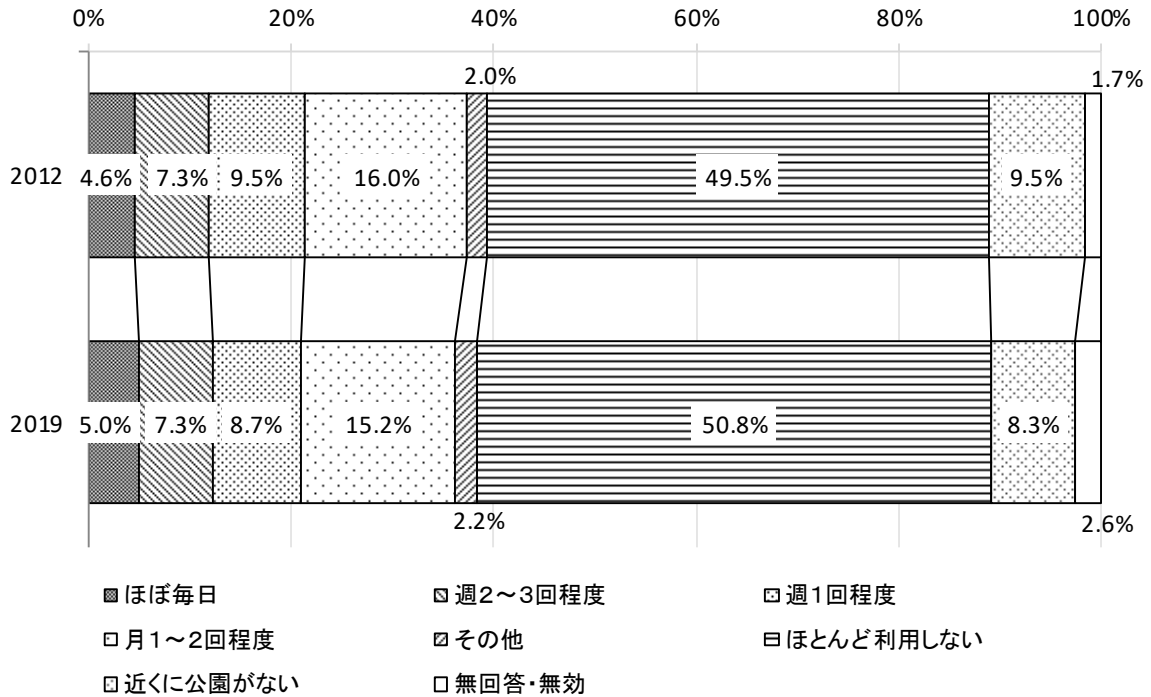
● 小学校以下の子どもの有無別 ●

小学生以下の子どもの有無別にみると、《利用している》（「ほぼ毎日」、「週 2～3 回程度」、「週 1 回程度」、「月 1～2 回程度」の合計）は、【子どもがいる】と答えた人が 57.9%、【子どもがいない】と答えた人が 31.8%となっている。



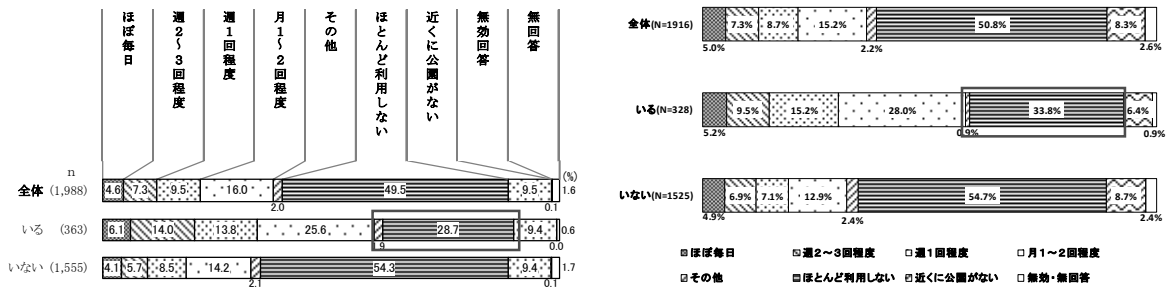
● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、住まいの近くの公園の利用頻度に、大きな変化はみられない。
また、小学生以下の子どもがいると答えた人の「ほとんど利用しない」の割合が増加している。



「2012年調査」

「2019年調査」

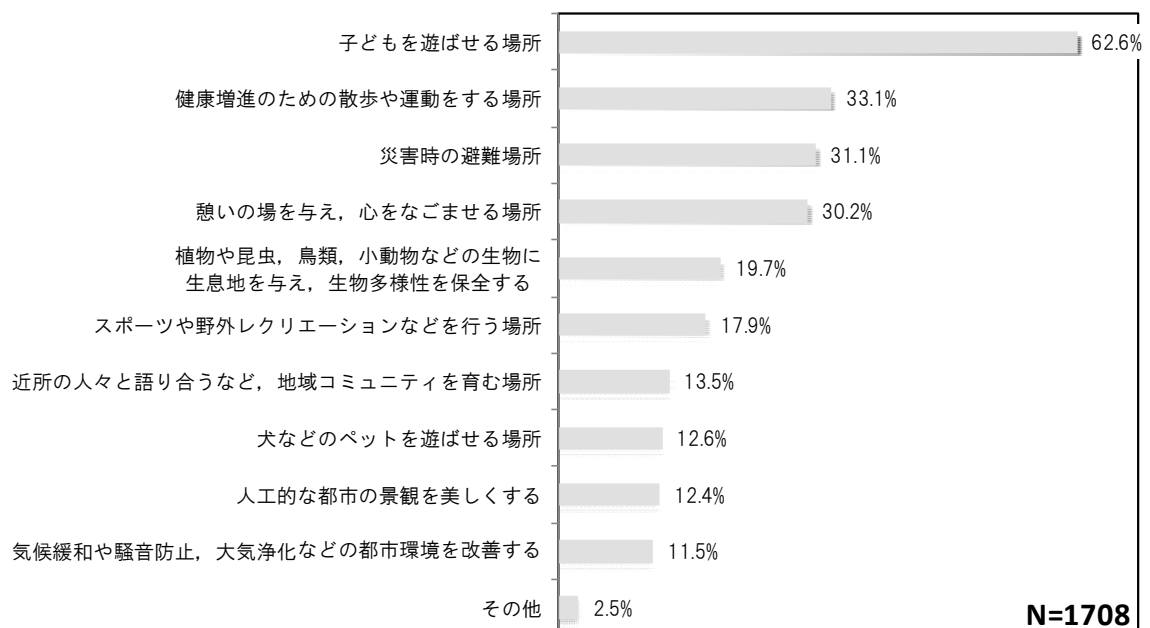


②住まいの近くの公園の役割

住まいの近くの公園の役割については、「子どもを遊ばせる場所」(62.6%)が最も多く、次いで「健康増進のための散歩や運動をする場所」(33.1%)、「災害時の避難場所」(31.1%)、「憩いの場を与え、心をなごませる場所」(30.2%)、「植物や昆虫、鳥類、小動物などの生物に生息地を与え、生物多様性を保全する」(19.7%)となっている。

問 23 あなたの住まいの近くにある公園は、どのような役割を持っていますか。

(主にあてはまる番号3つまでに○)



● 年代別 ●

年代別にみると「子どもを遊ばせる場所」は、【20代】から【40代】で7割を越えて多くなっている。

「健康増進のための散歩や運動をする場所」は、【70代】で4割を超えている。

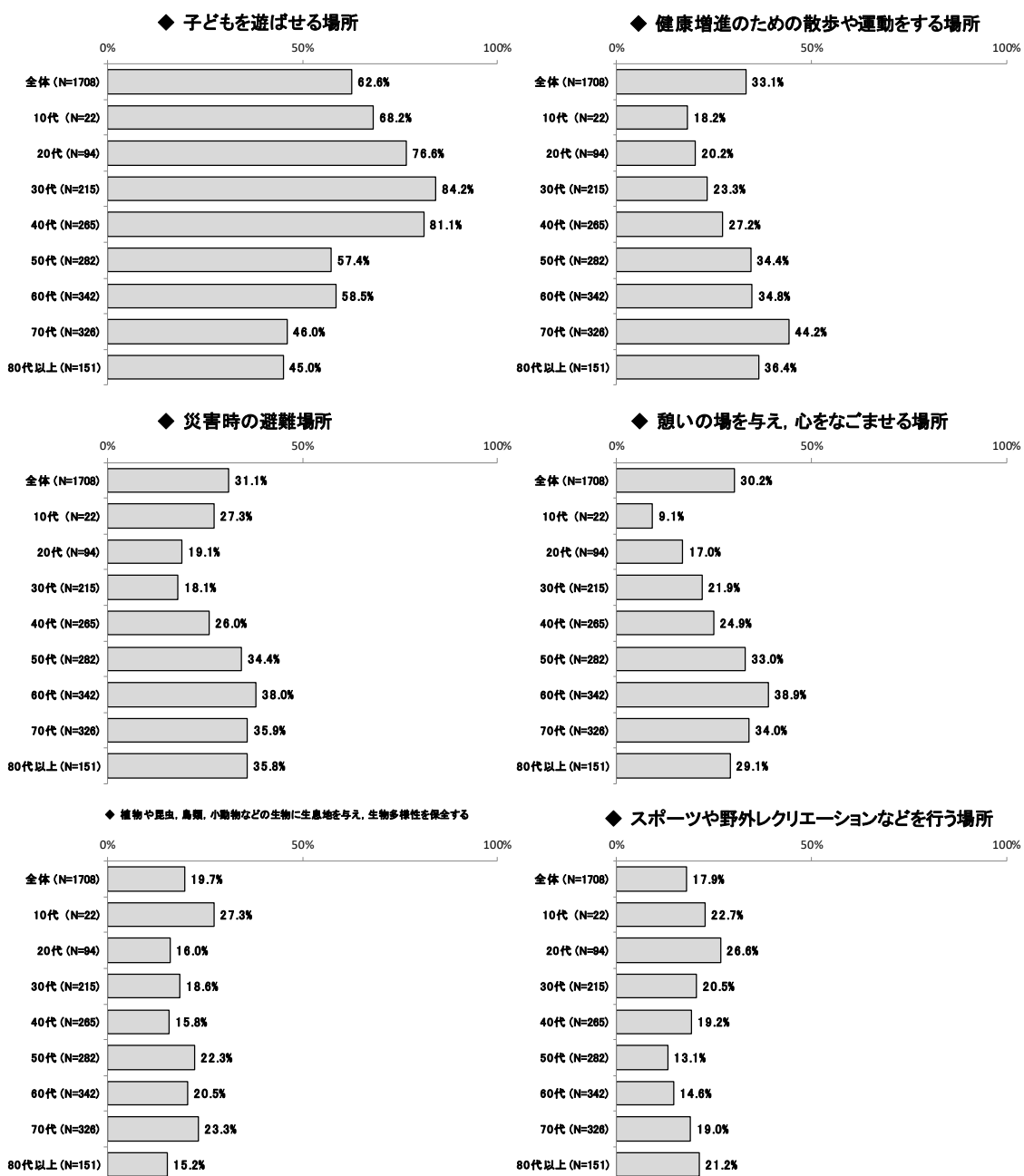
「災害時の避難場所」は、【50代】以降の年代で多くなっている。

「スポーツや野外レクリエーションなどの活動を行う場所」は、【50代】、【60代】を除く各年代で全体の割合より多くなっている。

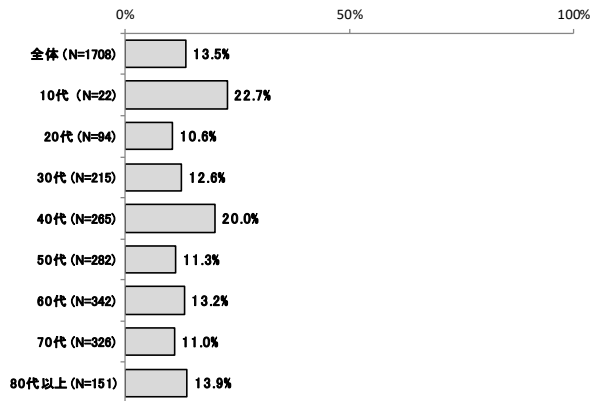
「近所の人々と語り合うなど、地域コミュニティを育む場所」は、【10代】、【40代】で2割を越えて多くなっている。

「犬などのペットを遊ばせる場所」は【10代】で3割を超え、多くなっている。

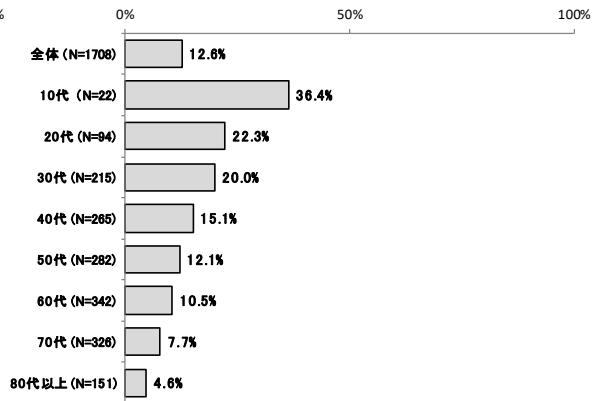
※上位10項目のみ抜粋



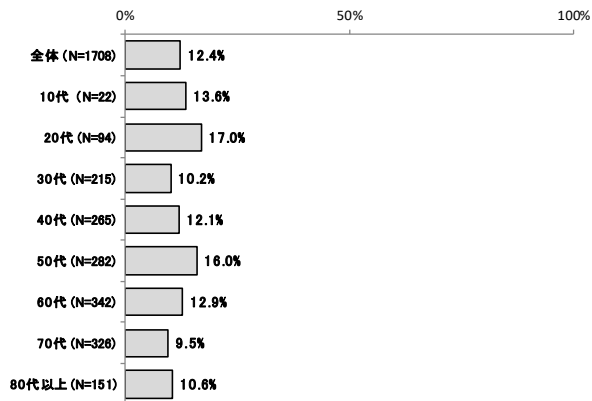
◆ 近所の人々と語り合うなど、地域コミュニティを育む場所



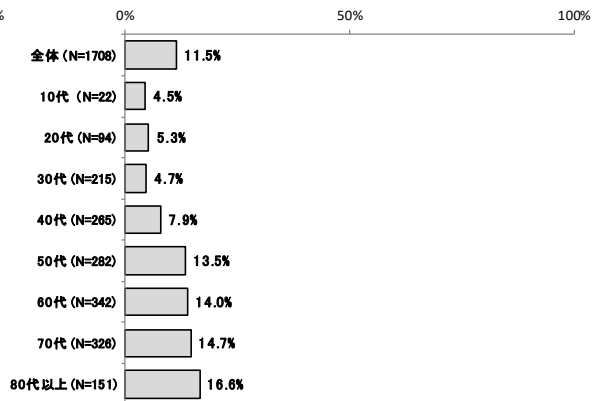
◆ 犬などのペットを遊ばせる場所



◆ 人工的な都市の景観を美しくする



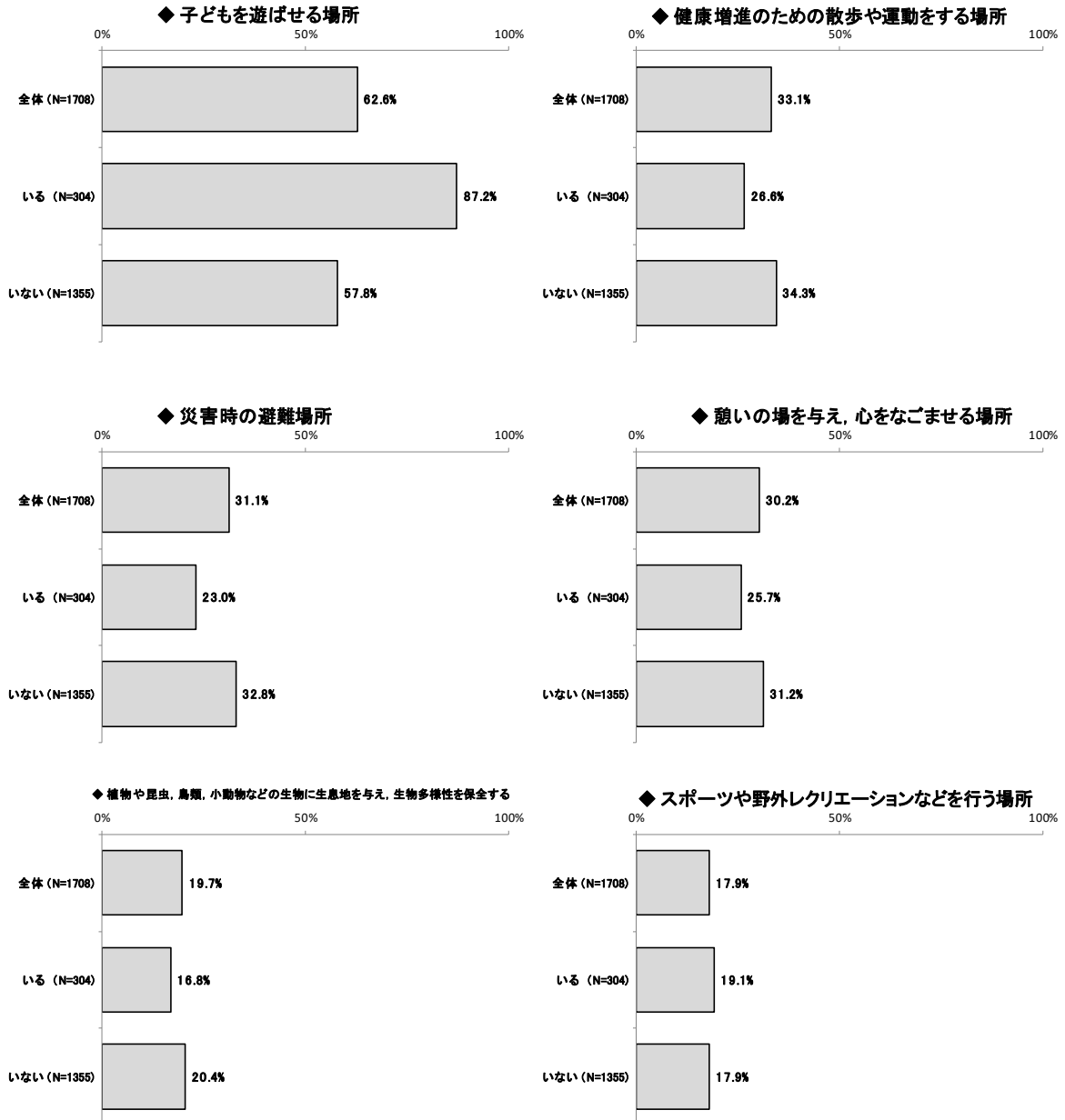
◆ 気候緩和や騒音防止、大気浄化などの都市環境を改善する

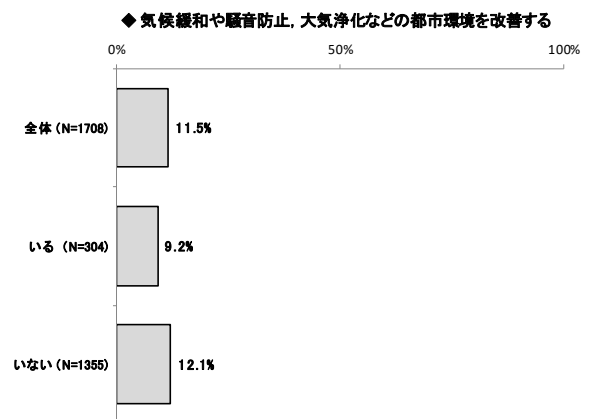
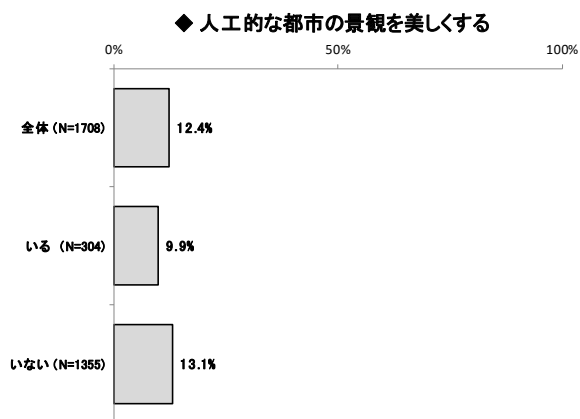
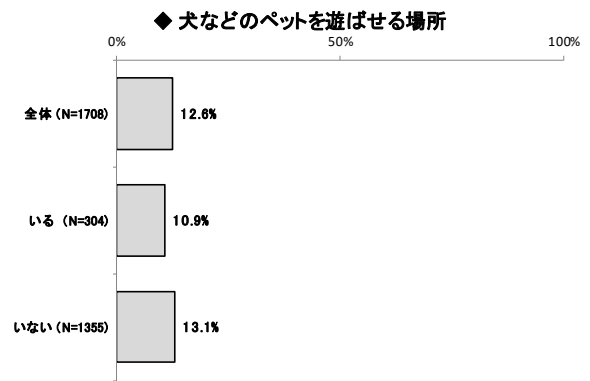
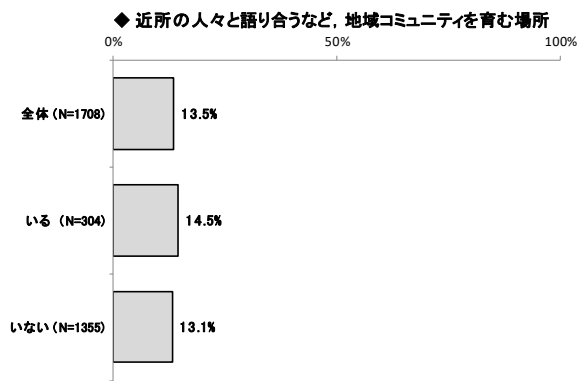


● 小学校以下の子どもの有無別 ●

小学生以下の子どもの有無別にみると、「子どもを遊ばせる場所」、「スポーツや野外レクリエーションなどを行う場所」、「近所の人々と語り合うなど、地域コミュニティを育む場所」は、【子どもがいる】人が【子どもがいない】人よりも多くなっている。

※上位 10 項目のみ抜粋



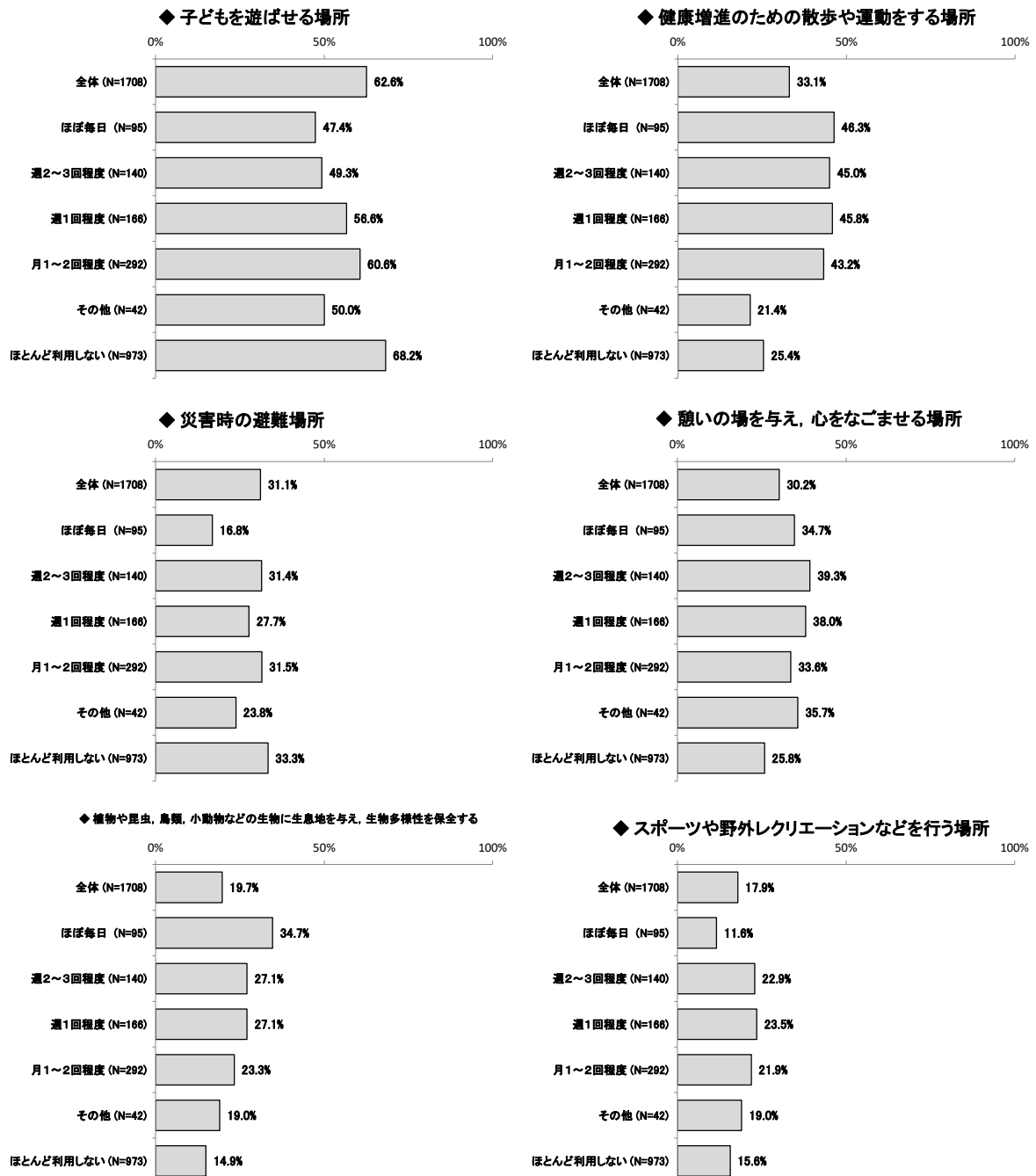


● 住まいの近くの公園の利用頻度(問23)別 ●

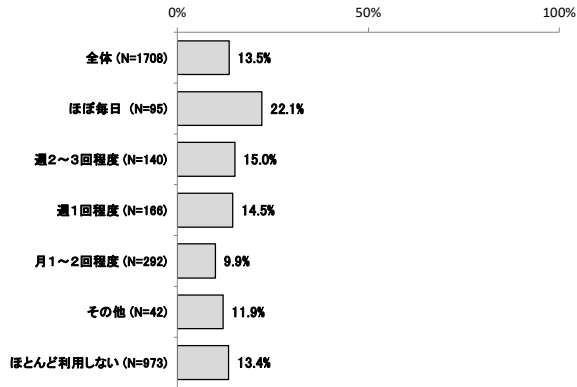
住まいの近くの公園の利用頻度別にみると、「子どもを遊ばせる場所」では、利用頻度が低いほど割合が多くなっている。

また、「健康増進のための散歩や運動をする場所」では、月1～2回程度以上利用していると回答している人では、4割を越えて多くなっている。

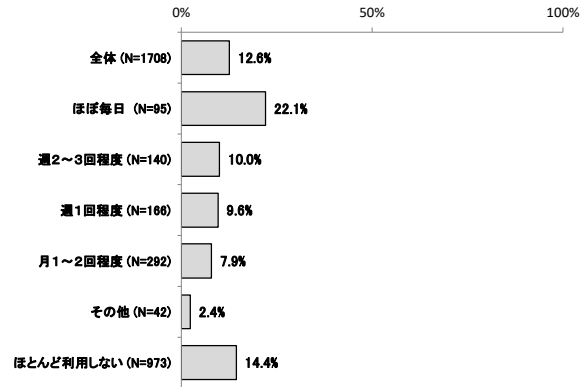
※上位10項目のみ抜粋



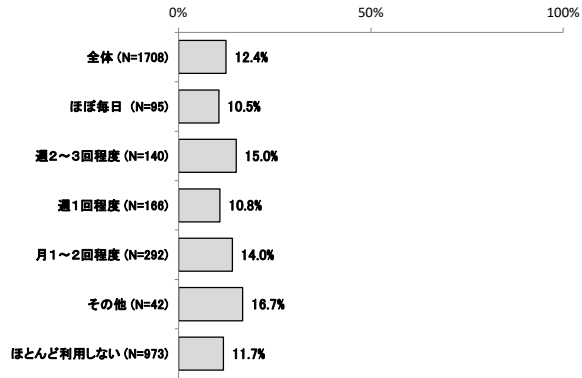
◆ 近所の人々と語り合うなど、地域コミュニティを育む場所



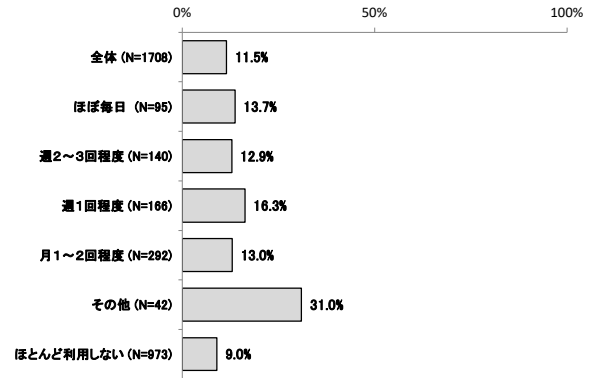
◆ 犬などのペットを遊ばせる場所



◆ 人工的な都市の景観を美しくする

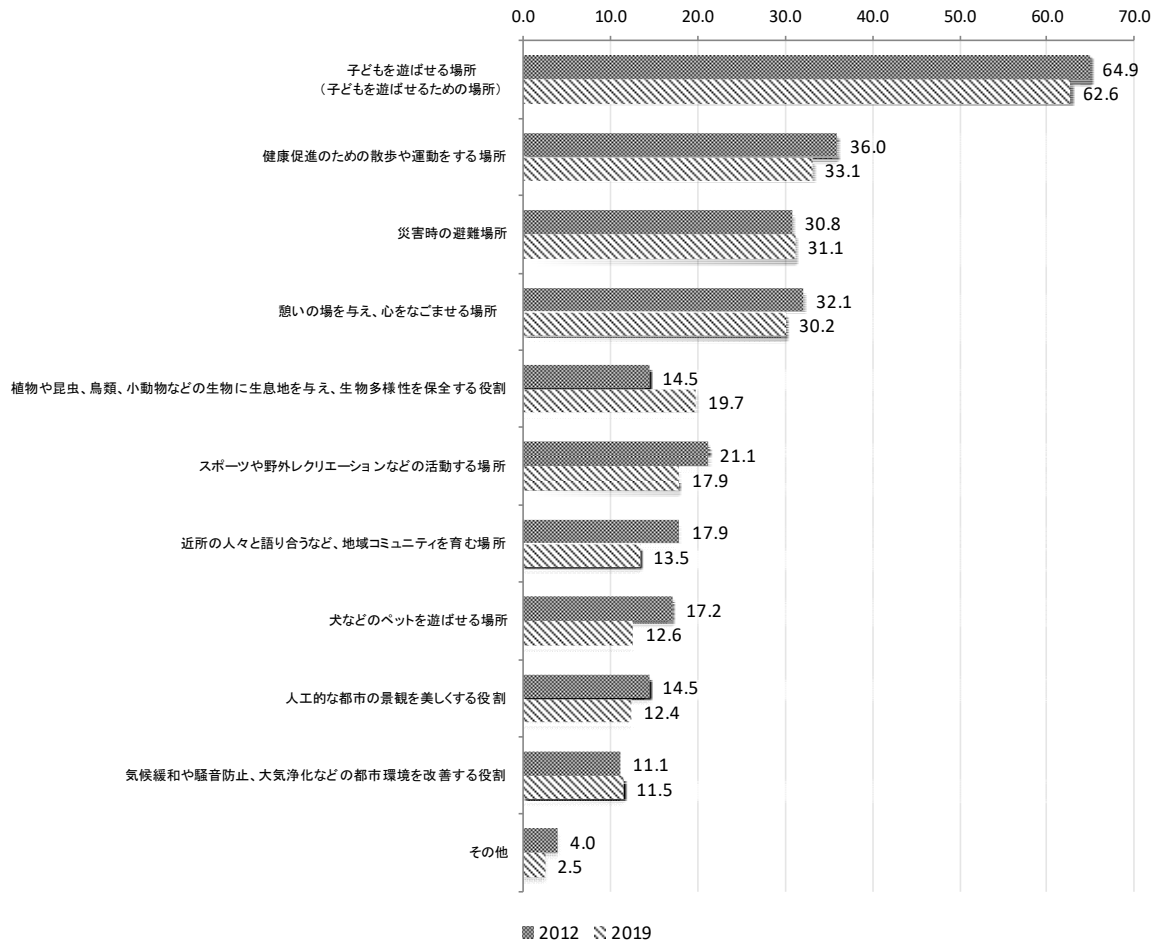


◆ 気候緩和や騒音防止、大気浄化などの都市環境を改善する



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、大きな変化はみられないが、「災害時の避難場所」や「植物や昆虫、鳥類、小動物などの生物に生息地を与え、生物多様性を保全する役割」、「気候緩和や騒音防止、大気浄化などの都市環境を改善する役割」の割合が増加している。

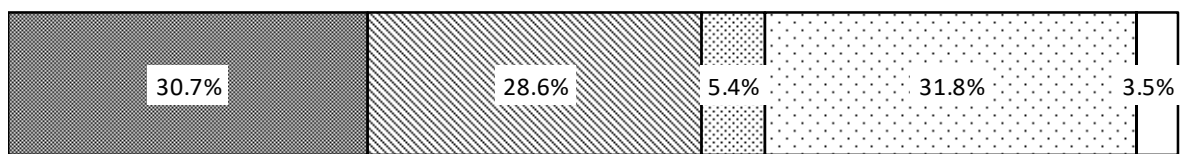


③住まいの近くの公園の満足度

住まいの近くの公園の満足度については、「量・質ともに不十分である」(31.8%)が最も多く、次いで「量・質ともに十分である」(30.7%)、「量は十分だが、質はよくない」(28.6%)、「量は不十分だが、質はよい」(5.4%)となっている。

問 24 現在のあなたのお住まいの近くにある公園の量や質について、どのような印象を持っていますか。

※公園の「量」とは広さや数のことで、「質」とは施設の整備や管理の状況のことです。
(あてはまる番号1つに○)



■ 量・質ともに十分である

▣ 量は十分だが、質はよくない

▤ 量は不十分だが、質はよい

□ 量・質ともに不十分である

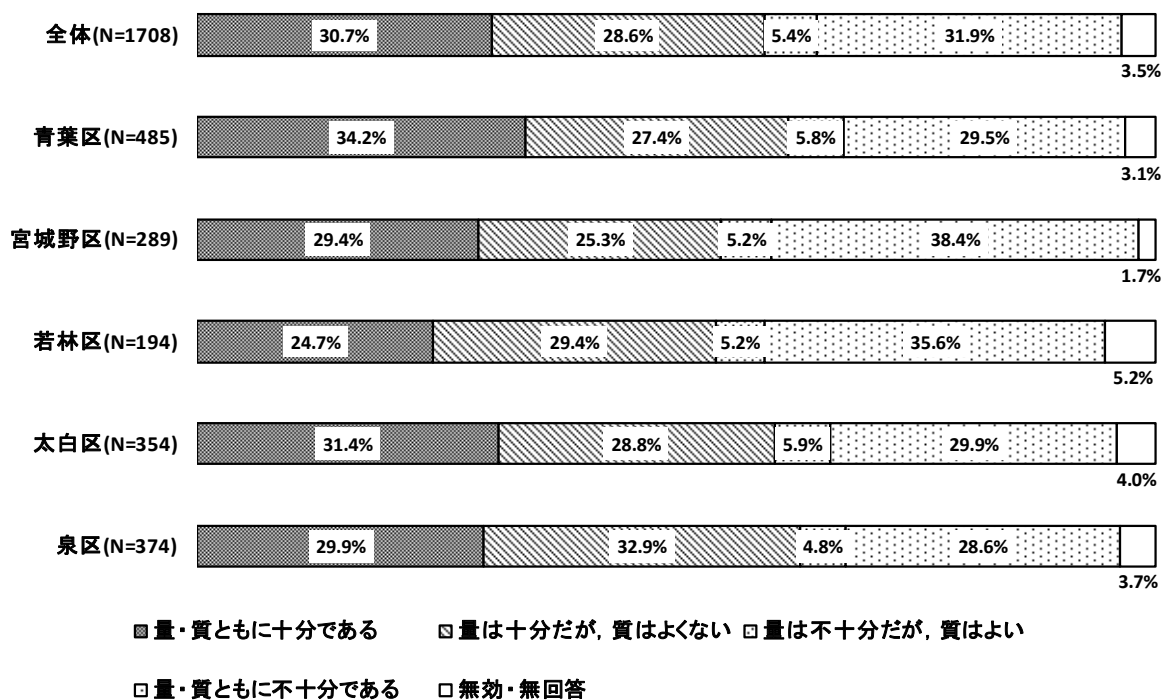
□ 無回答・無効

N=1708

● 居住地区別 ●

居住地区別にみると、「量・質ともに不十分である」は、【宮城野区】（38.4%）及び【若林区】（35.6%）で3割を超え、他の区に比べて多くなっている。

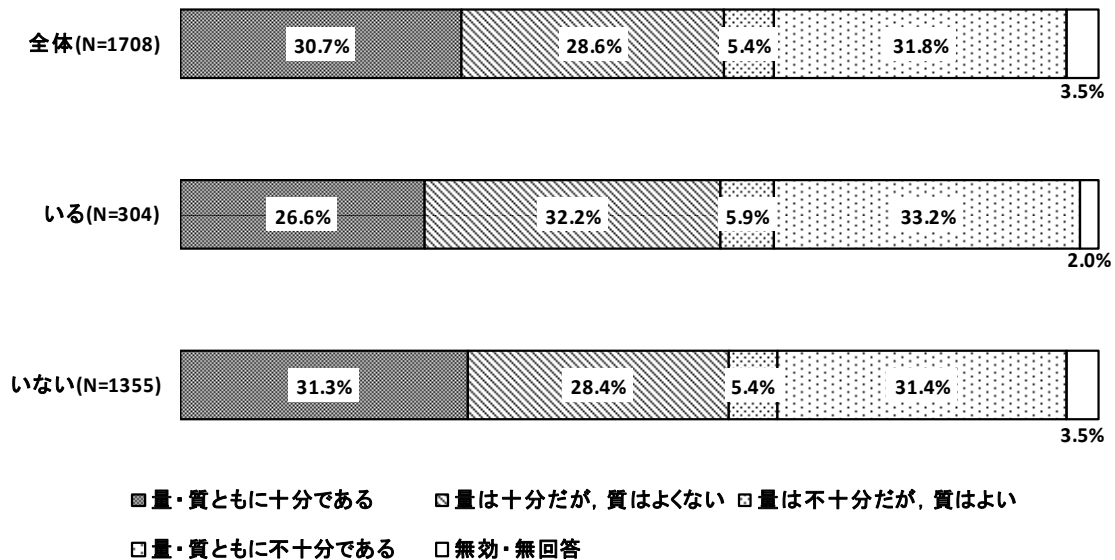
【青葉区】では、「量・質ともに十分である」が34.2%、「量は十分だが、質はよくない」が27.4%、【泉区】では、「量・質ともに十分である」が29.9%、また、「量は十分だが、質はよくない」が32.9%と、他の区と比べて多くなっている。



● 小学校以下の子どもの有無別 ●

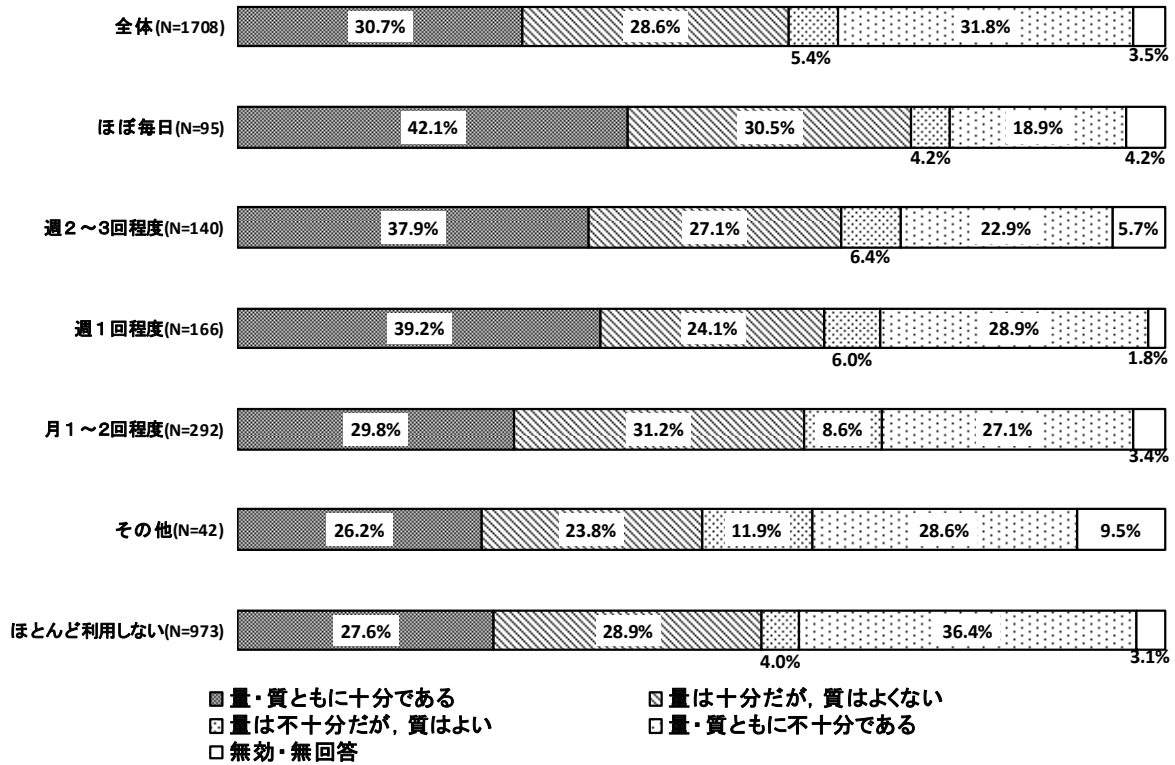
小学生以下の子どもの有無別にみると、「量・質ともに十分である」は、【子どもがいない】人（31.3%）が【子どもがいる】人（26.6%）を上回っている。

また、「量・質ともに不十分である」では、【子どもがいる】人（33.2%）が【子どもがいない】人（31.4%）を上回っている。



● 住まいの近くの公園の利用頻度(問24)別 ●

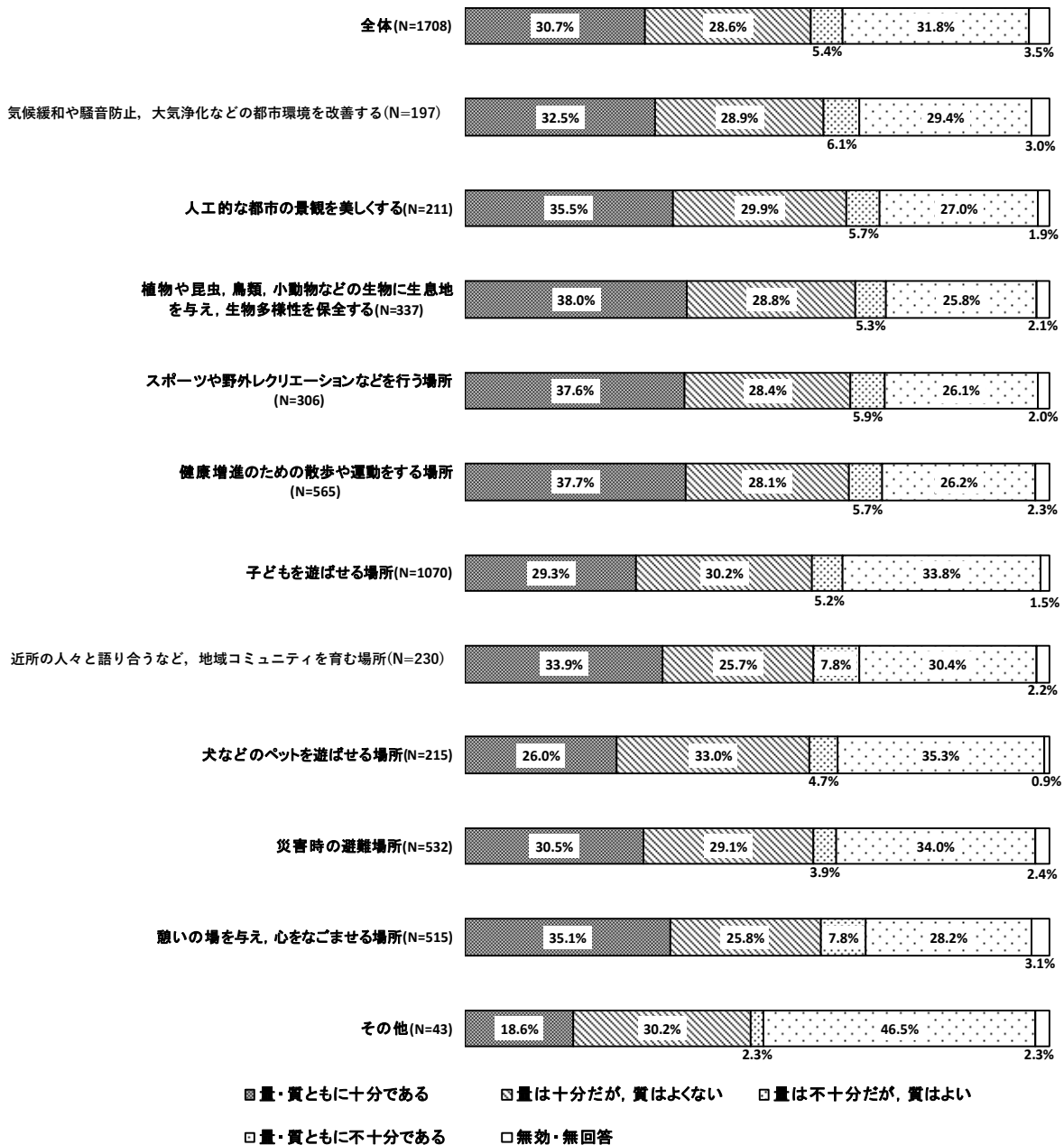
住まいの近くの公園の利用頻度別にみると、「ほぼ毎日」と回答した人では、「量・質ともに十分である」が4割を超え高くなっているのに対し、「ほとんど利用しない」と回答した人では、「量・質ともに不十分である」が3割を超え、高くなっている。



● 住まいの近くの公園の役割(問24)別 ●

住まいの近くの公園の役割別にみると、「量・質ともに十分である」は、【植物や昆虫、鳥類、小動物などの生物に生息地を与え、生物多様性を保全する】(38.0%)、【健康増進のための散歩や運動をする場所】(37.7%)、【スポーツや野外レクリエーションなどを行う場所】(37.6%)、【人工的な都市の景観を美しくする】(35.5%)、【憩いの場を与え、心をなごませる場所】(35.1%)、【近所の人々と語り合うなど、地域コミュニティを育む場所】(33.9%)、【気候緩和や騒音防止、大気浄化などの都市環境を改善する】(32.5%)、【災害時の避難場所】(30.5%) で3割を超えている。

また、「量・質ともに不十分である」は、【犬などのペットを遊ばせる場所】(35.3%)、【災害時の避難場所】(34.0%)、【子どもを遊ばせる場所】(33.8%)、【近所の人々と語り合うなど、地域コミュニティを育む場所】(30.4%) で3割を超えている。

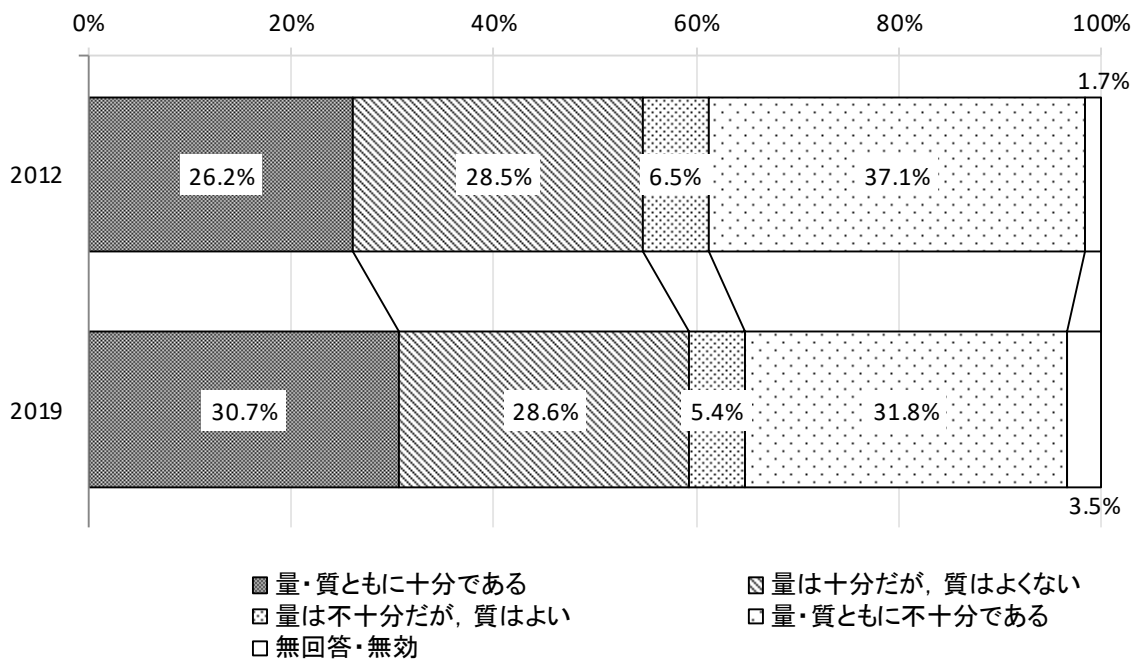


● 2012年アンケートとの比較 ●

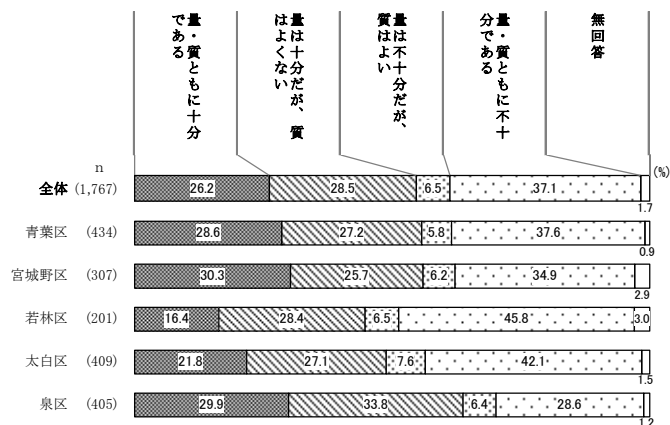
2012年と比較すると、「量・質ともに十分である」の割合が増加し、「量・質ともに不十分である」の割合が減少しており、住まいの近くの公園の満足度が高まっている。

また、居住地区別にみると、青葉区、若林区、太白区は「量・質ともに十分である」の割合が増加し、宮城野区は減少している。

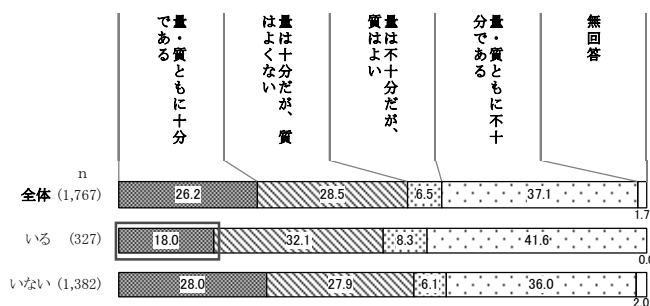
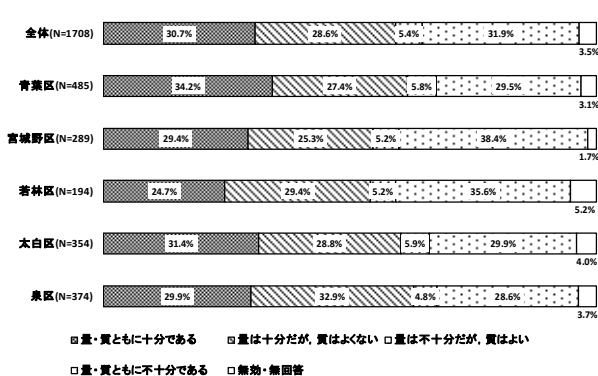
小学生以下の子どもの有無別にみると、特に公園の利用頻度が高い小学生以下の子どもがいる人の「量・質ともに十分である」の割合が増加しており、満足度が高くなっている。



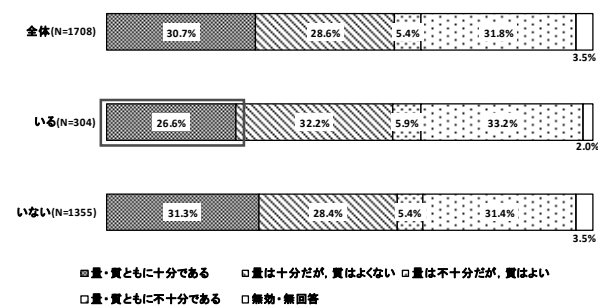
「2012年調査」



「2019年調査」



※小学生以下の子どもの有無



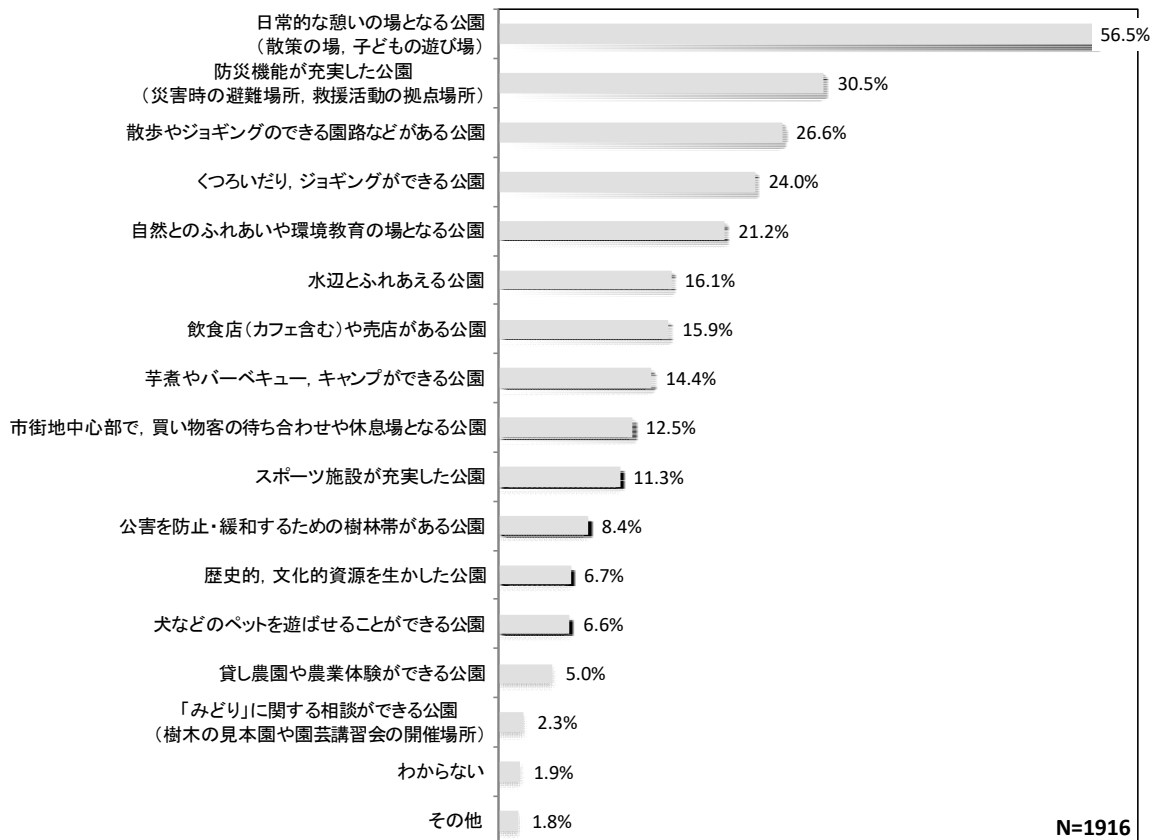
※小学生以下の子どもの有無

④仙台市内で増やして欲しい公園

仙台市内で増やして欲しい公園については、「日常的な憩いの場となる公園（散策の場、子どもの遊び場）」（56.5%）が最も多く、次いで「防災機能が充実した公園（災害時の避難場所、救援活動の拠点場所）」（30.5%）、「散歩やジョギングのできる園路などがある公園」（26.6%）、「くつろいだり、ジョギングができる公園」（24.0%）、「自然とのふれあいや環境教育の場となる公園」（21.2%）となっている。

問 25 仙台市内で、今後増やして欲しい公園はどのような公園ですか。

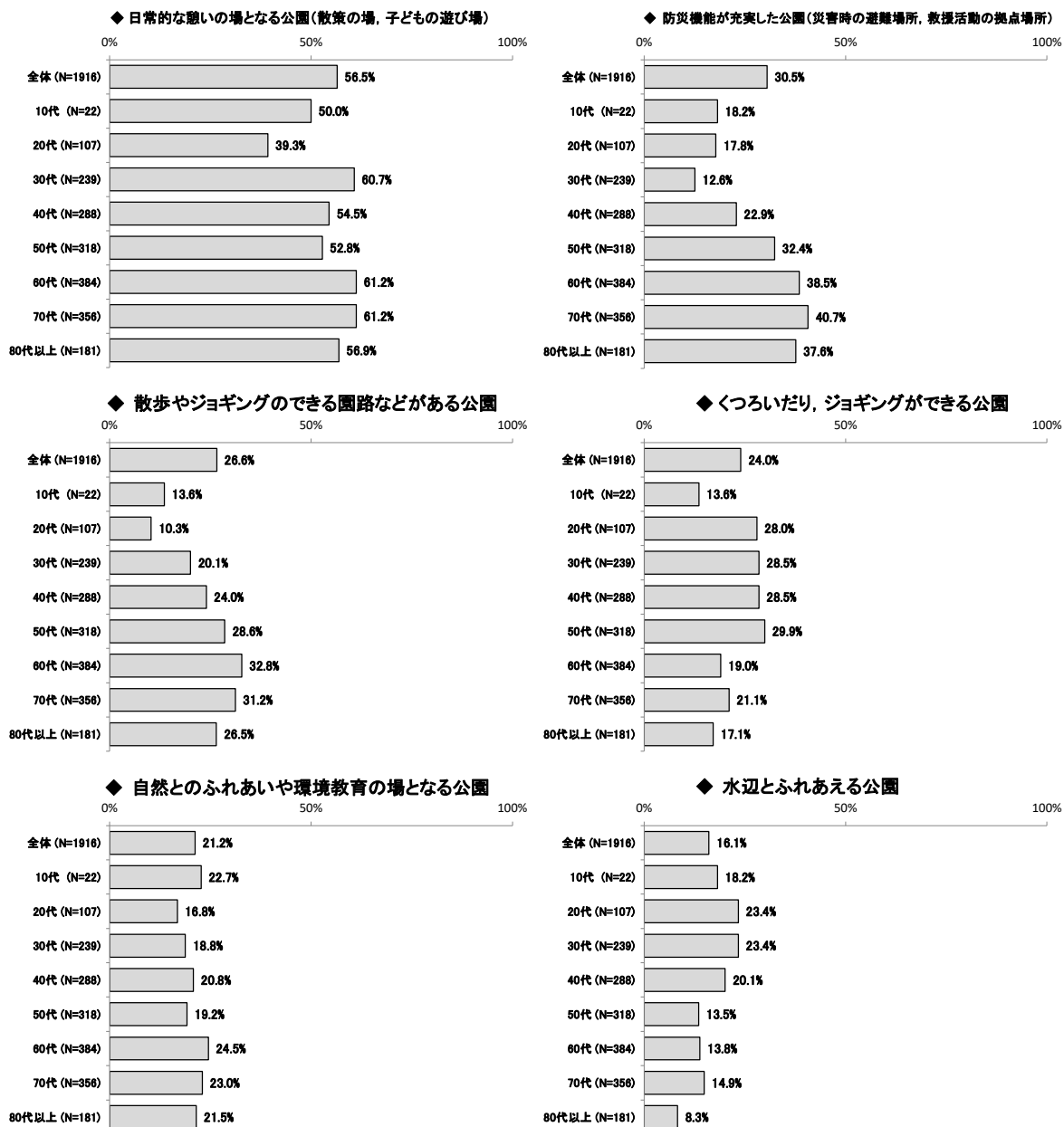
（主にあてはまる番号3つまでに○）



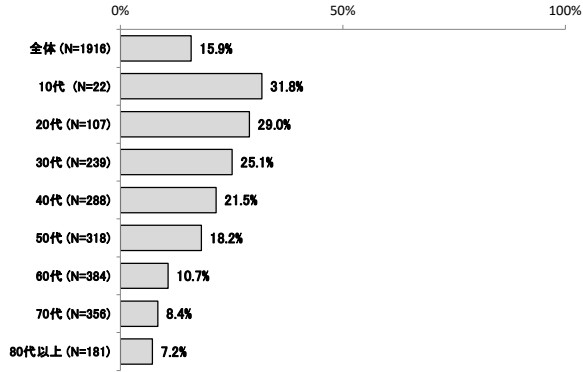
● 年代別 ●

年代別にみると、「日常的な憩いの場となる公園（散策の場、子どもの遊び場）」では、【20代】以外で5割を超えている。「防災機能が充実した公園（災害時の避難場所、救援活動の拠点場所）」では【50代】以降の年代で3割を超えている。「くつろいだり、ジョギングができる公園」では【20代】から【50代】で全体より多くなっている。

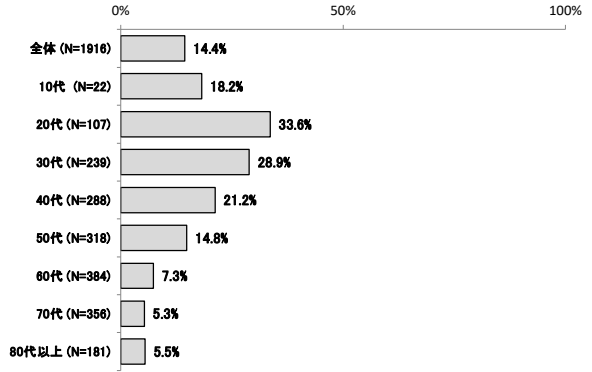
※上位10項目のみ抜粋



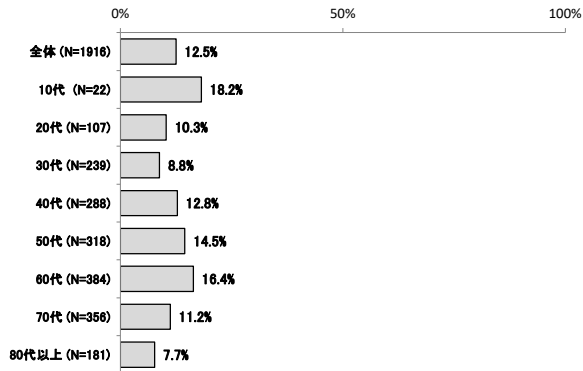
◆ 飲食店(カフェ含む)や売店がある公園



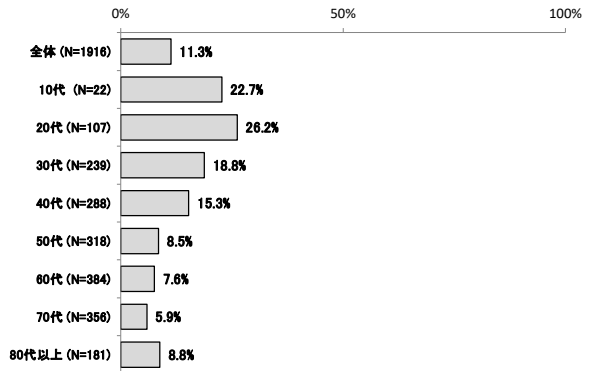
◆ 芋煮やバーベキュー、キャンプができる公園



◆ 市街地中心部で、買い物客の待ち合わせや休息場となる公園



◆ スポーツ施設が充実した公園

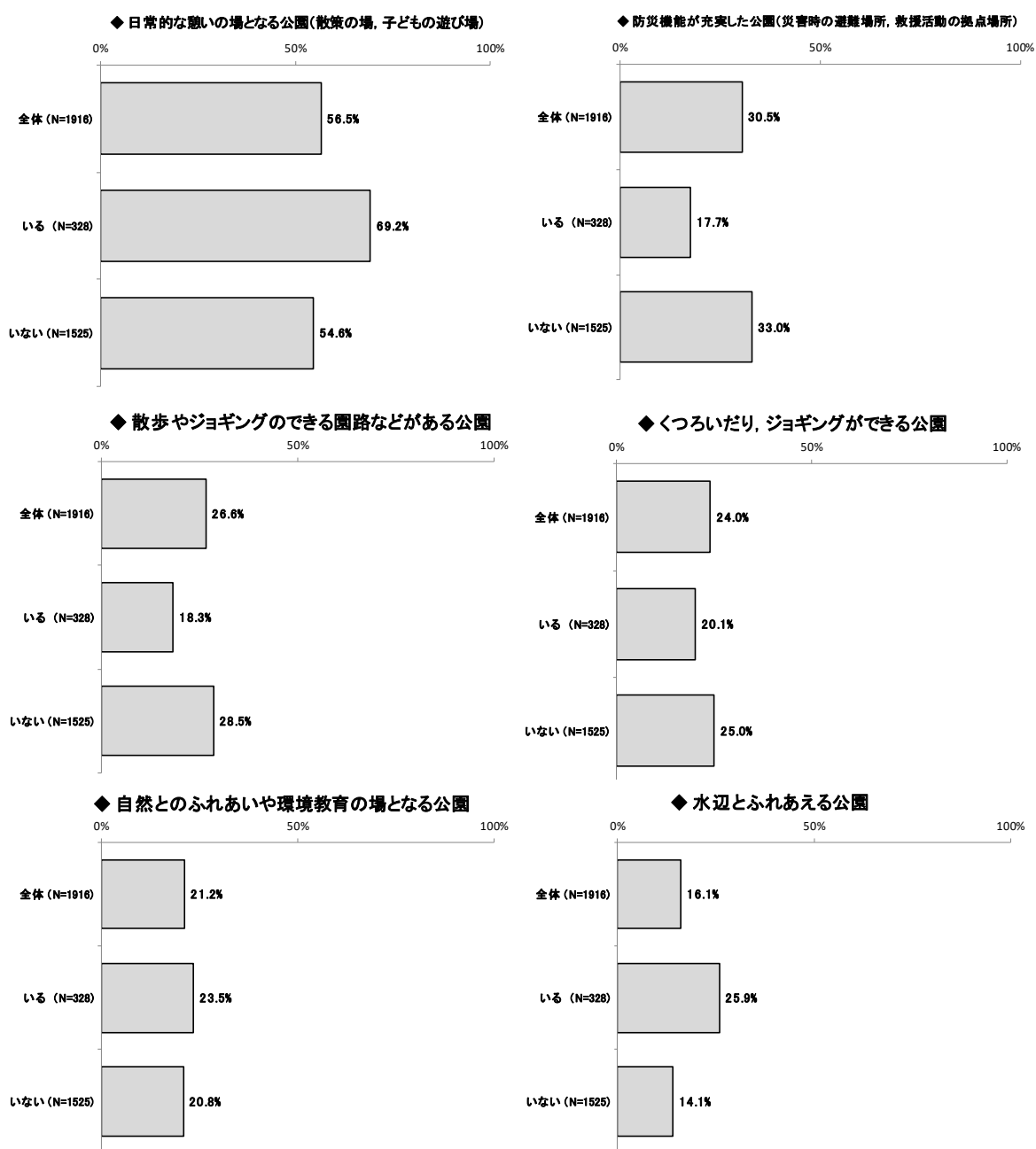


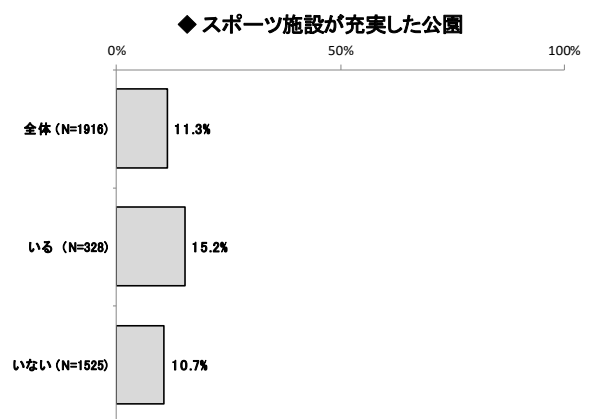
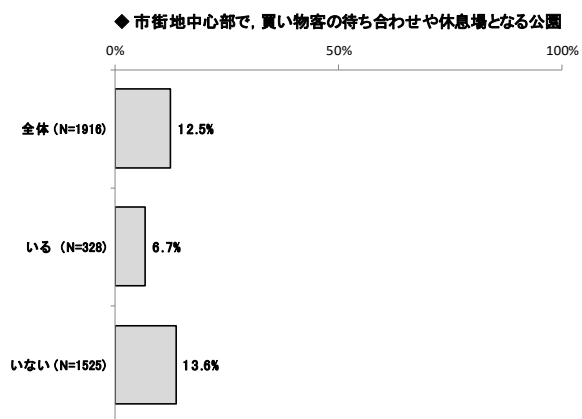
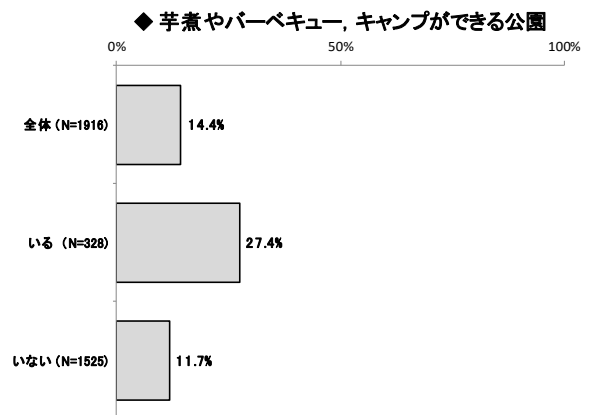
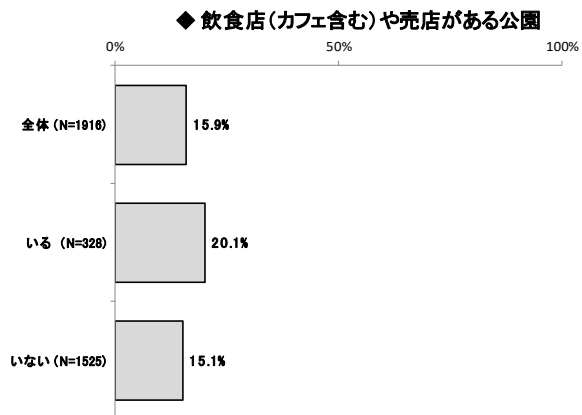
● 小学校以下の子どもの有無別 ●

小学生以下の子どもの有無別にみると、【子どもがいる】人では、「日常的な憩いの場となる公園（散策の場、子どもの遊び場）」（69.2%）、「芋煮やバーベキュー、キャンプができる公園」（27.4%）「水辺と触れ合える公園」（25.9%）で、【子どもがいない】人を大きく上回っている。

一方、【子どもがいない】人では、「防災機能が充実した公園（災害時の避難場所、救援活動の拠点場所）」（33.0%）、「散歩やジョギングのできる園路などがある公園」（28.5%）となっており、【子どもがいる】人を大きく上回っている。

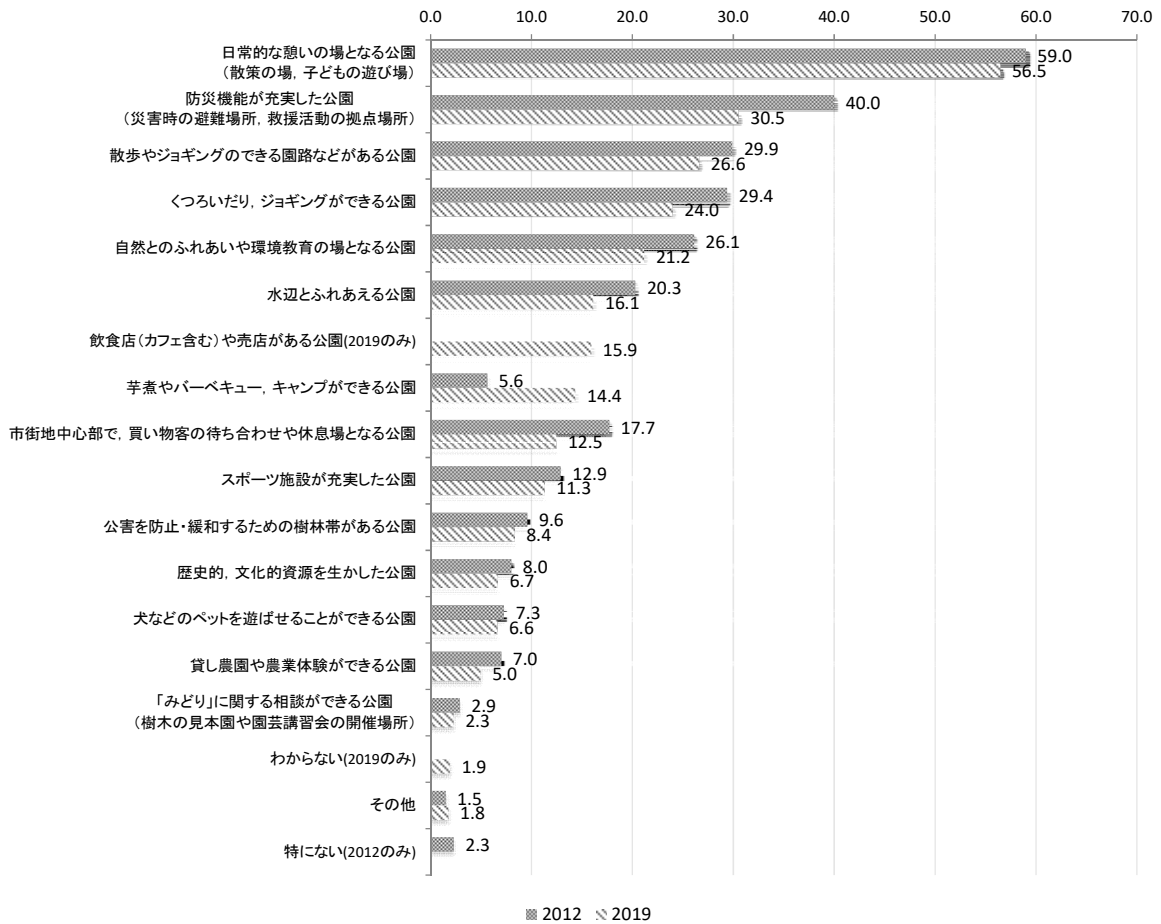
※上位10項目のみ抜粋





● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「日常的な憩いの場となる公園（散策の場、子どもの遊び場）」などを含む前回と同様の選択肢の割合が減少し、新しく追加した選択肢「飲食店（カフェ含む）や売店がある公園」の回答が約2割と多くなっている。



(4)「都心部」と「住宅地」の街路樹について

①街路樹の満足度

都心部の街路樹の印象については、「量・質ともに十分である」(33.7%)が最も多く、次いで「量・質ともに不十分である」(31.7%)、「量は十分だが、質はよくない」(15.6%)、「量は不十分だが、質はよい」(15.3%)となっている。

住宅地の街路樹の印象については、「量・質ともに不十分である」(38.7%)が最も多く、次いで「量・質ともに十分である」(26.9%)、「量は十分だが、質はよくない」(22.5%)、「量は不十分だが、質はよい」(8.2%)となっている。

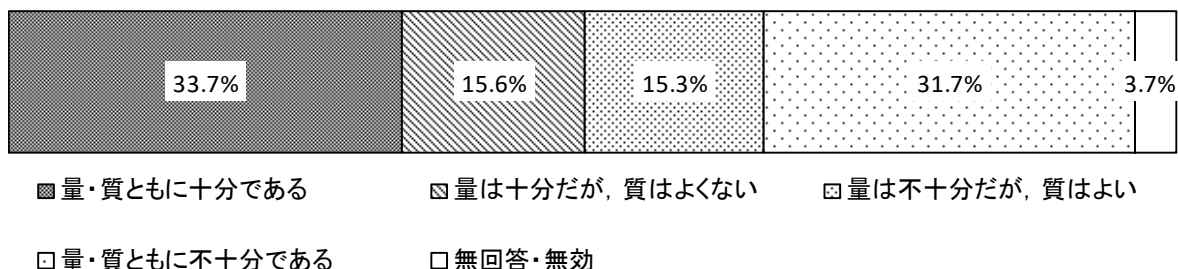
都心部と住宅地を比較すると、都心部の方が「量・質ともに十分である」の割合が高く、また「量・質ともに不十分である」の割合も低いことから、都心部の満足度の方が高くなっている。

問 26 現在の仙台市の都心部、住宅地の街路樹の量や質について、それぞれどのような印象を持っていますか。

※街路樹の「質」とは、気候緩和などの都市環境を改善する機能や、景観を美しくする機能、生物を保全する機能、癒し(いやし)を与える機能などのことです。

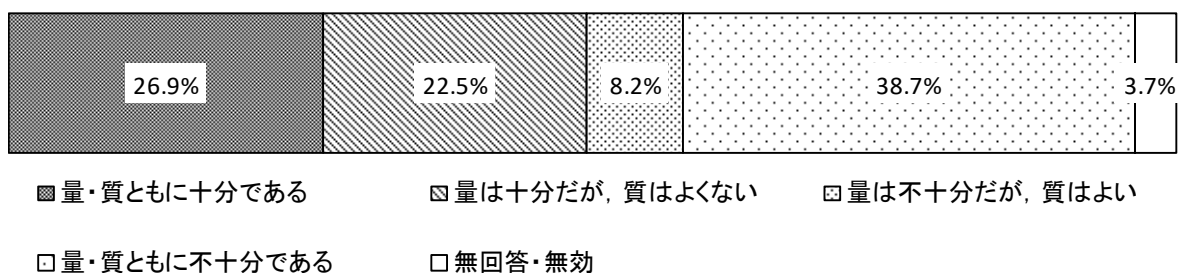
(「都心部」「住宅地」各項目それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

【都心部】



【住宅地】

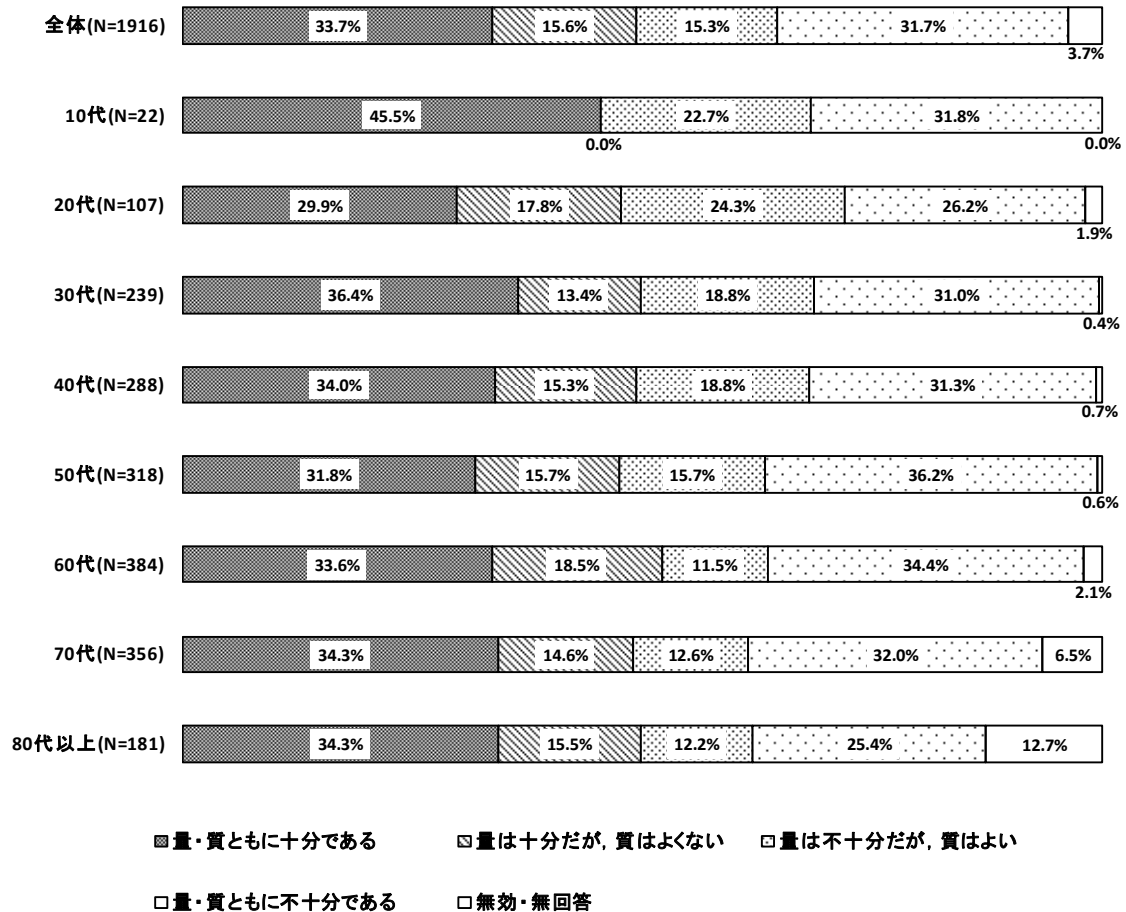
N=1916



N=1916

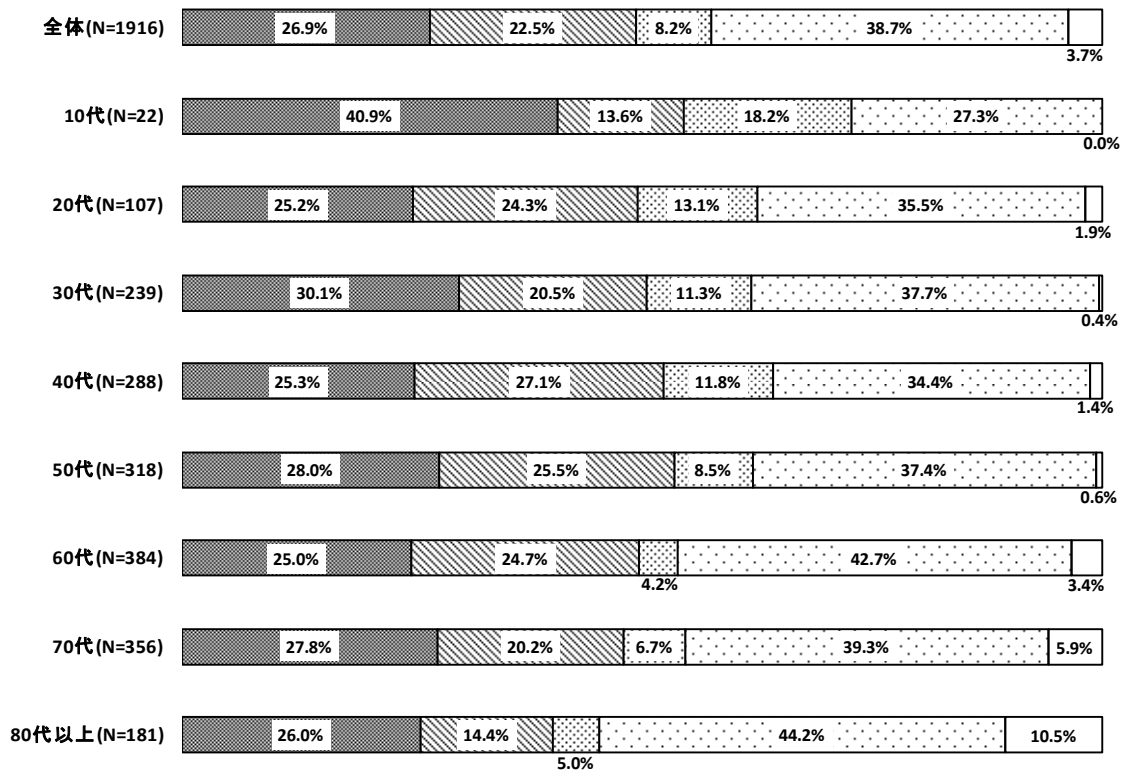
● 年代別(都心部) ●

都心部の街路樹の印象を、年代別にみると、「量・質ともに十分である」が【50代】、【60代】を除く各年代で「量・質ともに不十分である」を上回っている。



● 年代別(住宅地) ●

住宅地の街路樹の印象を、年代別にみると、「量・質ともに十分である」が【10代】を除く各年代で「量・質ともに不十分である」を下回っており、【50代】以降の年代では、4割前後と全体より多くなっている。

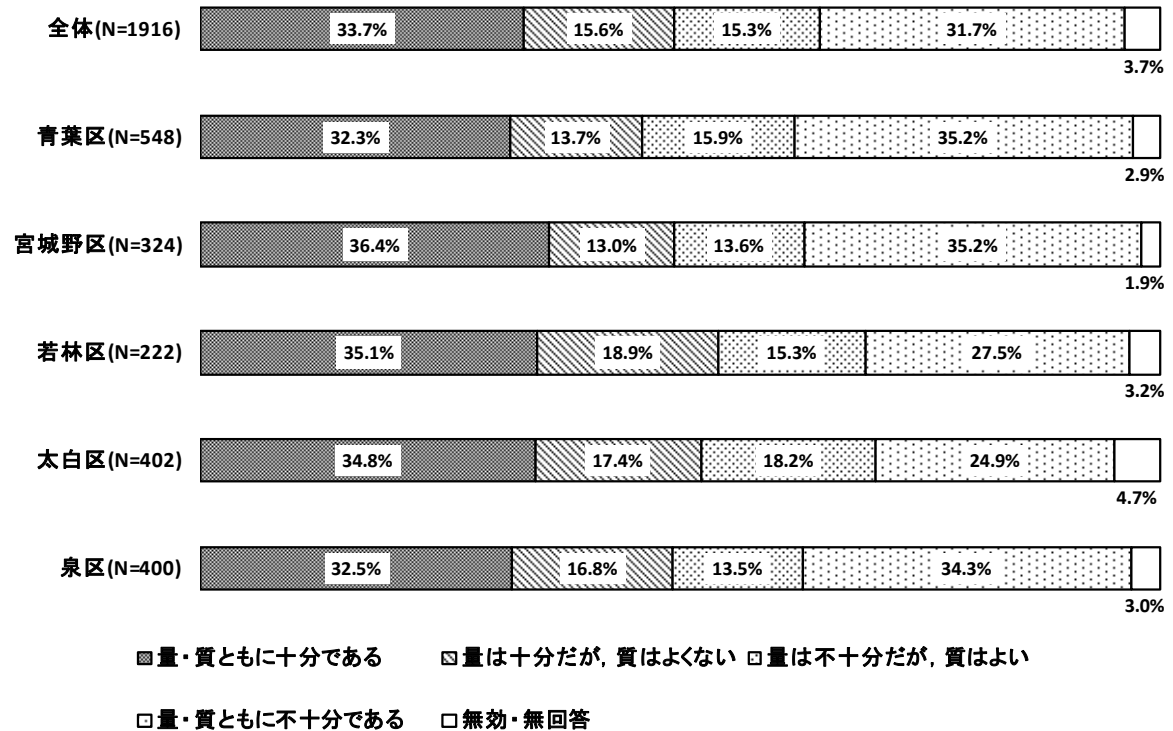


- 量・質ともに十分である
- ▨ 量は十分だが、質はよくない
- ▩ 量は不十分だが、質はよい
- 量・質ともに不十分である
- 無効・無回答

● 居住地区別(都心部) ●

都心部の街路樹の印象を、居住地区別にみると、「量は十分だが、質はよくない」は、【若林区】(18.9%)で他の区に比べて多くなっている。

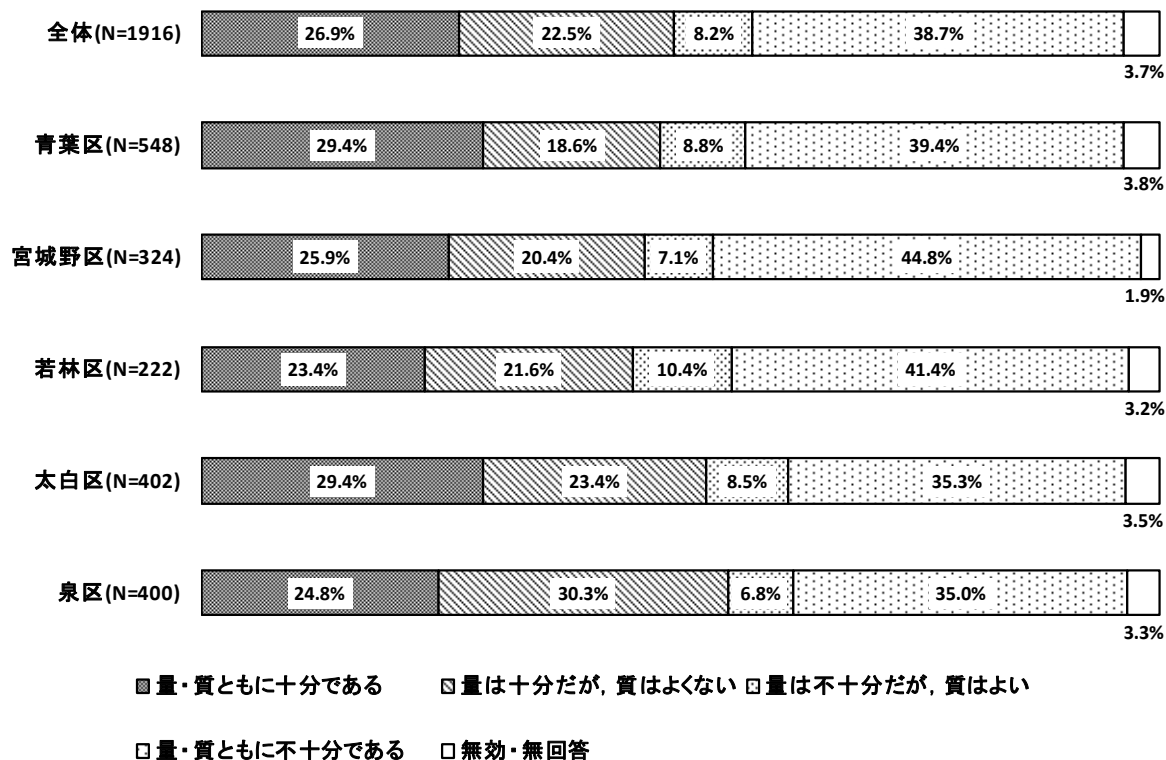
また、「量は不十分だが、質はよい」では、【太白区】(18.2%)で他の区に比べて多くなっている。



● 居住地区別(住宅地) ●

住宅地の街路樹の印象を、居住地区別にみると、「量は十分だが、質はよくない」は、【泉区】(30.3%)で、他の区に比べて多くなっている。

また、「量・質ともに不十分である」は、【宮城野区】(44.8%)及び【若林区】(41.4%)で、他の区に比べて多くなっている。



● 満足度の比較 ●

『問9 身近なみどりの満足度』、『問14 「杜の都」という言葉からみるみどりの満足度』、『問24 住まいの近くの公園の満足度』、『問26 街路樹の印象【都心部】』及び『問26 街路樹の印象【住宅地】』の比較である。

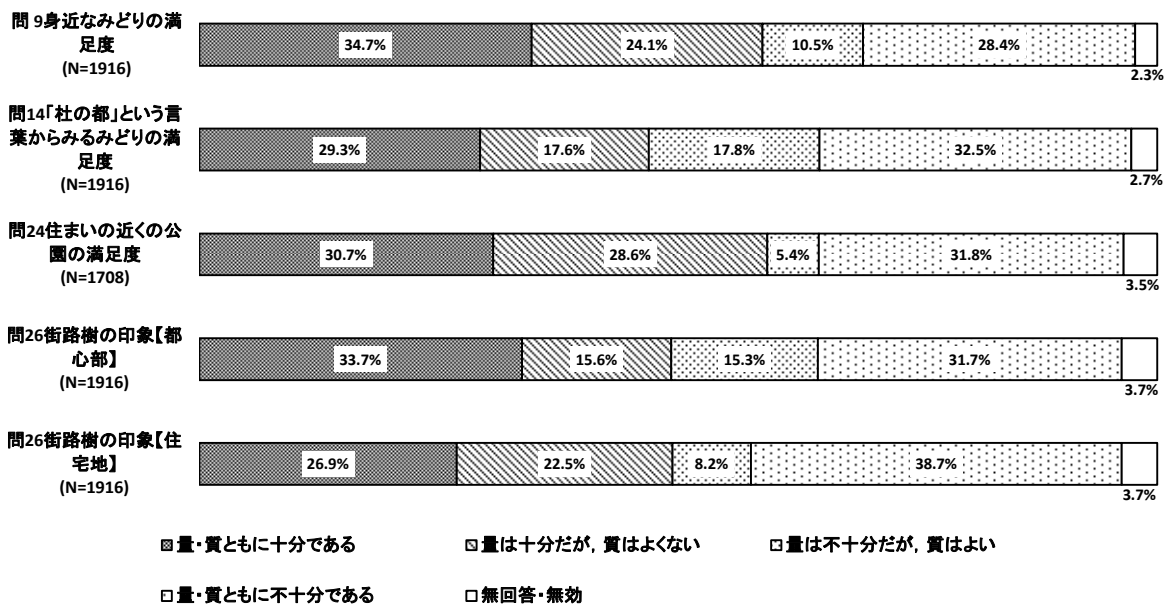
『問9 身近なみどりの満足度』と『問14 「杜の都」という言葉からみるみどりの満足度』を比較すると、身近なみどりの満足度のほうが高い。また、身近なみどりは量に関する満足度が高い一方、「杜の都」という言葉からみるみどりは質に関する満足度が高い。

全ての設問で比較すると、『問9 身近なみどりの満足度』及び『問26 街路樹の印象【都心部】』を除く設問では「量・質ともに不十分である」が最も多くなっている。特に、『問26 街路樹の印象【住宅地】』では38.7%と他の設問に比べて多くなっている。

「量・質ともに十分である」は、『問9 身近なみどりの満足度』(34.7%)、『問26 街路樹の印象【都心部】』(33.7%)、『問24 住まいの近くの公園の満足度』(30.7%)で3割を超え、多くなっている。

「量は十分だが、質はよくない」は、『問24 住まいの近くの公園の満足度』で28.6%と、他の設問に比べて多くなっている。

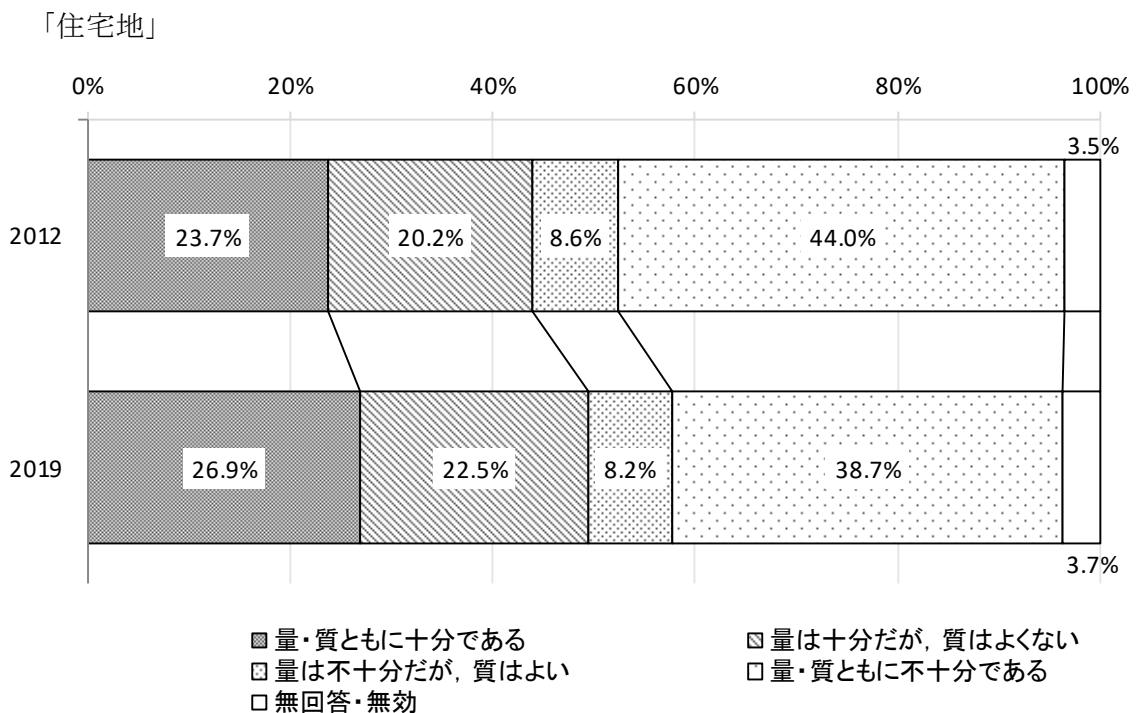
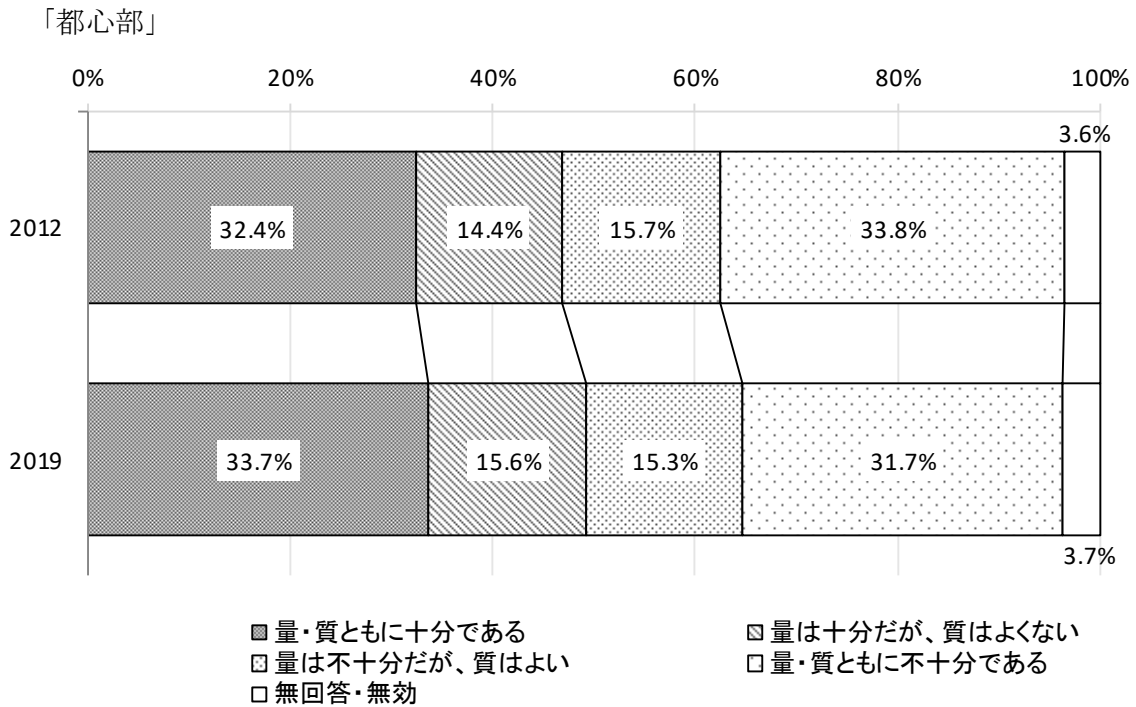
「量は不十分だが、質はよい」は、『問14 「杜の都」という言葉からみるみどりの満足度』(17.8%)及び『問26 街路樹の印象【都心部】』(15.3%)で他の設問に比べて多くなっている。



● 2012年アンケートとの比較 ●

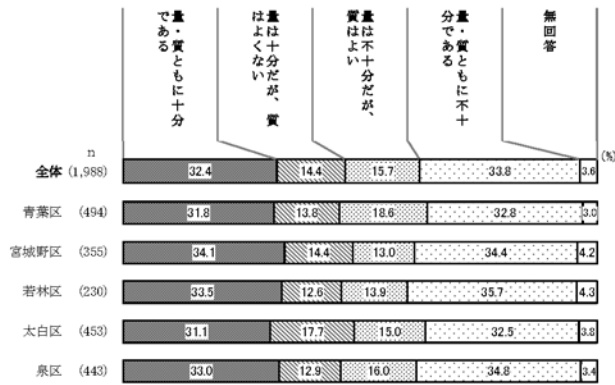
2012年と比較すると、「都心部」の「量・質ともに十分である」、「量は十分だが、質はよくない」の割合は大きな変化がないが、「住宅地」では「量・質ともに不十分である」の割合が大きく減少している。

また、居住地区別にみると、「住宅地」の太白区の「量・質ともに十分である」が大きく増加している。

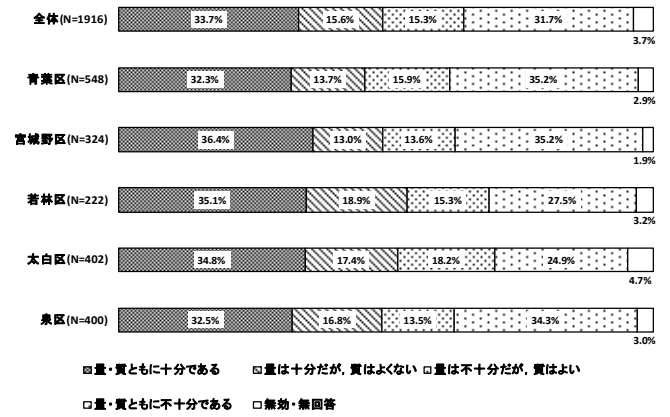


「都心部」

「2012年調査」

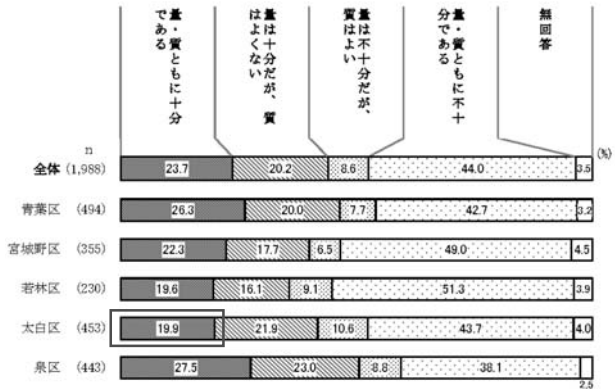


「2019年調査」

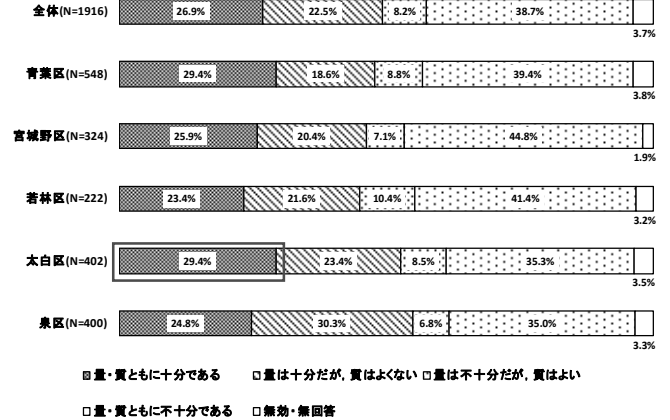


「住宅地」

「2012年調査」



「2019年調査」



②街路樹に期待する機能

都心部の街路樹に期待する機能については、「気候緩和や騒音防止、大気浄化などの都市環境を改善する機能」(55.0%)が最も多く、次いで「人工的な都市の景観を美しくする機能」(47.3%)、「紅葉や開花、芽吹きなどによって季節感を与える機能」(45.0%)、「日差しや雨などから歩行者を守る機能」(33.9%)、「運転手や歩行者の心をなごませる機能」(20.8%)となっている。

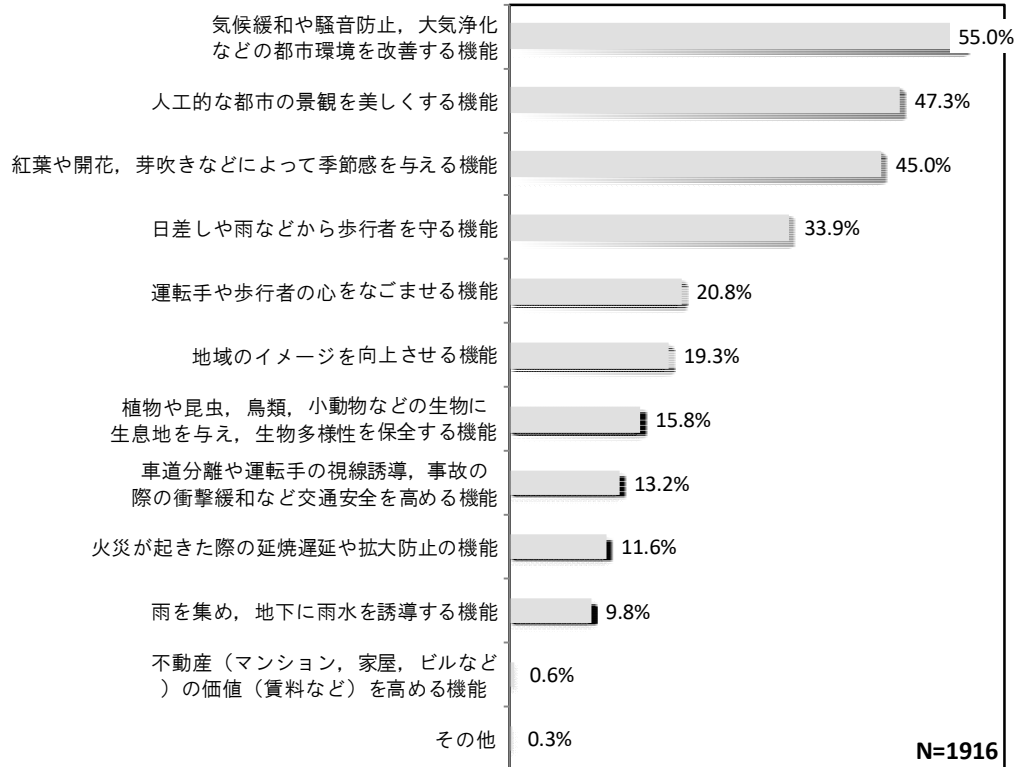
住宅地の街路樹に期待する機能については、「紅葉や開花、芽吹きなどによって季節感を与える機能」(52.3%)が最も多く、次いで「気候緩和や騒音防止、大気浄化などの都市環境を改善する機能」(40.2%)、「植物や昆虫、鳥類、小動物などの生物に生息地を与え、生物多様性を保全する機能」(34.3%)、「地域のイメージを向上させる機能」(28.2%)、「人工的な都市の景観を美しくする機能」(25.2%)となっている。

都心部と住宅地を比較すると、都心部は「気候緩和や騒音防止、大気浄化などの都市環境を改善する機能」や「人工的な都市の景観を美しくする機能」など都市環境の改善・向上を期待する一方、住宅地は「紅葉や開花、芽吹きなどによって季節感を与える機能」や「植物や昆虫、鳥類、小動物などの生物に生息地を与え、生物多様性を保全する機能」など自然を体感する要素として期待されている。

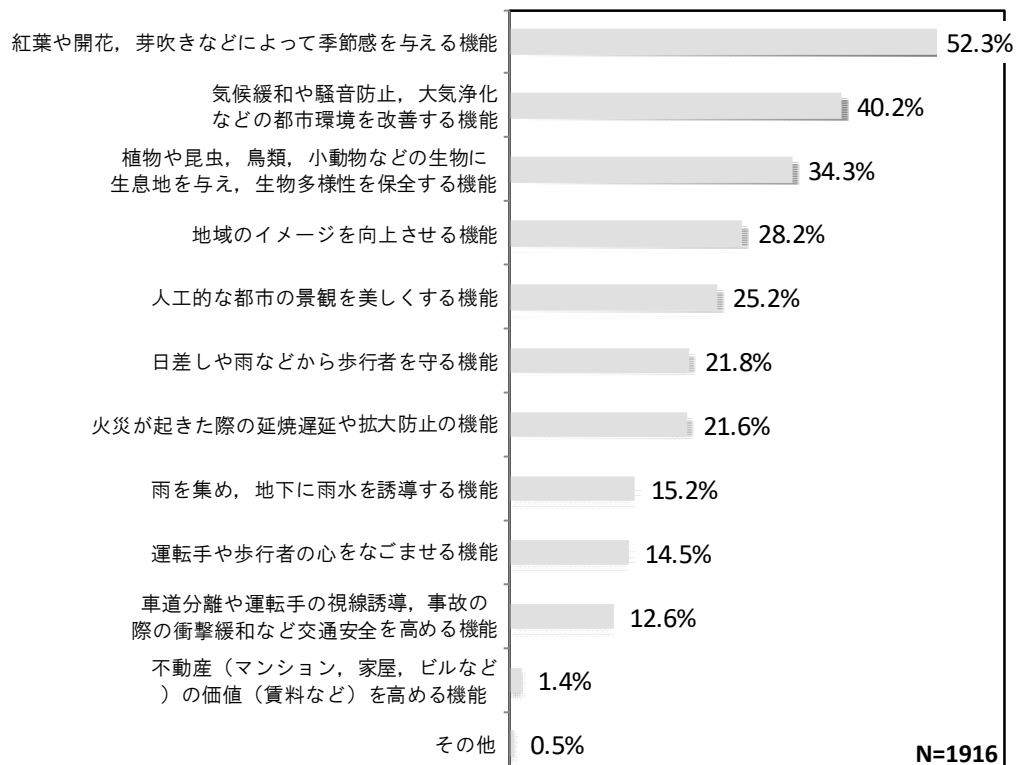
問 27 街路樹には、皆さんの生活の質を高めるための様々な機能があります。あなたが都心部、住宅地で街路樹に期待する機能として、特に重要なものは何ですか。

(「都心部」「住宅地」各項目それぞれについて、主にあてはまる番号3つまでに○)

【都心部】



【住宅地】

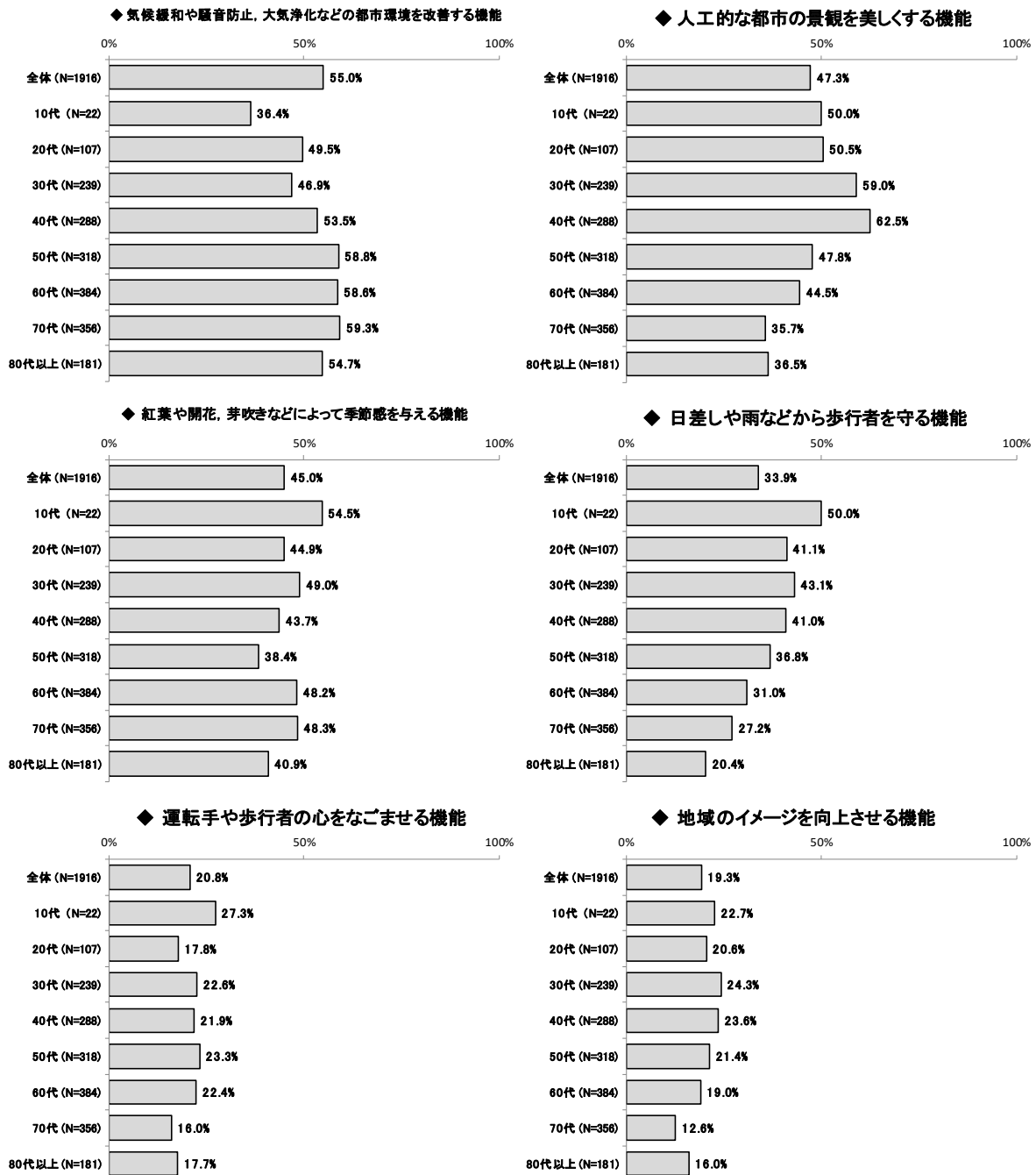


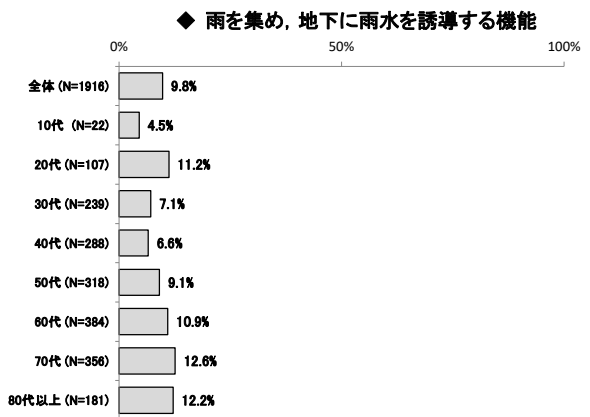
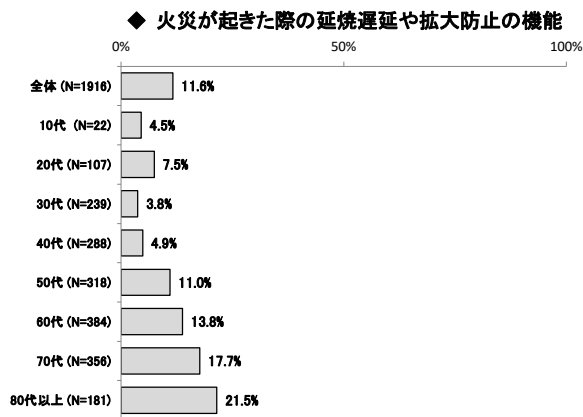
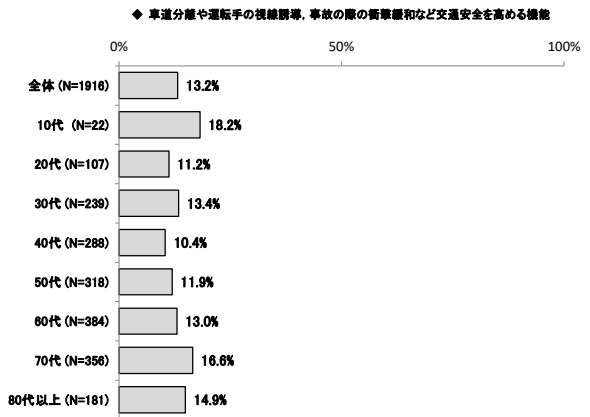
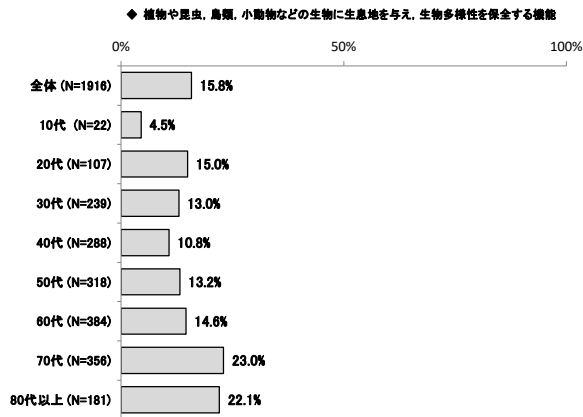
● 年代別(都心部) ●

都心部の街路樹に期待する機能について、年代別にみると、「気候緩和や騒音防止、大気浄化などの都市環境を改善する機能」は、【10代】を除く各年代で多くなっている。

また、「日差しや雨などから歩行者を守る機能」は、【30代】以降は減少傾向になっている。

※上位10項目のみ抜粋



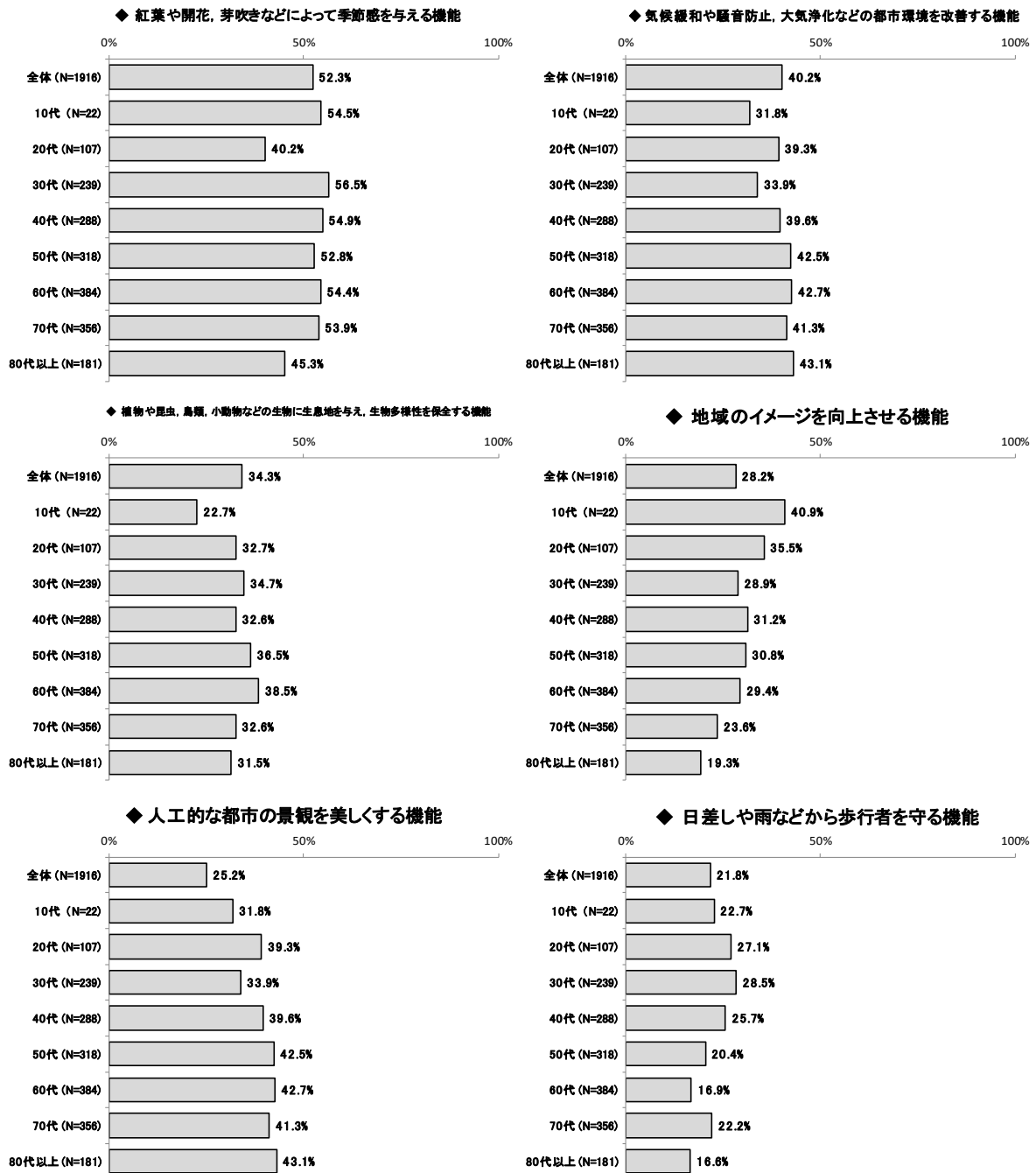


● 年代別(住宅地) ●

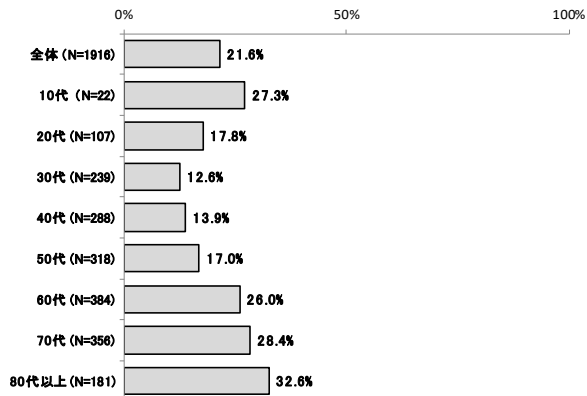
住宅地の街路樹に期待する機能について、年齢別にみると、「紅葉や開花、芽吹きなどによって季節感を与える機能」は、【20代】及び【80代以上】を除く年代で5割を超え多くなっている。

また、「地域のイメージを向上させる機能」は、【10代】が最も多くなっている。

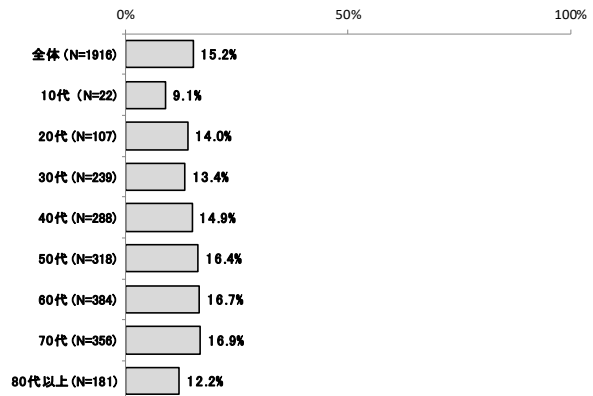
※上位10項目のみ抜粋



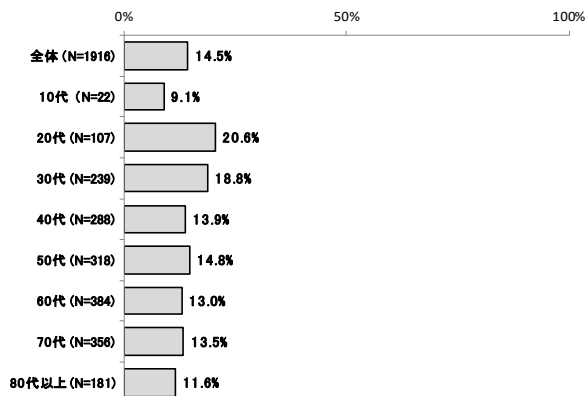
◆ 火災が起きた際の延焼遅延や拡大防止の機能



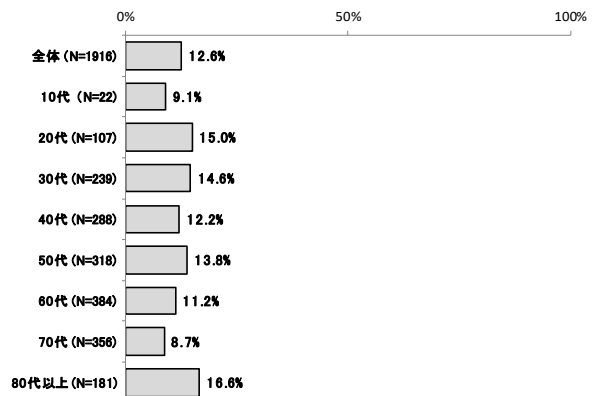
◆ 雨を集め、地下に雨水を誘導する機能



◆ 運転手や歩行者の心をなごませる機能



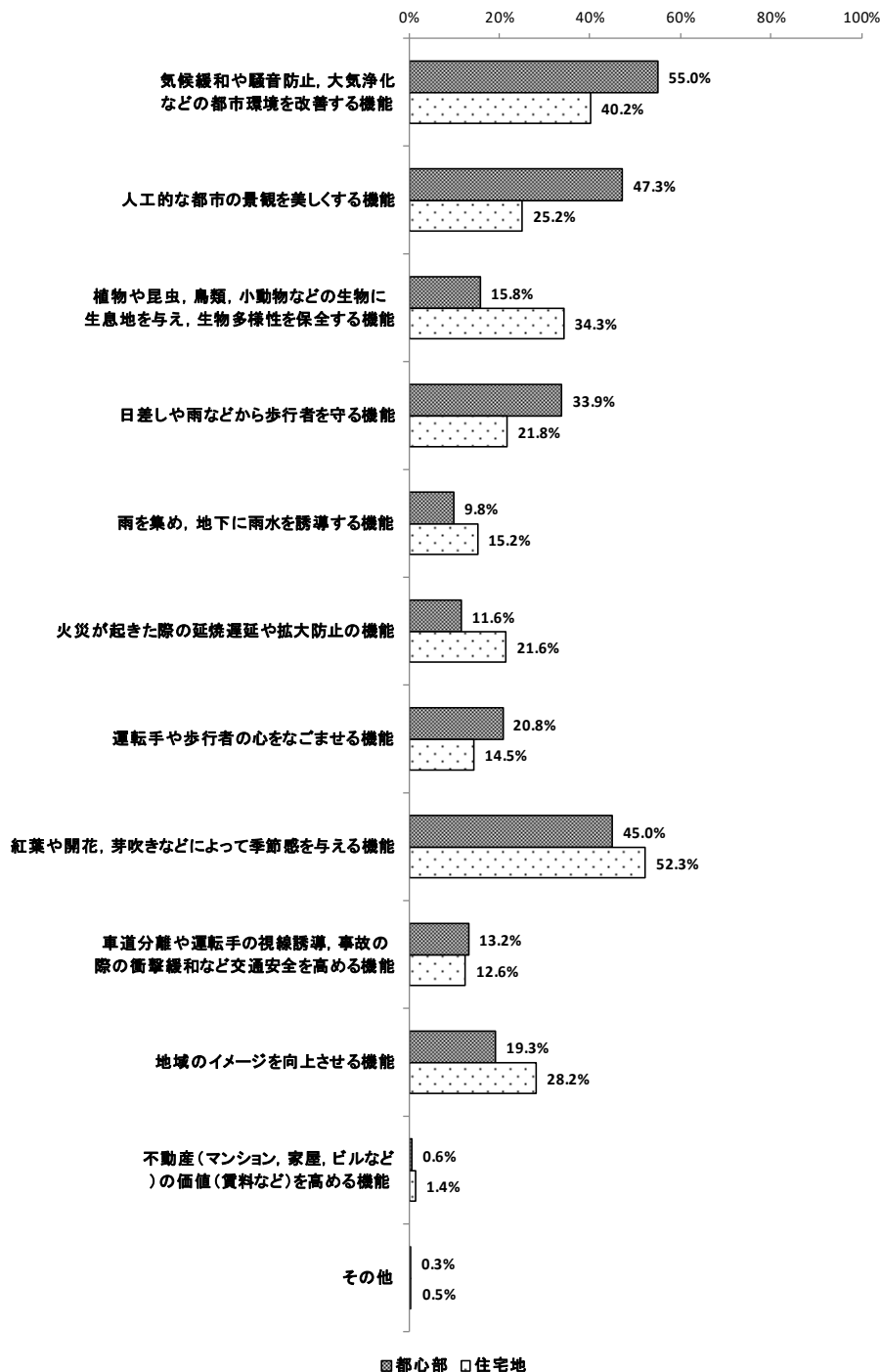
◆ 車道分離や運転手の視線誘導、事故の際の衝撃緩和など交通安全を高める機能



● 街路樹に期待する機能(都心部と住宅地の比較) ●

『問 27 街路樹に期待する機能【都心部】』と、『問 27 街路樹に期待する機能【住宅地】』を比較すると、「気候緩和や騒音防止、大気浄化などの都市環境を改善する機能」(都心部：55.0%、住宅地：40.2%)、「紅葉や開花、芽吹きなどによって季節感を与える機能」(都心部：45.0%、住宅地：52.3%)は、両設問に共通して多くなっている。

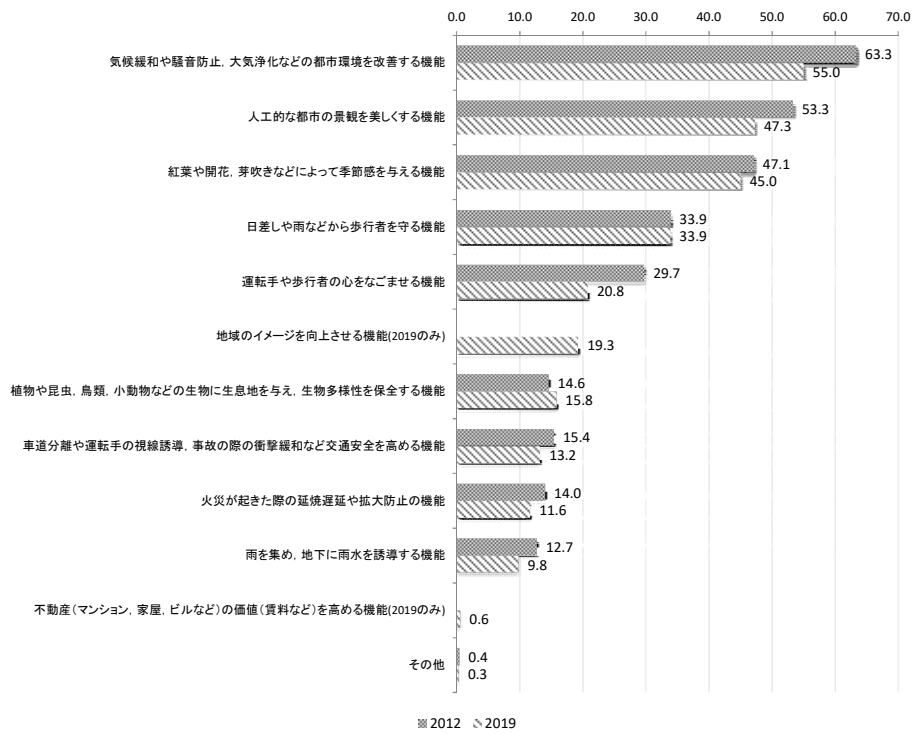
また、「人工的な都市の景観を美しくする機能」は都心部(47.3%)が住宅地(25.2%)、「植物や昆虫、鳥類、小動物などの生物に生息地を与え、生物多様性を保全する機能」は都心部(15.8%)が住宅地(34.3%)と都心部と住宅地で大きな開きがある。



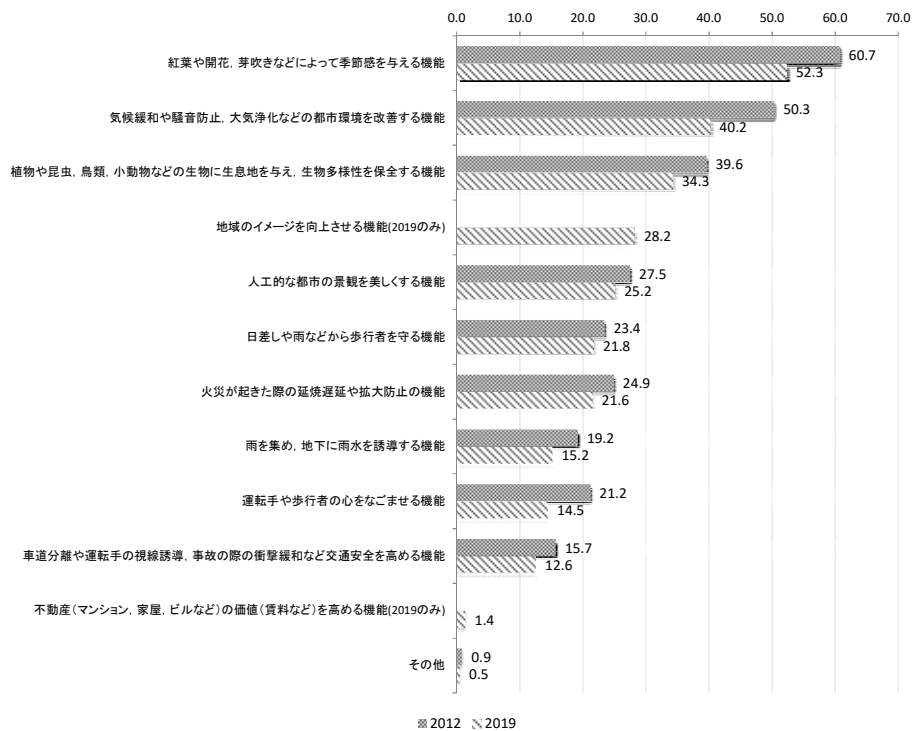
● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、都心部、住宅地ともに「紅葉や開花、芽吹きなどによって季節感を与える機能」などの割合が減少し、新しく追加した選択肢「地域のイメージを向上させる機能」の回答が約2～3割となっている。

「都心部」



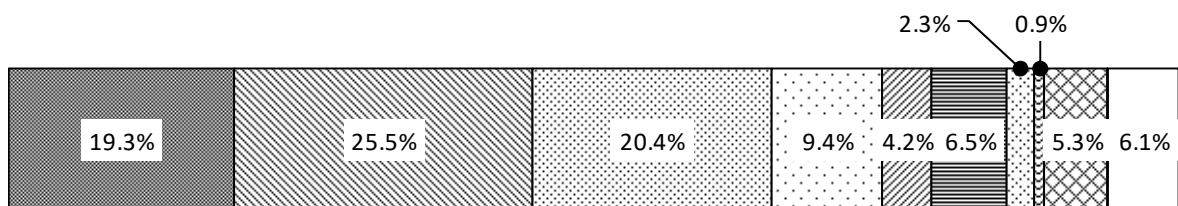
「住宅地」



③高木の街路樹の管理

街路樹の管理については、「数年に1回程度枝を強く切り詰めるような剪定を行い、一時的に樹形が乱れても現在植栽されている樹種を活かす」(25.5%)が最も多く、次いで「植樹(樹木を植える場所)の大きさや電線の位置などの生育環境に合わせ、枝葉があまり拡がらない高木や中木、低木に積極的に植え替える」(20.4%)、「毎年多額の費用がかかっても、剪定などの管理を実施して、樹形を整える」(19.3%)、「道路通行上の妨げになるなど、樹木が大きくなり過ぎた場合は、同一樹種の若木に植え替える」(9.4%)、「街路樹(高木)を植栽する路線を限定する」(6.5%)となっている。

問 28 高木(樹高3m以上)の街路樹の管理について、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。
(あてはまる番号1つに○)



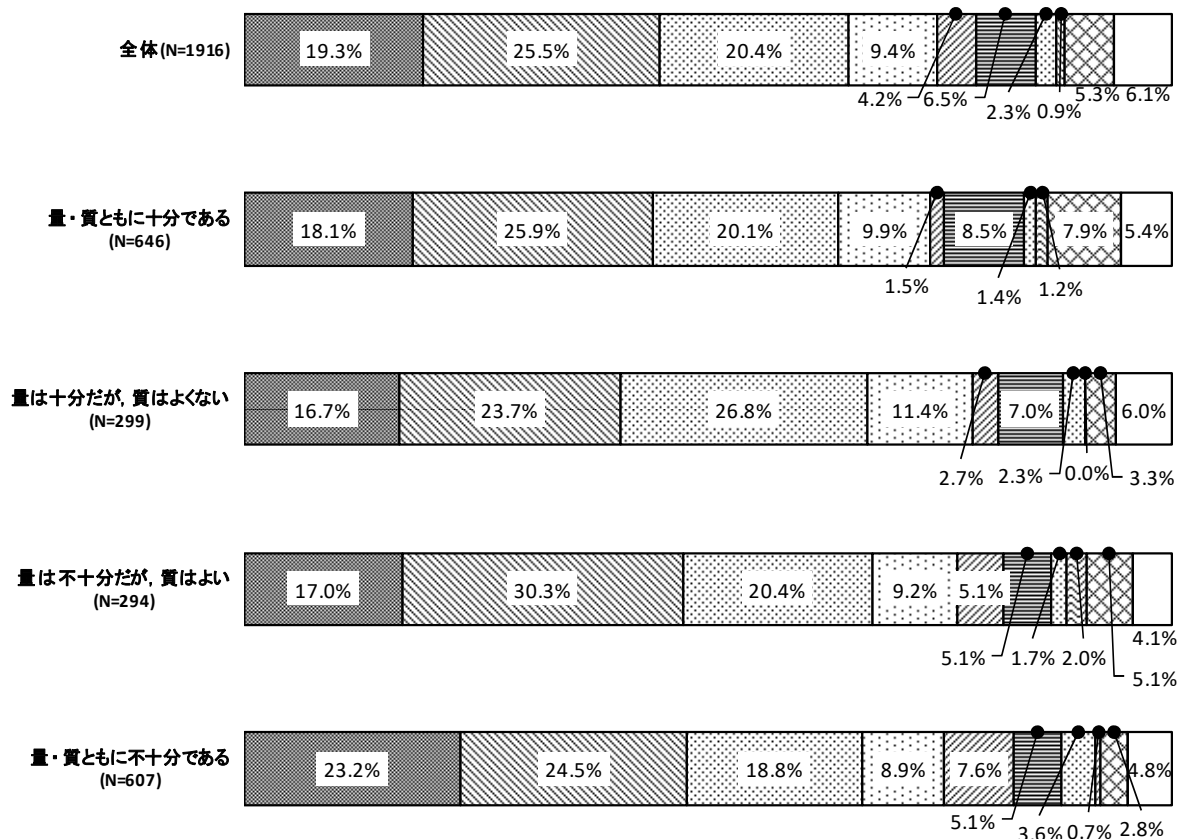
- 毎年多額の費用がかかっても、剪定などの管理を実施して、樹形を整える
- 数年に1回程度枝を強く切り詰めるような剪定を行い、一時的に樹形が乱れても現在植栽されている樹種を活かす
- 植樹(樹木を植える場所)の大きさや電線の位置などの生育環境に合わせ、枝葉があまり拡がらない高木や中木、低木に積極的に植え替える
- 道路通行上の妨げになるなど、樹木が大きくなり過ぎた場合は、同一樹種の若木に植え替える
- 歩道幅を拡げて植樹を大きくするなど生育環境を改善し、大きく育てる
- 街路樹(高木)を植栽する路線を限定する
- 膨大な手間と費用をかけて、街路樹を植栽したり、維持管理したりする必要はない
- その他
- わからない
- 無回答・無効

N=1916

● 街路樹の印象【都心部】(問28)別 ●

都心部の街路樹の印象別にみると、【量は不十分だが、質はよい】では「数年に1回程度枝を強く切り詰めるような剪定を行い、一時的に樹形が乱れても現在植栽されている樹種を活かす」(30.3%)が最も多くなっている。

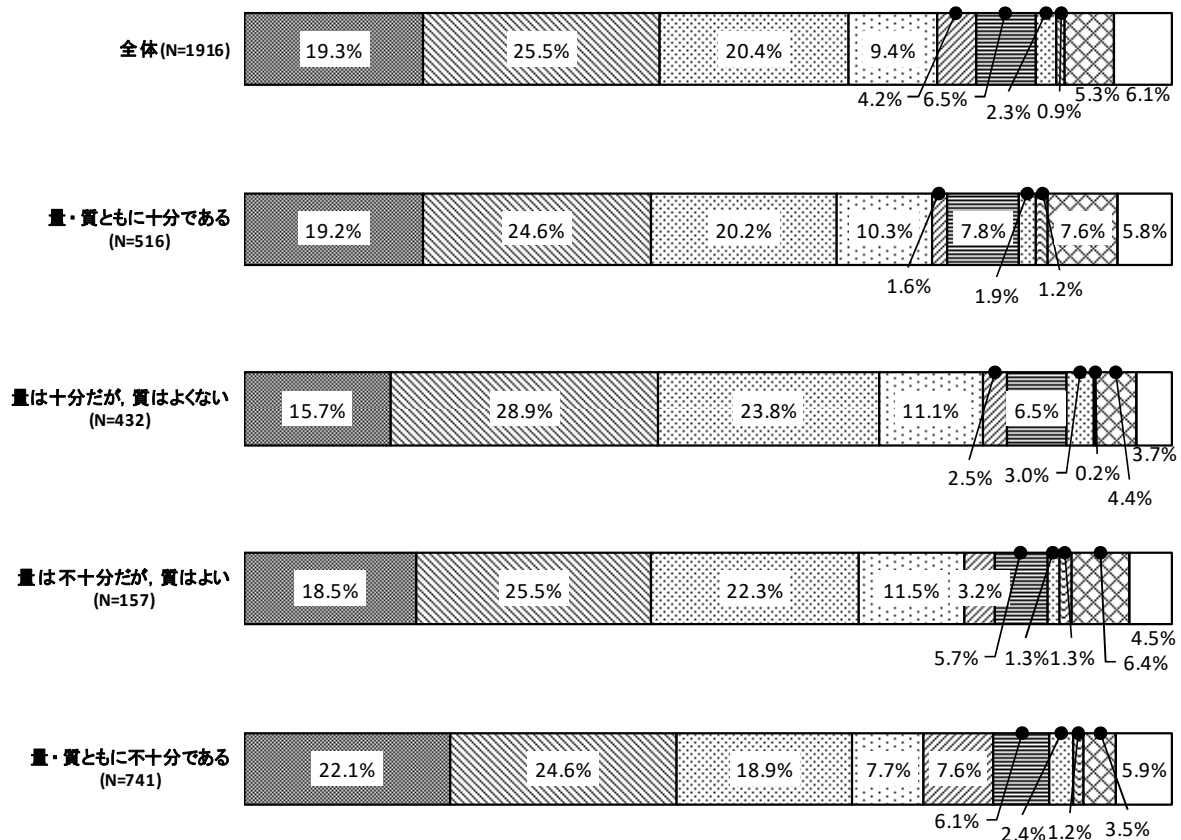
【量は十分だが、質はよくない】では「植枿(樹木を植える場所)の大きさや電線の位置などの生育環境に合わせ、枝葉があまり拡がらない高木や中木、低木に積極的に植え替える」(26.8%)が最も多くなっている。



- 毎年多額の費用がかかっても、剪定などの管理を実施して、樹形を整える
- 数年に1回程度枝を強く切り詰めるような剪定を行い、一時的に樹形が乱れても現在植栽されている樹種を活かす
- 植枿(樹木を植える場所)の大きさや電線の位置などの生育環境に合わせ、枝葉があまり拡がらない高木や中木、低木に積極的に植え替える
- 道路通行上の妨げになるなど、樹木が大きくなり過ぎた場合は、同一樹種の若木に植え替える
- 歩道幅を広げて植枿を大きくするなど生育環境を改善し、大きく育てる
- 街路樹(高木)を植栽する路線を限定する
- 膨大な手間と費用をかけて、街路樹を植栽したり、維持管理したりする必要はない
- その他
- わからない
- 無効・無回答

● 街路樹の印象【住宅地】(問28)別 ●

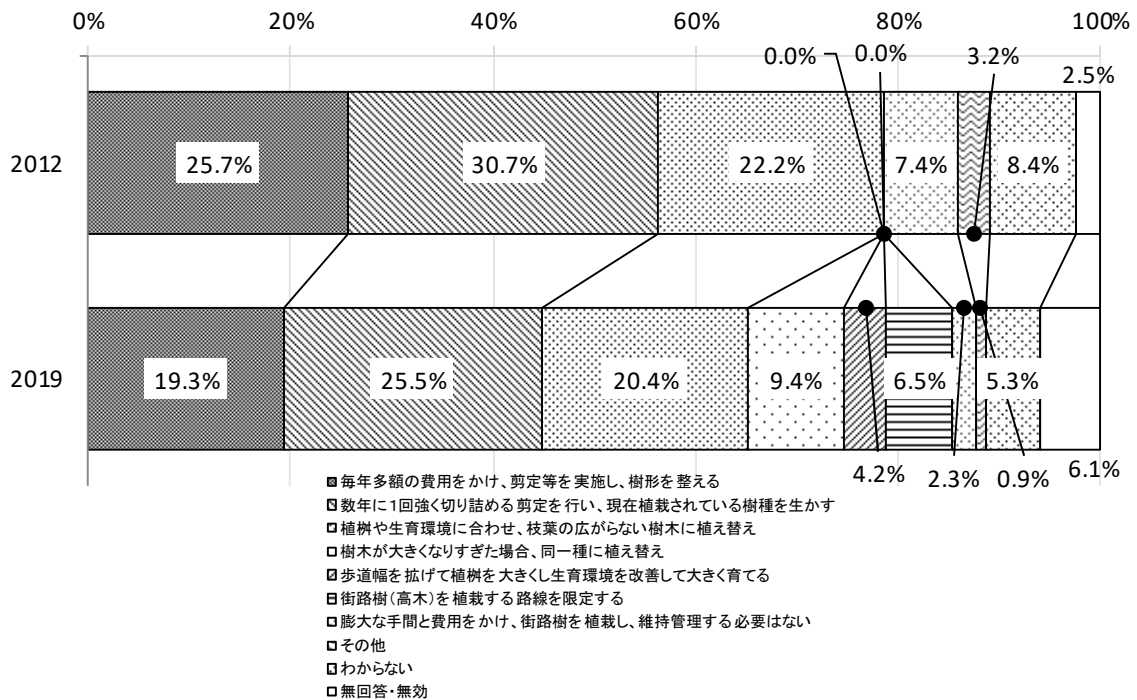
住宅地の街路樹の印象別にみると、【量は十分だが、質はよくない】では「数年に1回程度枝を強く切り詰めるような剪定を行い、一時的に樹形が乱れても現在植栽されている樹種を活かす」(28.9%)が最も多くなっている。



- 毎年多額の費用がかかっても、剪定などの管理を実施して、樹形を整える
- 数年に1回程度枝を強く切り詰めるような剪定を行い、一時的に樹形が乱れても現在植栽されている樹種を活かす
- 植樹(樹木を植える場所)の大きさや電線の位置などの生育環境に合わせ、枝葉があまり拡がらない高木や中木、低木に積極的に植え替える
- 道路通行上の妨げになるなど、樹木が大きくなり過ぎた場合は、同一樹種の若木に植え替える
- 歩道幅を拡げて植樹を大きくするなど生育環境を改善し、大きく育てる
- 街路樹(高木)を植栽する路線を限定する
- 膨大な手間と費用をかけて、街路樹を植栽したり、維持管理したりする必要はない
- その他
- わからない
- 無効・無回答

● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「毎年多額の費用がかかっても、剪定などの管理を実施して、樹形を整える」や「植樹（樹木を植える場所）の大きさや電線の位置などの生育環境に合わせ、枝葉があまり広がらない高木や中木、低木に積極的に植え替える」などの割合が減少し、「歩道幅を拓げて植樹を大きくするなど生育環境を改善し、大きく育てる」、「街路樹（高木）を植栽する路線を限定する」など新たな選択肢の割合が多くなっている。



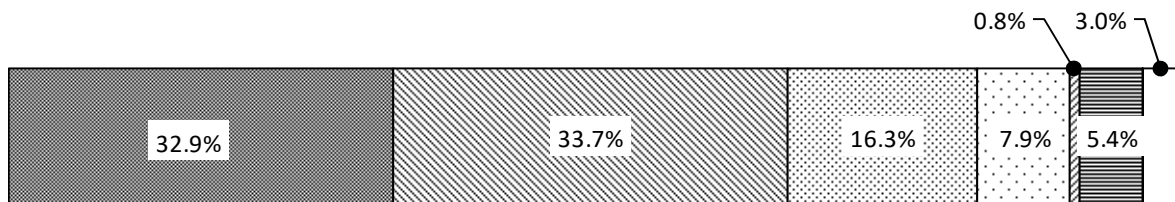
(5)定禅寺通・青葉通のケヤキ(街路樹)について

①街路樹の方向性

街路樹の方向性については、「若々しく現在の並木の状態を保てるように計画的に植え替えを行っていく」(33.7%)が最も多く、次いで「現在の更新方法のままで状態の悪いケヤキから植え替えを行っていく」(32.9%)、「計画的な植え替えに加えて、ケヤキを現在よりも大きく、シンボルとなるようにするために、歩道幅を拓げて植樹(樹木を植える場所)を大きくするなど生育環境を改善していく」(16.3%)、「計画的な植え替えに加えて、今より小さく管理を行っていく」(7.9%)、「わからない」(5.4%)となっている。

問 29 あなたはこれらの通りの街路樹についてどのようにするべきだと思いますか。

(あてはまる番号1つに○)

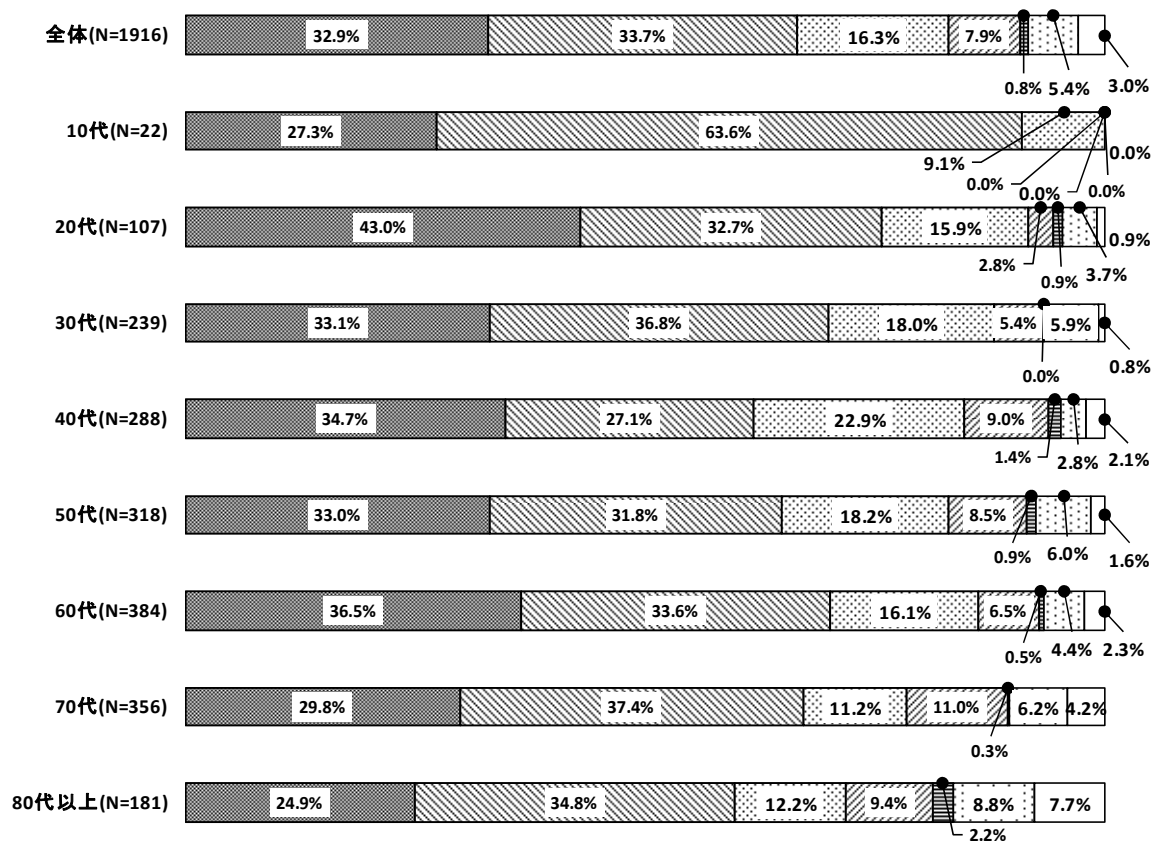


- 現在の更新方法のままで状態の悪いケヤキから植え替えを行っていく
- 若々しく現在の並木の状態を保てるように計画的に植え替えを行っていく
- 計画的な植え替えに加えて、ケヤキを現在よりも大きく、シンボルとなるようにするために、歩道幅を拓げて植樹(樹木を植える場所)を大きくするなど生育環境を改善していく
- 計画的な植え替えに加えて、今より小さく管理を行っていく
- その他
- わからない
- 無回答・無効

N=1916

● 年代別 ●

年代別にみると、「現在の更新方法のままで状態の悪いケヤキから植え替えを行っていく」は、【20代】及び【60代】で約4割と多くなっている。また、「計画的な植え替えに加えて、今より小さく管理を行っていく」は、【60代】を除く【40代】以降で1割に近い回答となっている。

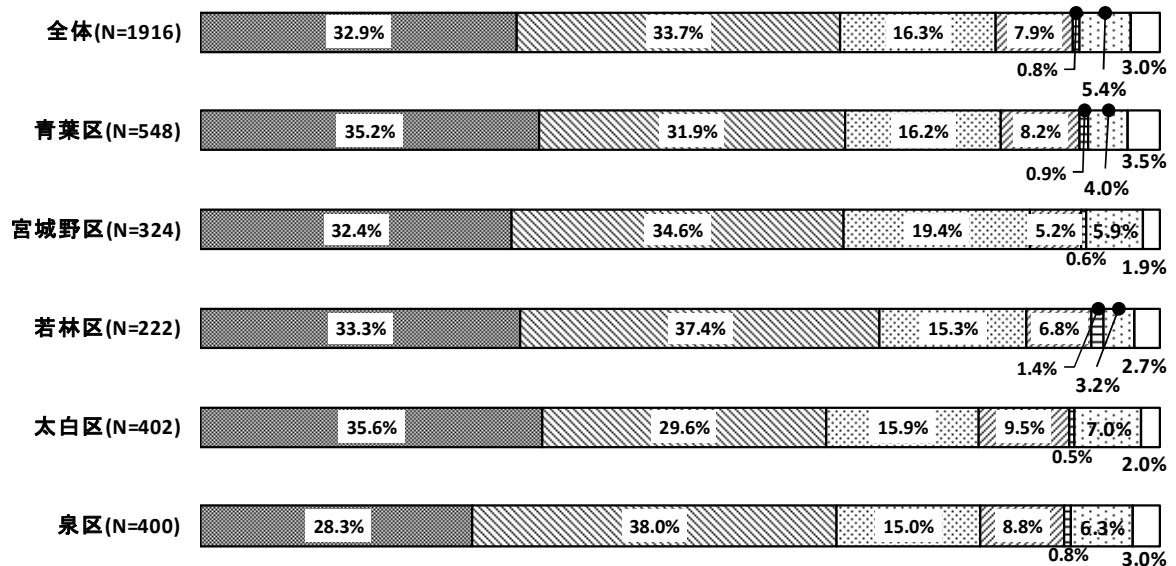


- 現在の更新方法のままで状態の悪いケヤキから植え替えを行っていく
- 若々しく現在の並木の状態を保てるように計画的に植え替えを行っていく
- 計画的な植え替えに加えて、ケヤキを現在よりも大きく、シンボルとなるようにするために、歩道幅を拡げて植枿(樹木を植える場所)を大きくするなど生育環境を改善していく
- 計画的な植え替えに加えて、今より小さく管理を行っていく
- その他
- わからない
- 無効・無回答

● 居住地区別 ●

年代別にみると、「現在の更新方法のままで状態の悪いケヤキから植え替えを行っていく」は、【泉区】を除く全区において3割以上と多くなっている。

また、「計画的な植え替えに加えて、今より小さく管理を行っていく」は、【青葉区】、【太白区】、【泉区】で1割に近い回答となっている。



- 現在の更新方法のままで状態の悪いケヤキから植え替えを行っていく
- 若々しく現在の並木の状態を保てるように計画的に植え替えを行っていく
- 計画的な植え替えに加えて、ケヤキを現在よりも大きく、シンボルとなるようにするために、歩道幅を拡げて植樹（樹木を植える場所）を大きくするなど生育環境を改善していく
- 計画的な植え替えに加えて、今より小さく管理を行っていく
- その他
- わからない
- 無効・無回答

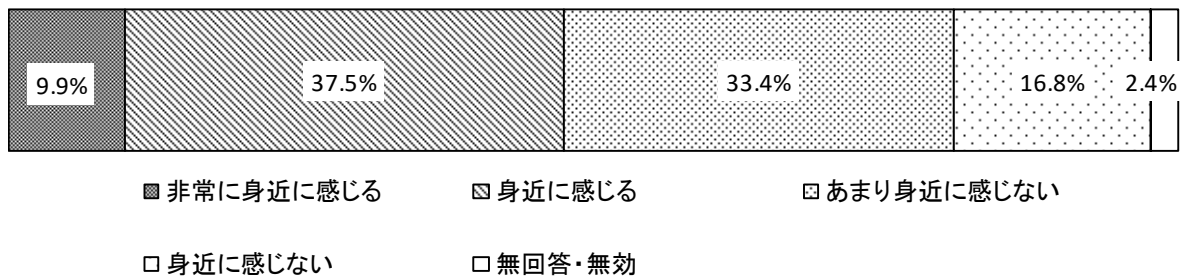
(6)河川について

①河川の身近さ

仙台市の河川への親しみについては、「身近に感じる」(37.5%)が最も多く、次いで「あまり身近に感じない」(33.4%)、「身近に感じない」(16.8%)、「非常に身近に感じる」(9.9%)となっている。

問 30 現在の仙台市内の河川について、身近に感じますか。

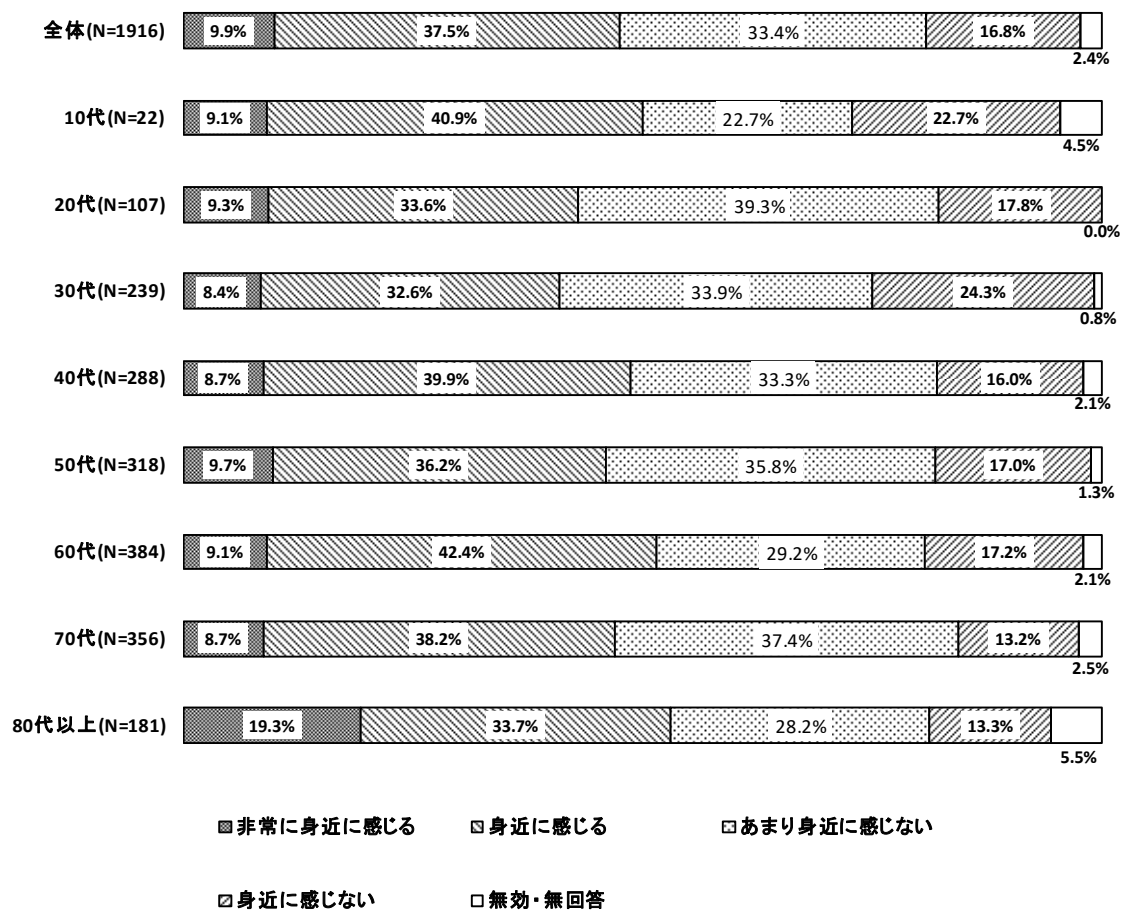
(あてはまる番号1つに○)



N=1916

● 年代別 ●

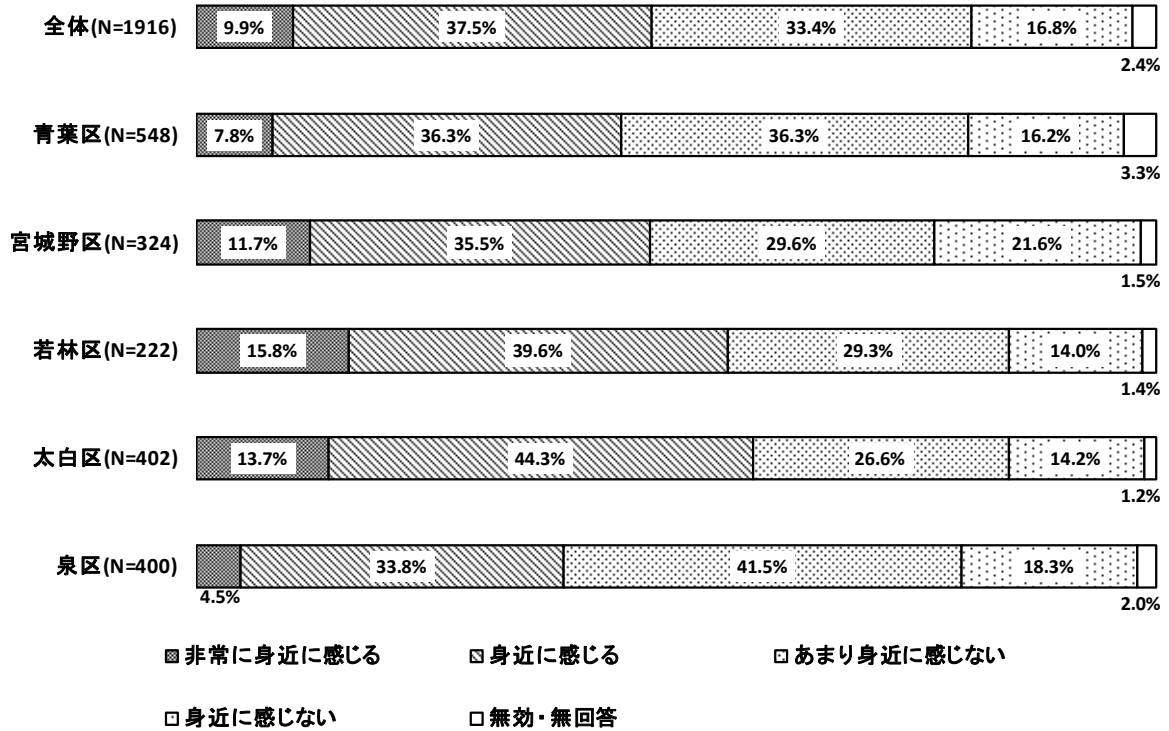
年代別にみると、「非常に身近に感じる」及び「身近に感じる」の合計が、【10代】及び【60代】、【80代以上】で5割を超えている。一方、「あまり身近に感じない」及び「身近に感じない」の合計が【20代】及び【30代】、【50代】、【70代】で5割を超えている。



● 居住地区別 ●

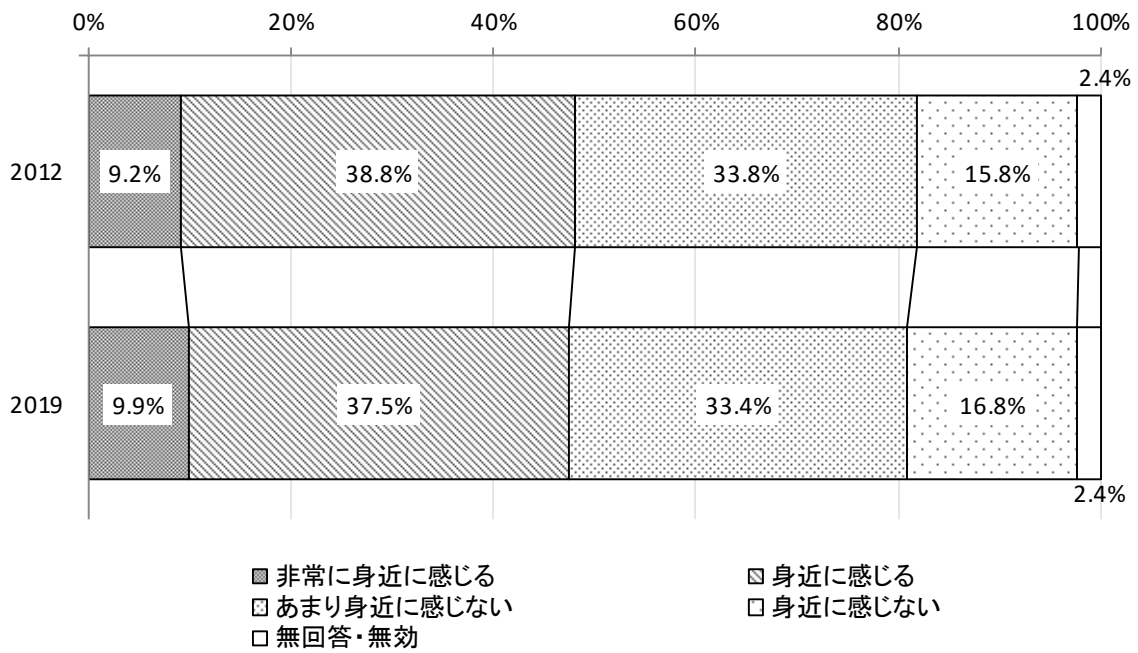
居住地区別にみると、「非常に身近に感じる」及び「身近に感じる」の合計が【太白区】(58.0%)及び【若林区】(55.4%)で5割を超えている。

一方、「あまり身近に感じない」及び「身近に感じない」の合計が【泉区】(59.8%)、【青葉区】(52.5%)、【宮城野区】(51.2%)で5割を超えている。



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、各選択肢の回答割合に大きな変化はみられない。

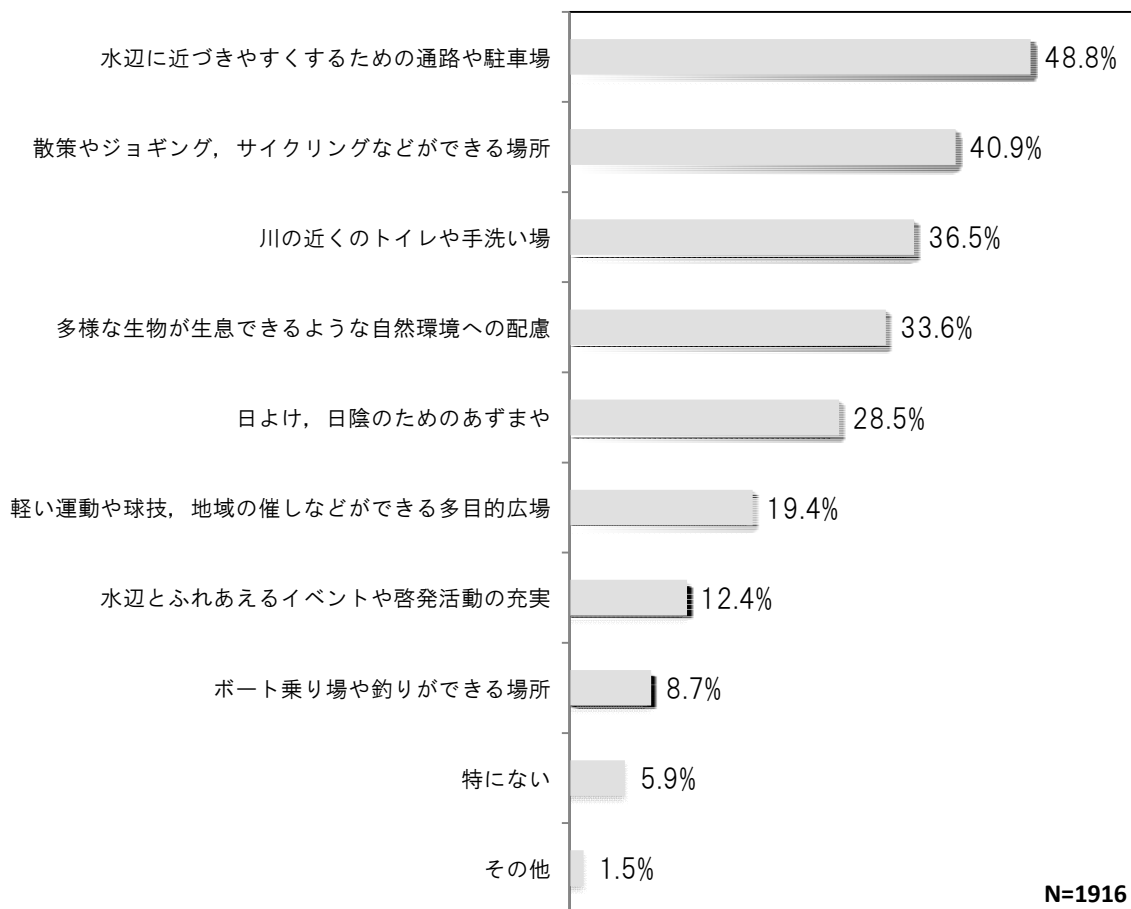


②水辺空間の利用に特に必要なもの

水辺空間の利用に必要なものについては、「水辺に近づきやすくするための通路や駐車場」(48.8%)が最も多く、次に「散策やジョギング、サイクリングなどができる場所」(40.9%)、「川の近くのトイレや手洗い場」(36.5%)、「多様な生物が生息できるような自然環境への配慮」(33.6%)、「日よけ、日陰のためのあずまや」(28.5%)となっている。

問 31 あなたが、水辺の空間を利用するために特に必要なものは何ですか。

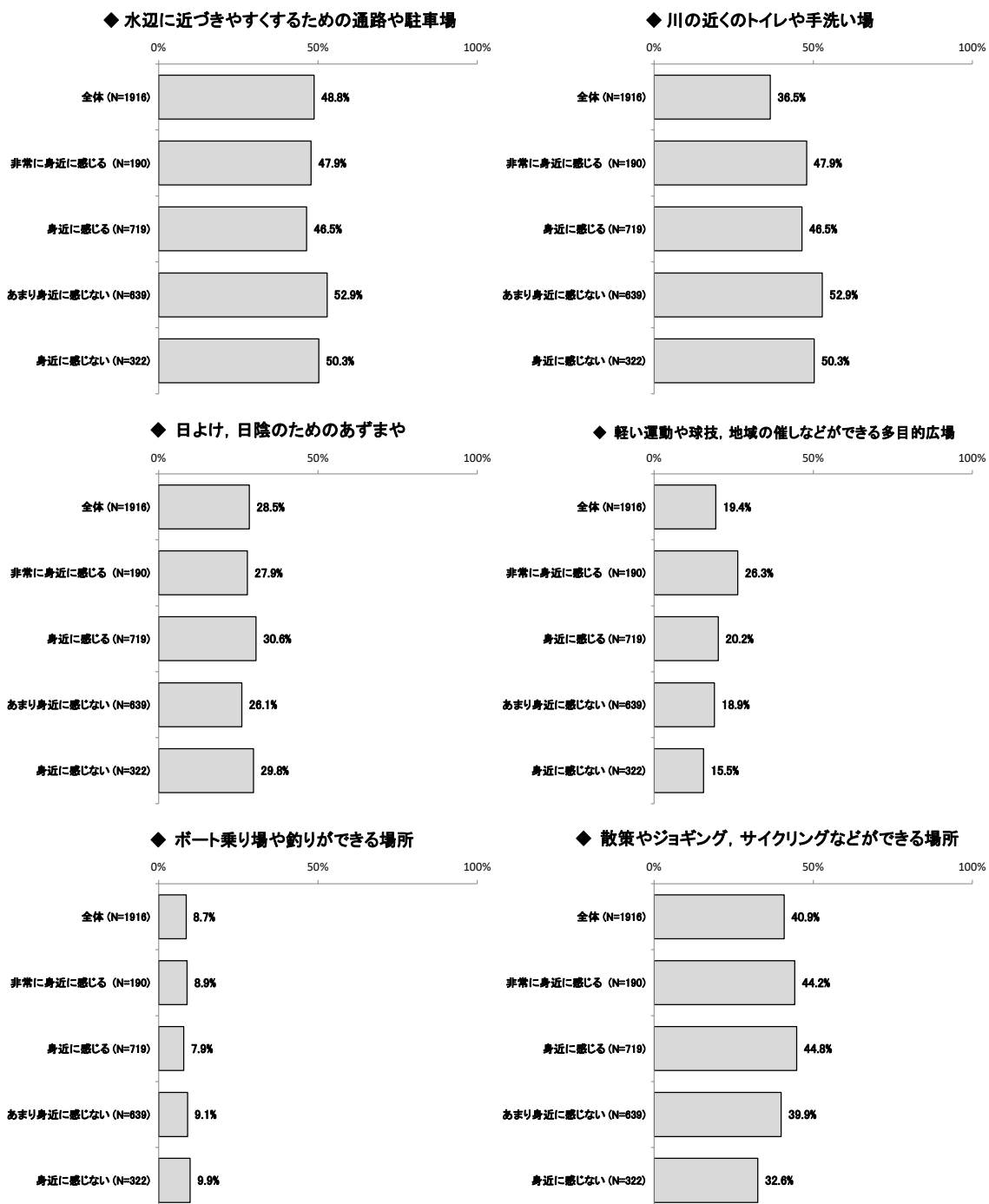
(主にあてはまる番号3つまでに○)



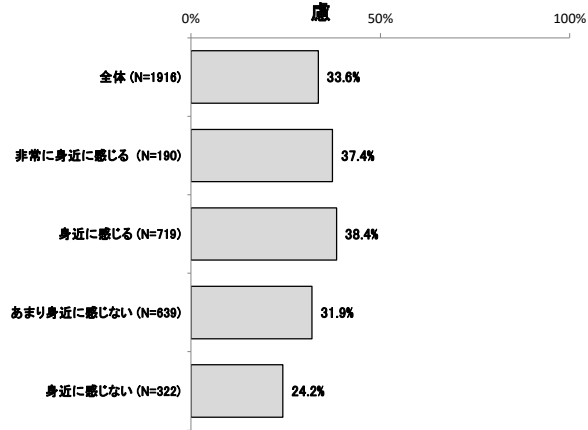
● 仙台市の河川の親しみ(問31)別 ●

仙台市の河川への親しみ別にみると、「日よけ、日陰のためのあずまや」や「散策やジョギング、サイクリングなどができる場所」、「軽い運動や球技、地域の催しなどができる多目的広場」などでは、《親近感がある》（「非常に身近に感じる」、「身近に感じる」の合計）人が、《親近感がない》「あまり身近に感じない」、「身近に感じない」の合計）人よりも、割合が多くなっている。

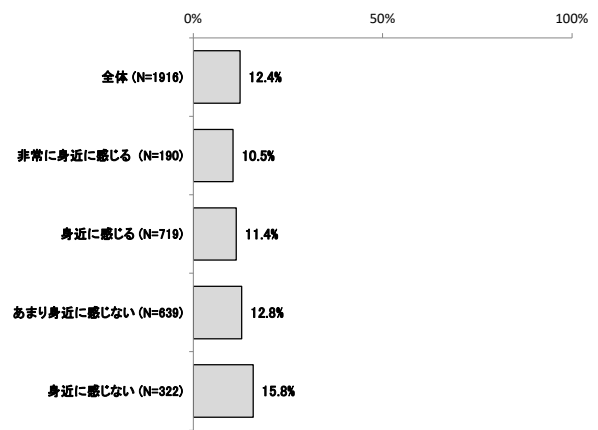
一方、「水辺に近づきやすくするための通路や駐車場の整備」や「川の近くのトイレや手洗い場」などでは、《親近感がない》（「あまり身近に感じない」、「身近に感じない」の合計）人が《親近感がある》（「非常に身近に感じる」、「身近に感じる」の合計）人よりも、割合が多くなっている。



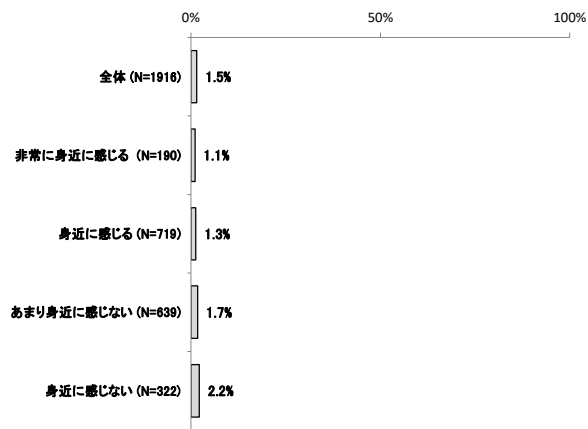
◆ 多様な生物が生息できるような自然環境への配



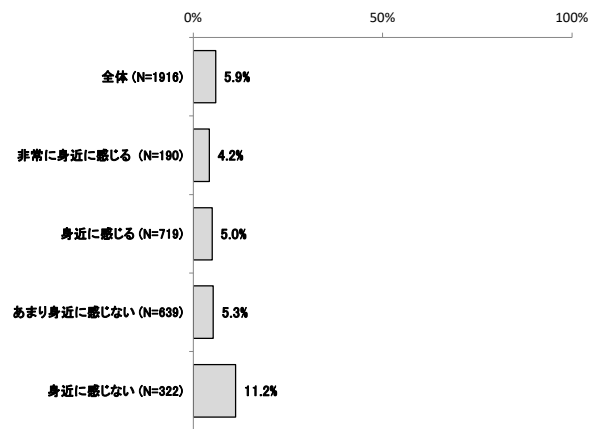
◆ 水辺とふれあえるイベントや啓発活動の充実



◆ その他

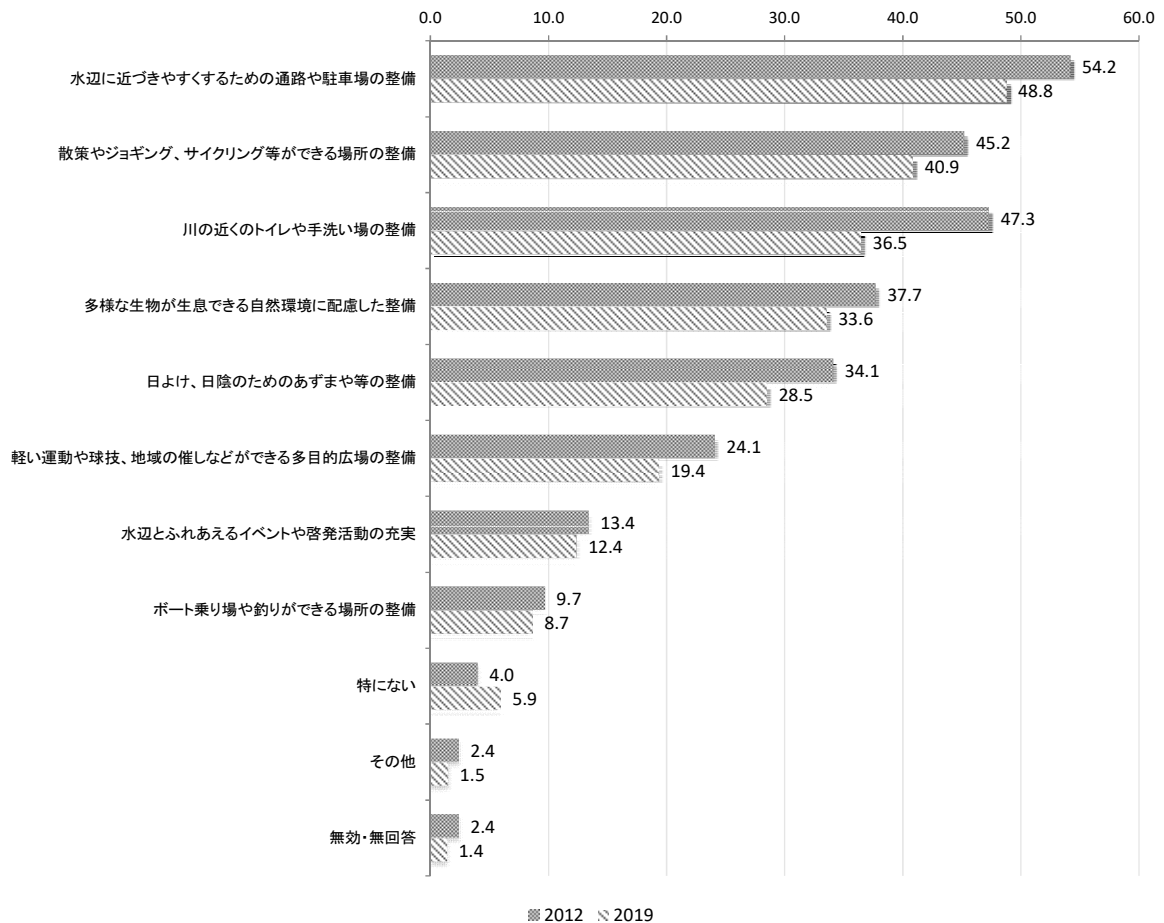


◆ 特にない



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「水辺に近づきやすくするための通路や駐車場の整備」などほとんどの項目の割合が減少しており、特に「川の近くのトイレや手洗い場の整備」の割合が大きく減少している。



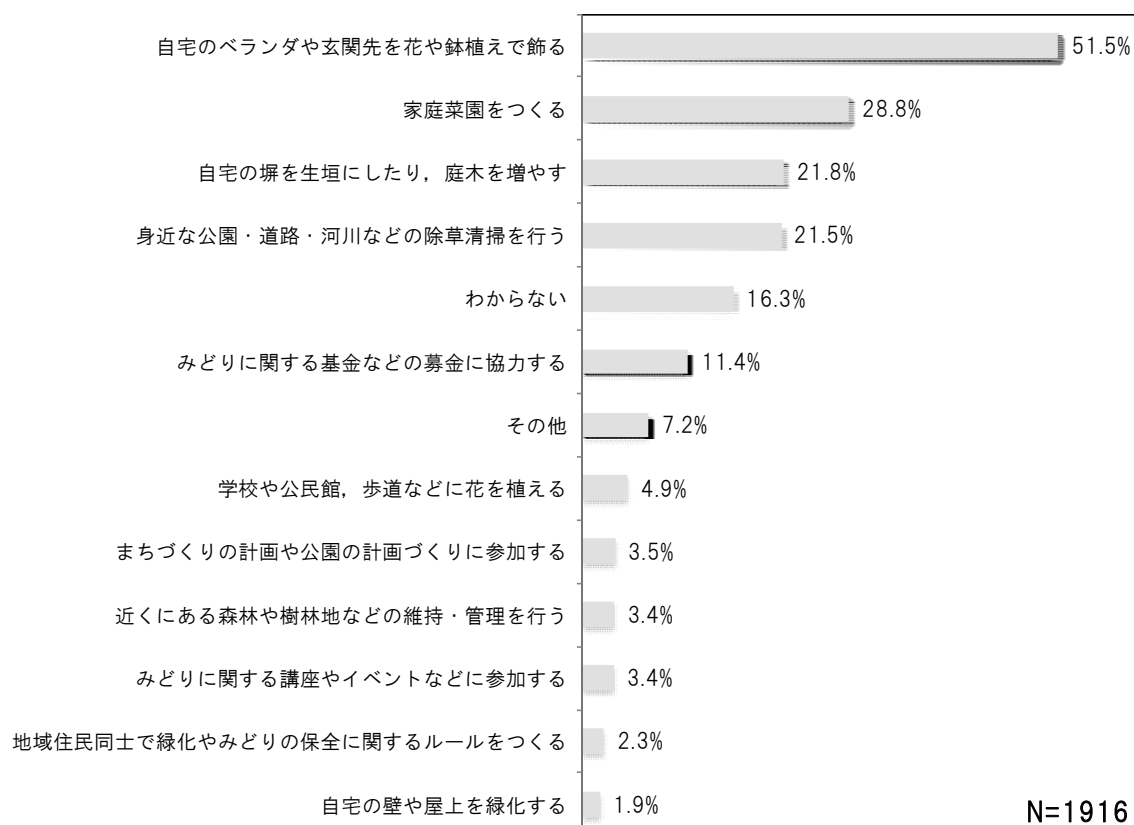
4. みどり豊かなまちづくりへの参加について

(1) みどり豊かなまちづくりのために実践している活動

みどり豊かなまちづくりのために実践している活動については、「自宅のベランダや玄関先を花や鉢植えて飾る」(51.5%)が最も多く、次いで「家庭菜園をつくる」(28.8%)、「自宅の塀を生垣にしたり、庭木を増やす」(21.8%)、「身近な公園・道路・河川などの除草清掃を行う」(21.5%)、「わからない」(16.3%)となっている。

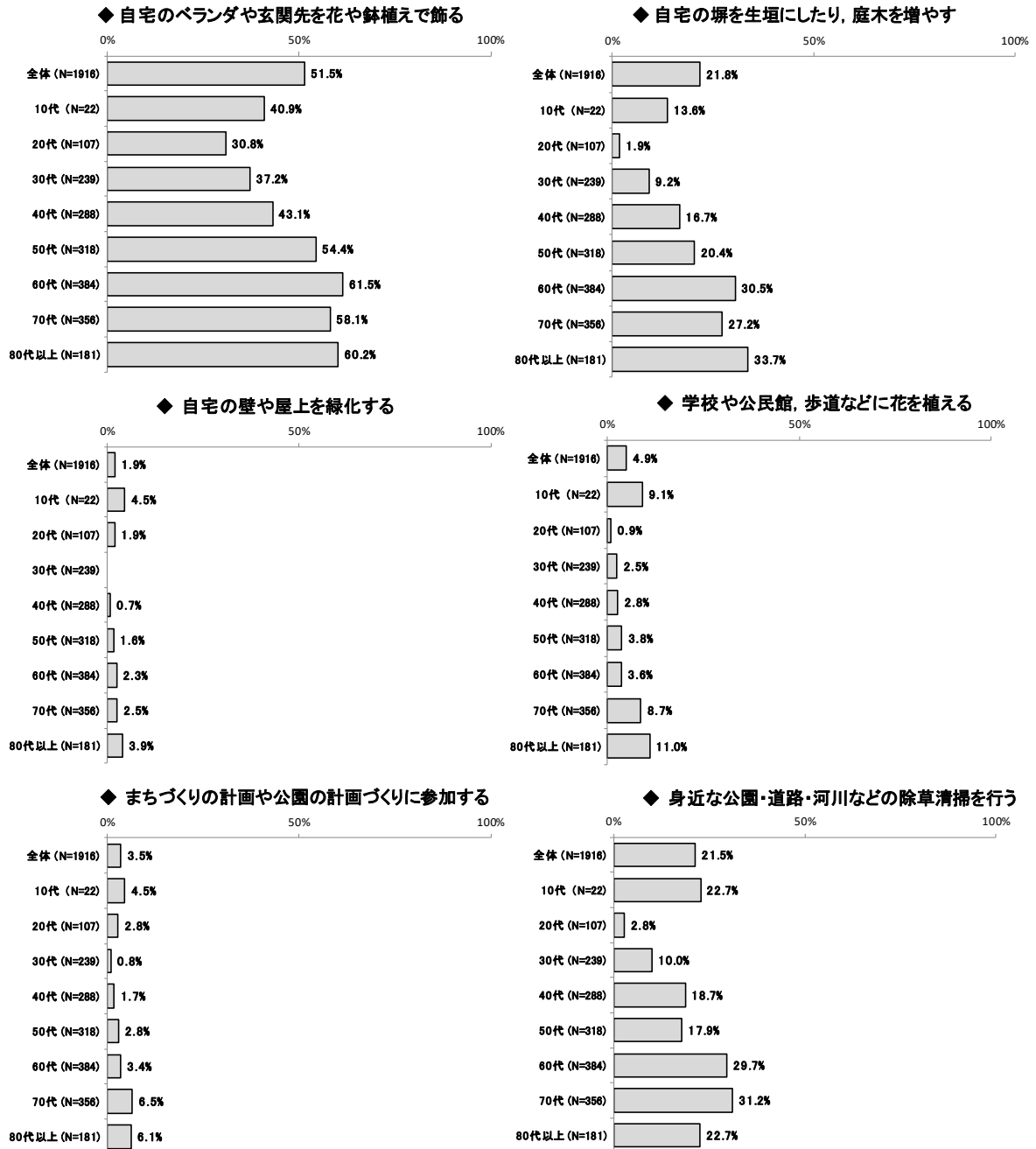
問 32 あなたがみどり豊かなまちづくりのために、実践している活動は何ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

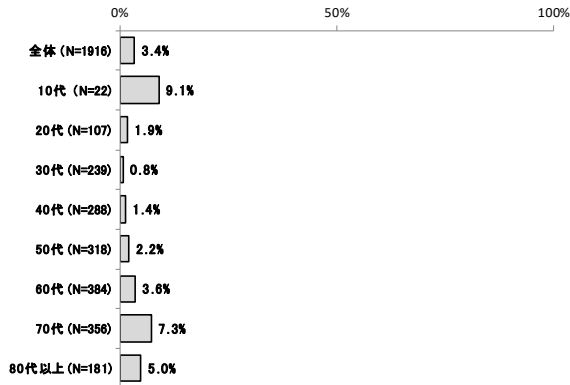


● 年代別 ●

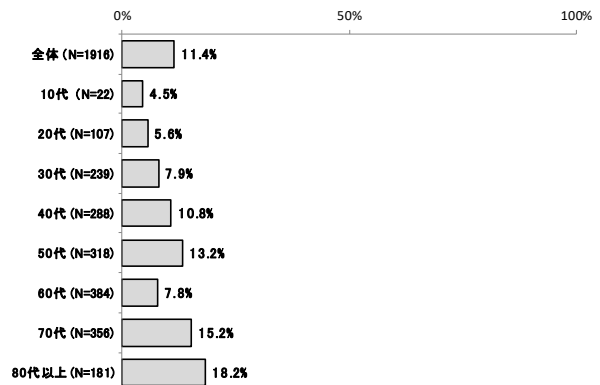
年代別にみると、「自宅のベランダや玄関先を花や鉢植えで飾る」では【50代】以上で半数を超えている。



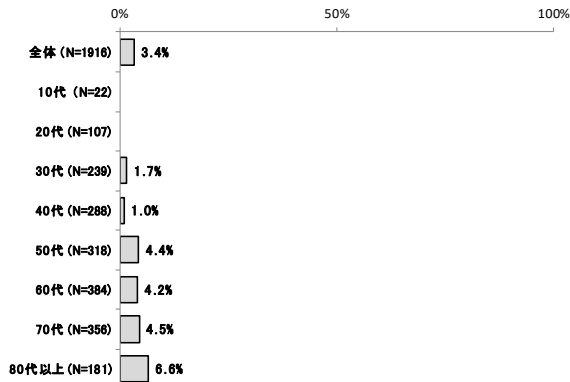
◆ 近くにある森林や樹林地などの維持・管理を行う



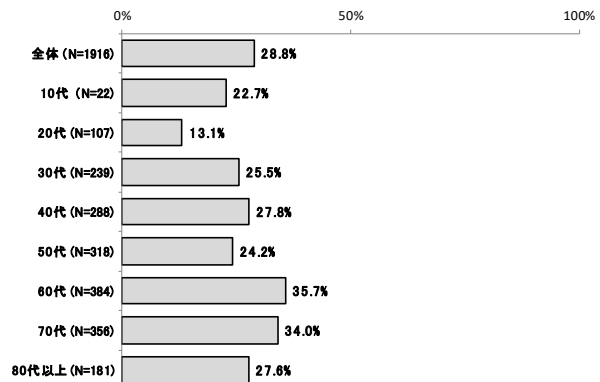
◆ みどりに関する基金などの募金に協力する



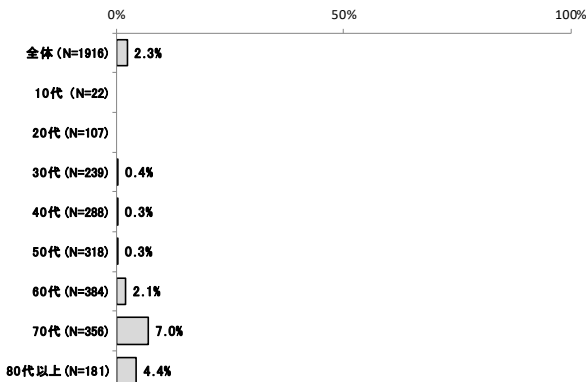
◆ みどりに関する講座やイベントなどに参加する



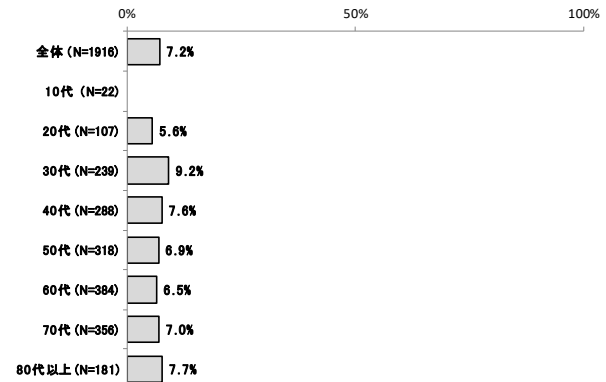
◆ 家庭菜園をつくる



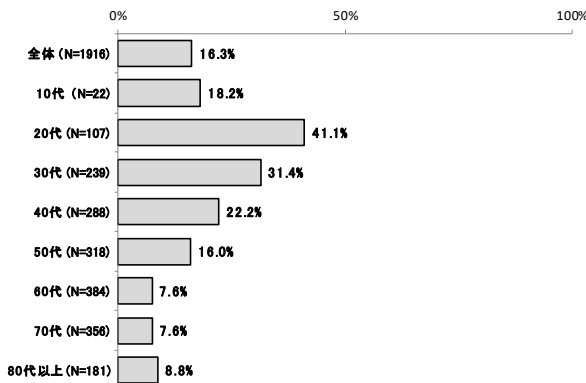
◆ 地域住民同士で緑化やみどりの保全に関するルールをつくる



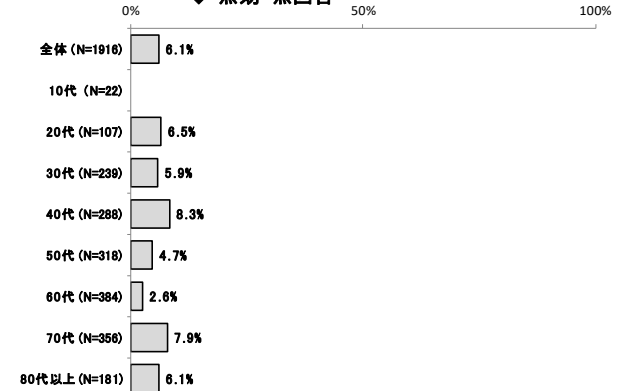
◆ その他



◆ わからない

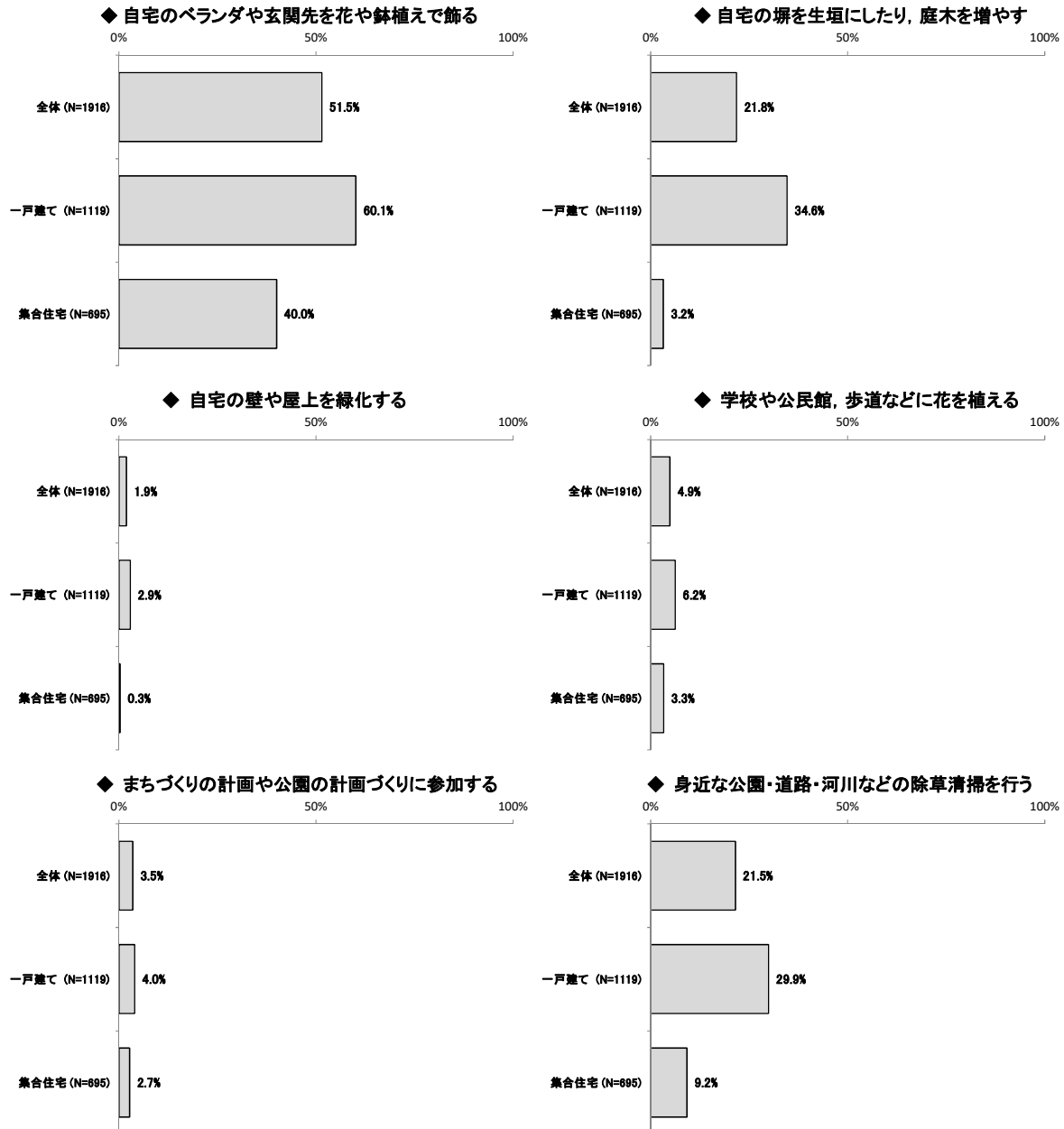


◆ 無効・無回答

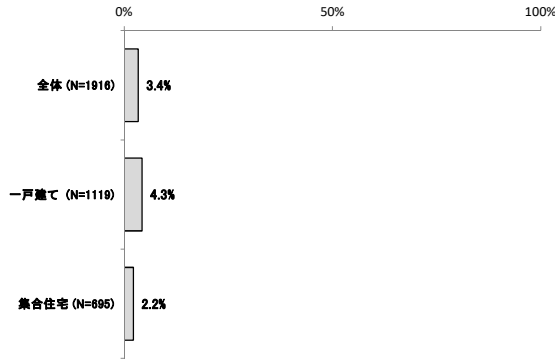


● 現在の住まい別 ●

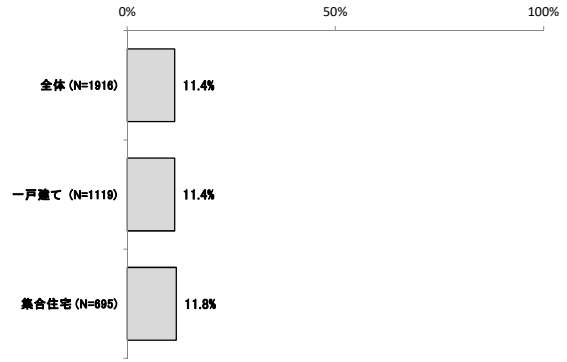
現在の住まい別にみると、「自宅のベランダや玄関先を花や鉢植えで飾る」（一戸建て：60.1%、集合住宅：40.0%）や「自宅の塀を生垣にしたり、庭木を増やす」（一戸建て：34.6%、集合住宅：3.2%）、「家庭菜園をつくる」（一戸建て：38.7%、集合住宅：14.8%）など【一戸建て】の方が【集合住宅】よりも、何らかの活動に取り組んでいる人の割合が多くなっている。



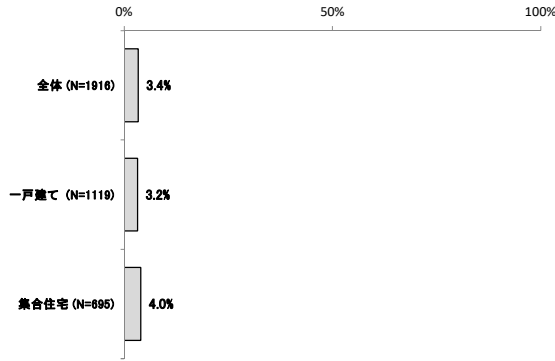
◆ 近くにある森林や樹林地などの維持・管理を行う



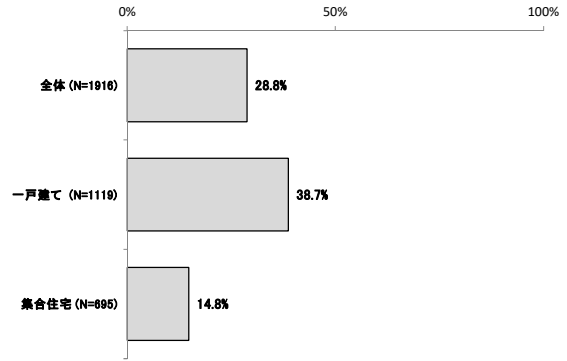
◆ みどりに関する基金などの募金に協力する



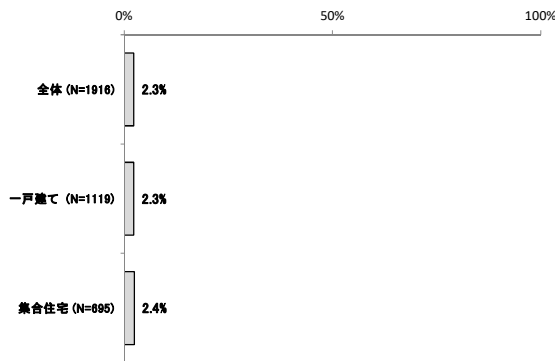
◆ みどりに関する講座やイベントなどに参加する



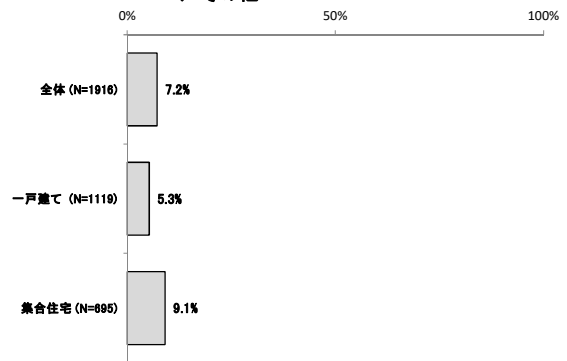
◆ 家庭菜園をつくる



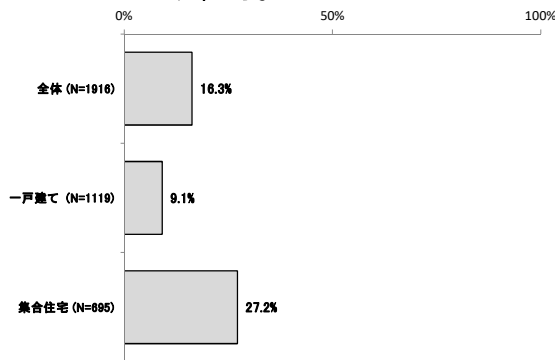
◆ 地域住民同士で緑化やみどりの保全に関するルールをつくる



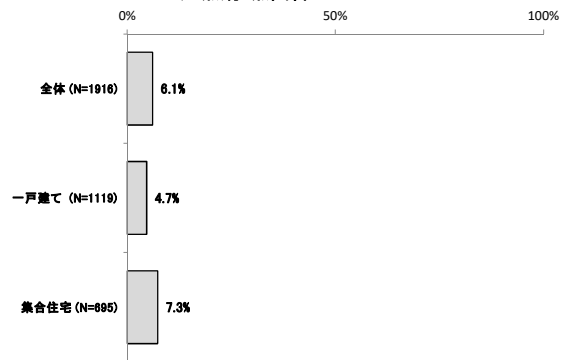
◆ その他



◆ わからない

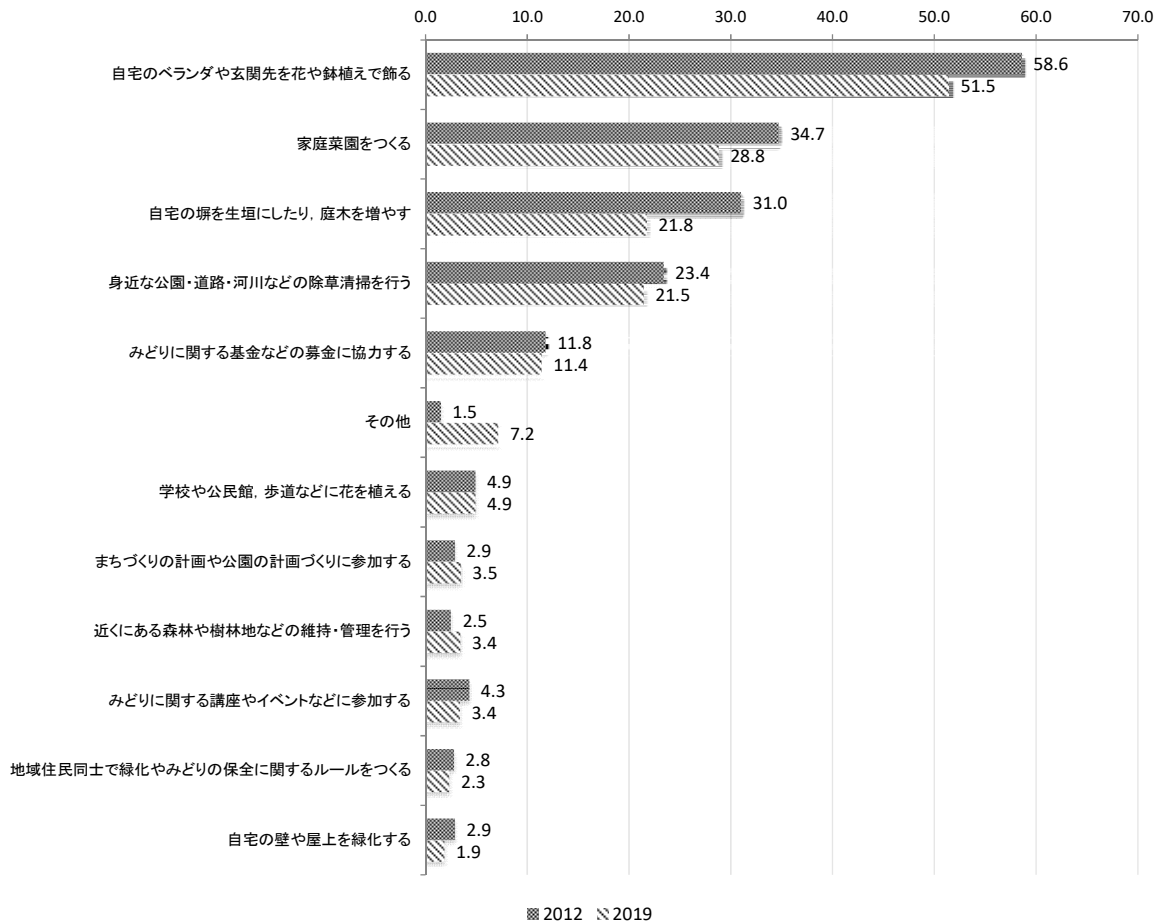


◆ 無効・無回答



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「自宅のベランダや玄関先を花や鉢植えで飾る」や「家庭菜園をつくる」などの割合が減少し、「まちづくりの計画や公園の計画づくりに参加する」や「近くにある森林や樹林地などの維持・管理を行う」などの割合が増加している。



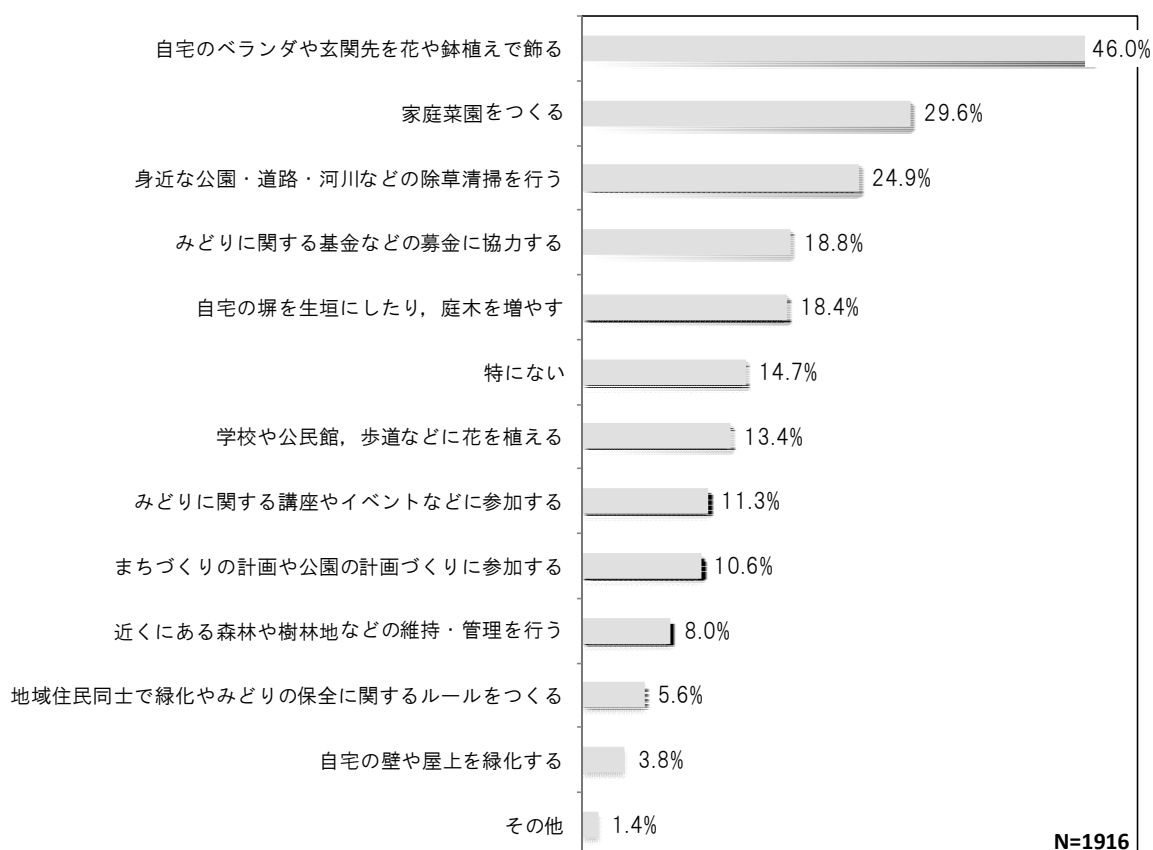
(2)みどり豊かなまちづくりのために実践したい活動

みどり豊かなまちづくりのために実践したい活動については、「自宅のベランダや玄関先を花や鉢植えで飾る」(46.0%)が最も多く、次いで「家庭菜園をつくる」(29.6%)、「身近な公園・道路・河川などの除草清掃を行う」(24.9%)、「みどりに関する基金などの募金に協力する」(18.8%)、「自宅の塀を生垣にしたり、庭木を増やす」(18.4%)となっている。

問 33 あなたがみどり豊かなまちづくりのために、実践したい活動は何ですか。

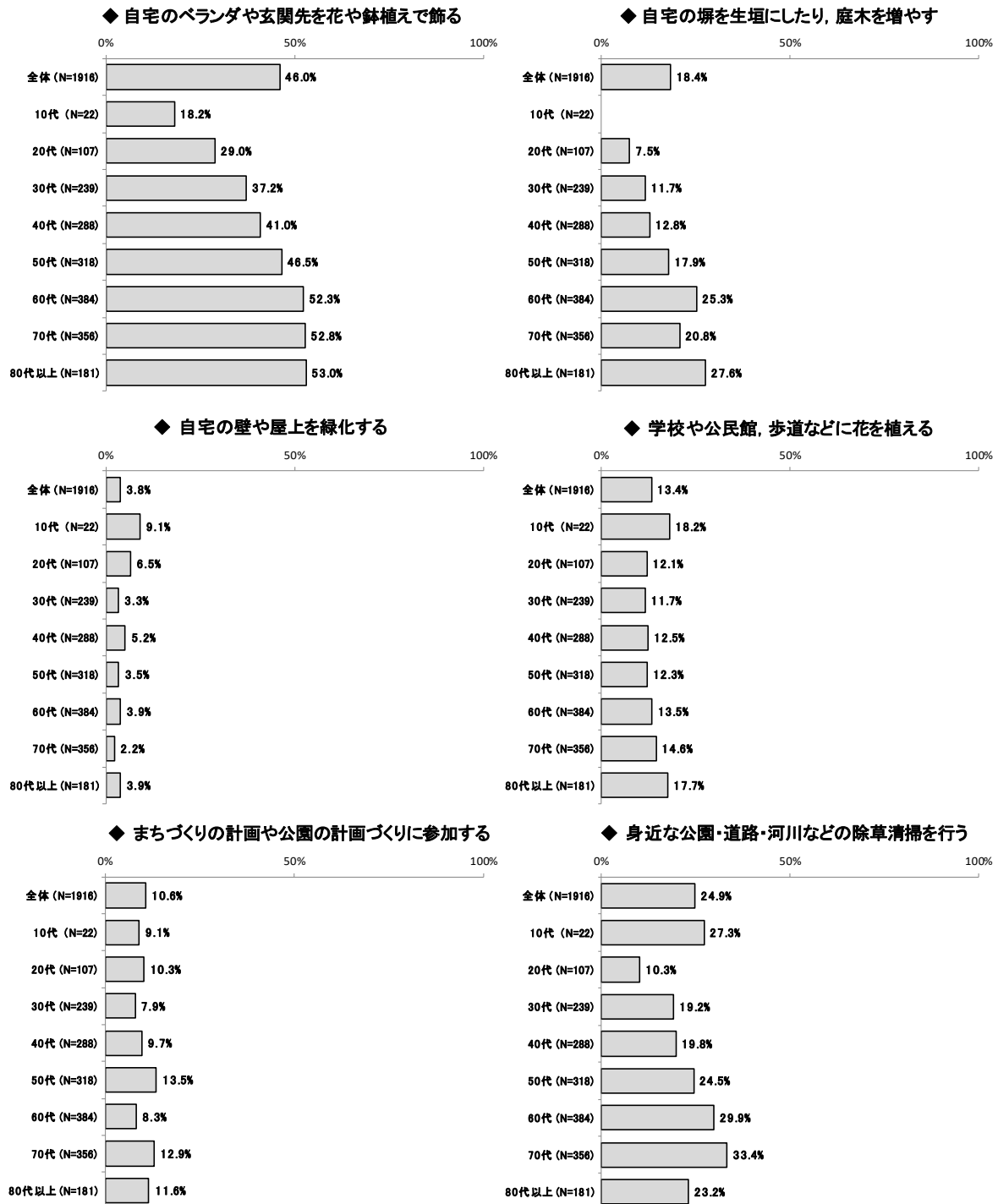
(現在、実践している活動で、今後も継続したい活動も含めてお答えください。)

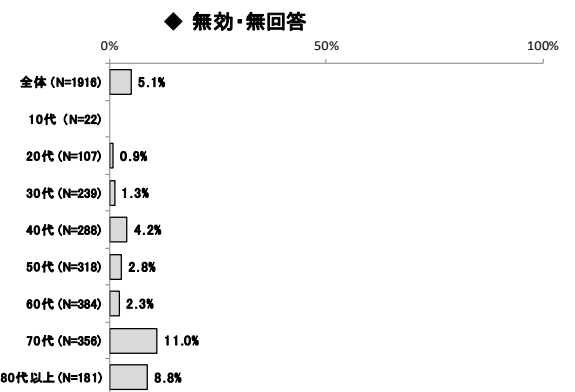
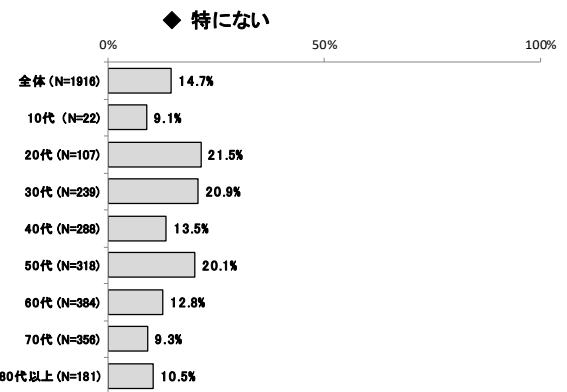
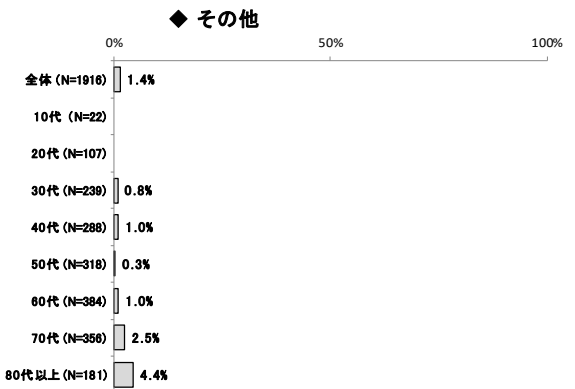
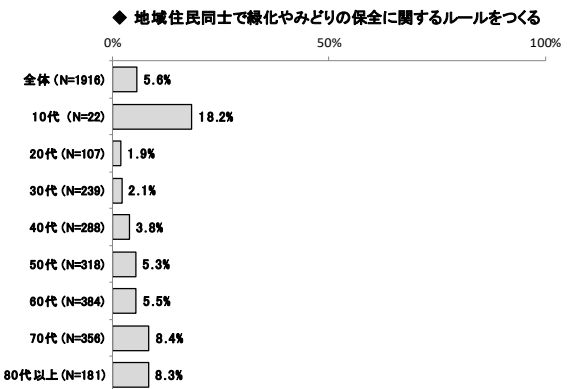
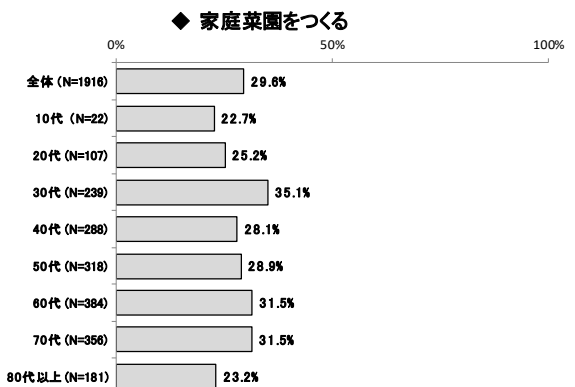
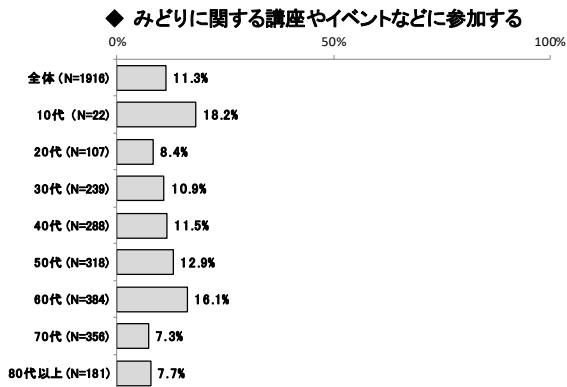
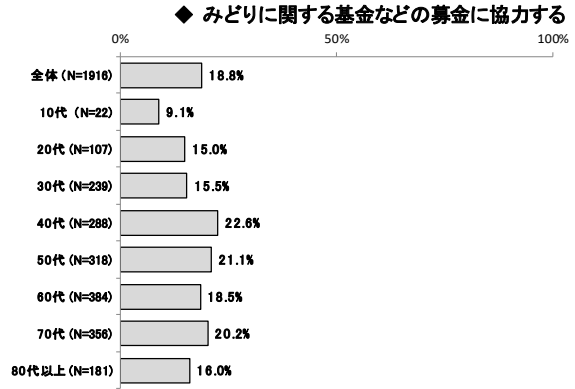
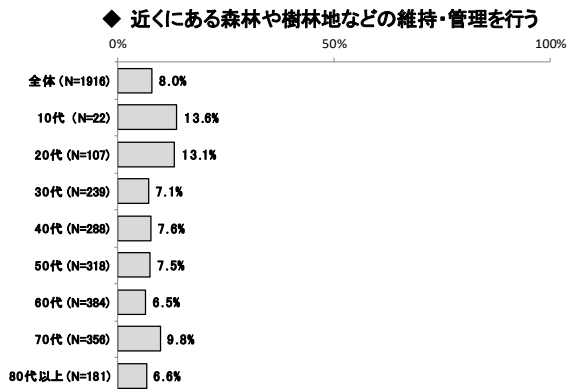
(あてはまる番号すべてに○)



● 年代別 ●

年代別にみると、「家庭菜園をつくる」は、【30代】で35.1%と、他の年代に比べて多い。また、「自宅のベランダや玄関先を花や鉢植えで飾る」は、【60代】以降の年代では5割以上である。

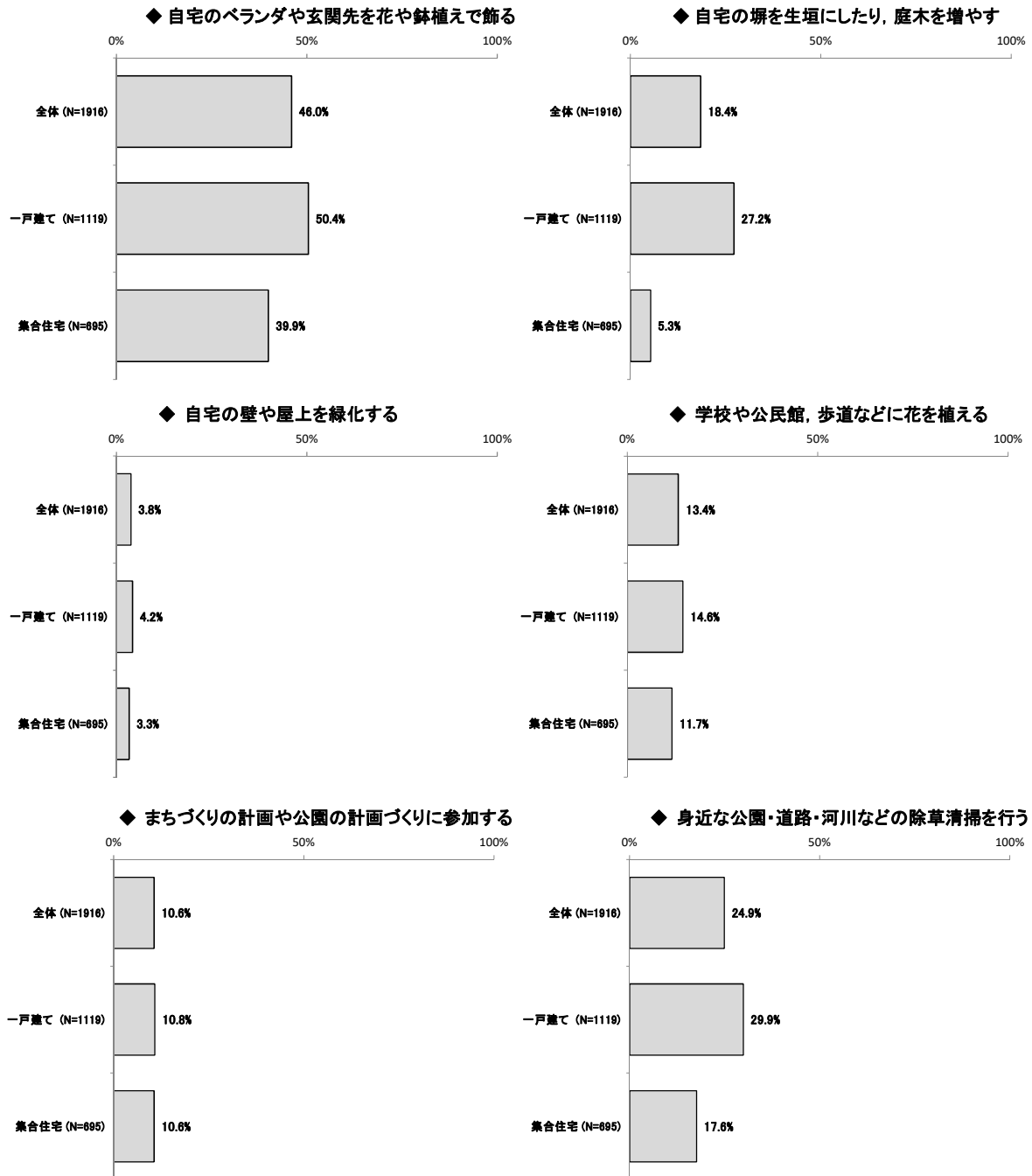




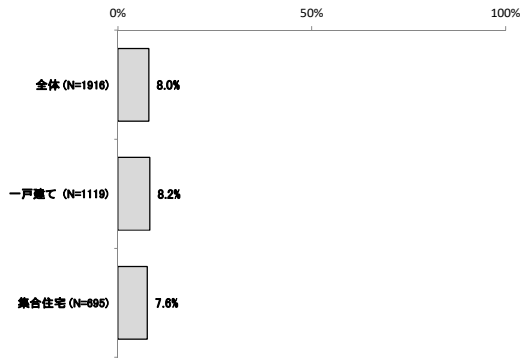
● 現在の住まい別 ●

現在の住まい別にみると、「自宅のベランダや玄関先を花や鉢植えで飾る」や「自宅の塀を生垣にしたり、庭木を増やす」、「身近な公園・道路・河川などの除草清掃を行う」、「家庭菜園をつくる」では、【一戸建て】が【集合住宅】を大きく上回っている。

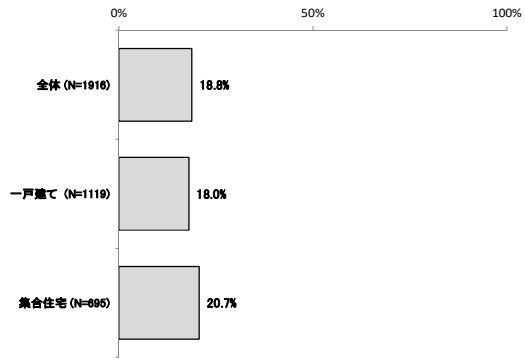
【集合住宅】が【一戸建て】を大きく上回っているものはみられず、【一戸建て】の方が活動への参加意欲が高いことがうかがえる。



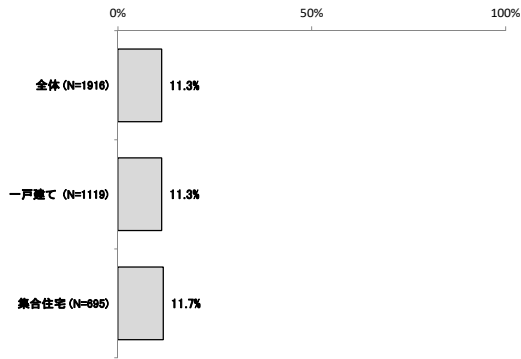
◆ 近くにある森林や樹林地などの維持・管理を行う



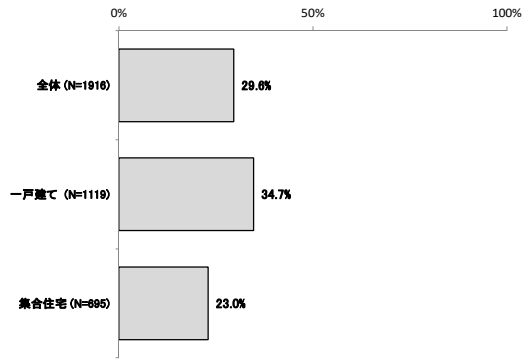
◆ みどりに関する基金などの募金に協力する



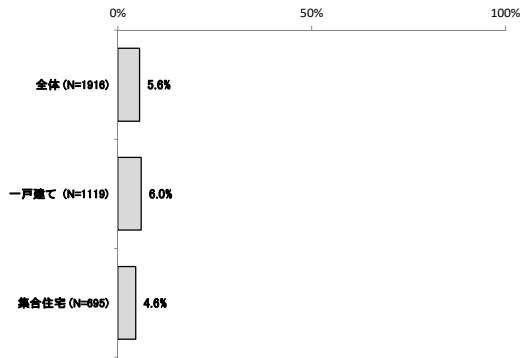
◆ みどりに関する講座やイベントなどに参加する



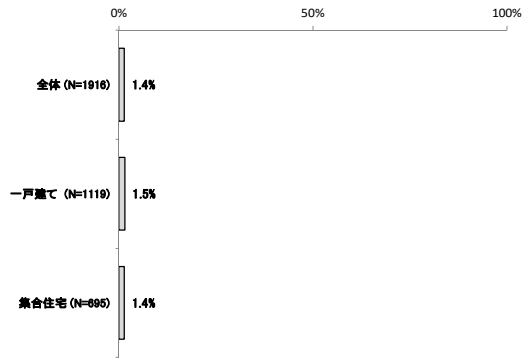
◆ 家庭菜園をつくる



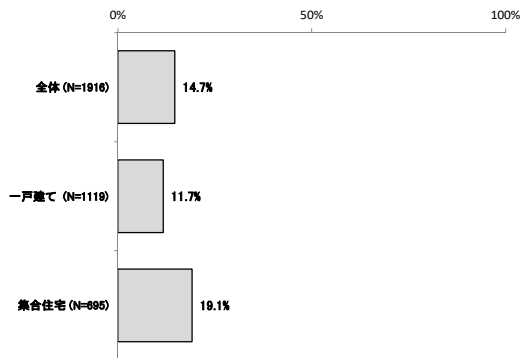
◆ 地域住民同士で緑化やみどりの保全に関するルールをつくる



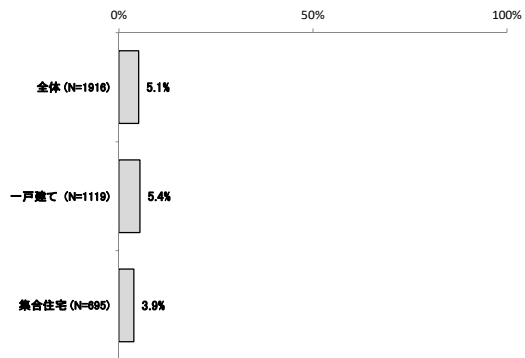
◆ その他



◆ 特にない

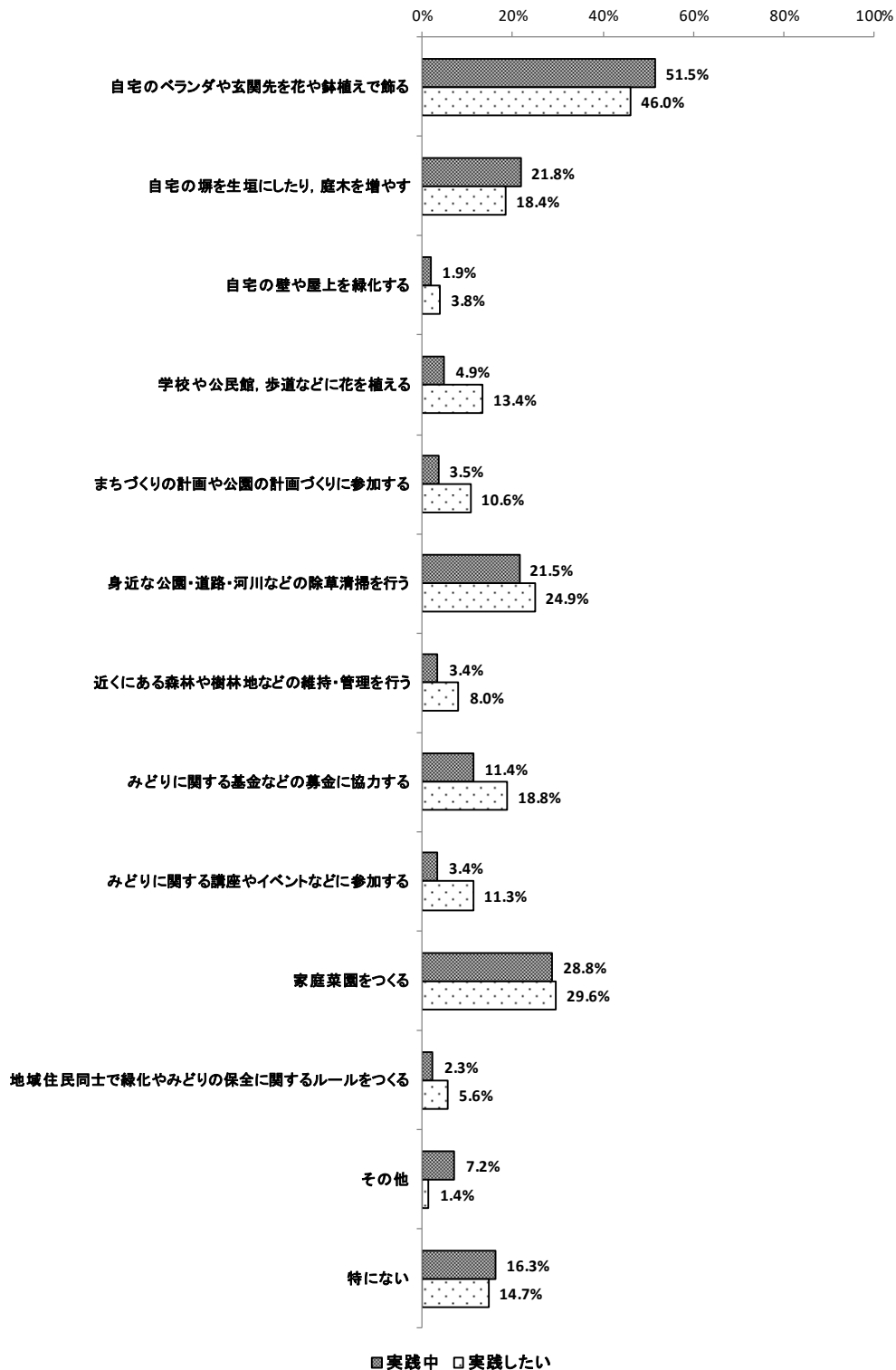


◆ 無効・無回答



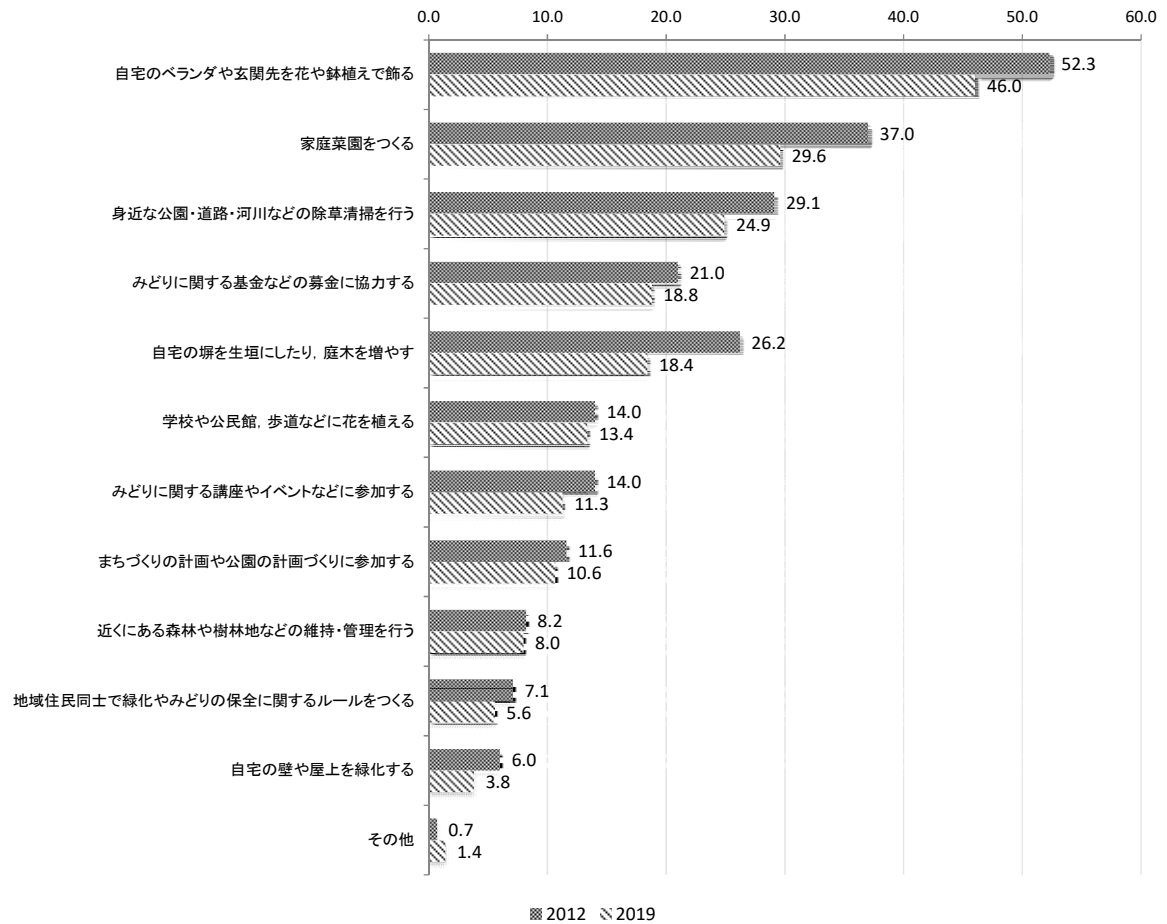
● 実践している活動としたい活動の比較 ●

『問 32 みどり豊かなまちづくりのために実践している活動』と、『問 33 みどり豊かなまちづくりのために実践したい活動』を比較すると、「自宅のベランダや玄関先を花や鉢植えで飾る」、「自宅の塀を生垣にしたり、庭木を増やす」以外の項目で、問 33 の実践したい活動が問 32 の実践している活動の割合を上回っている。



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「自宅のバルコニーや玄関先を花や鉢植えで飾る」や「家庭菜園をつくる」、「自宅の塀を生垣にしたり、庭木を増やす」の割合が大きく減少している。

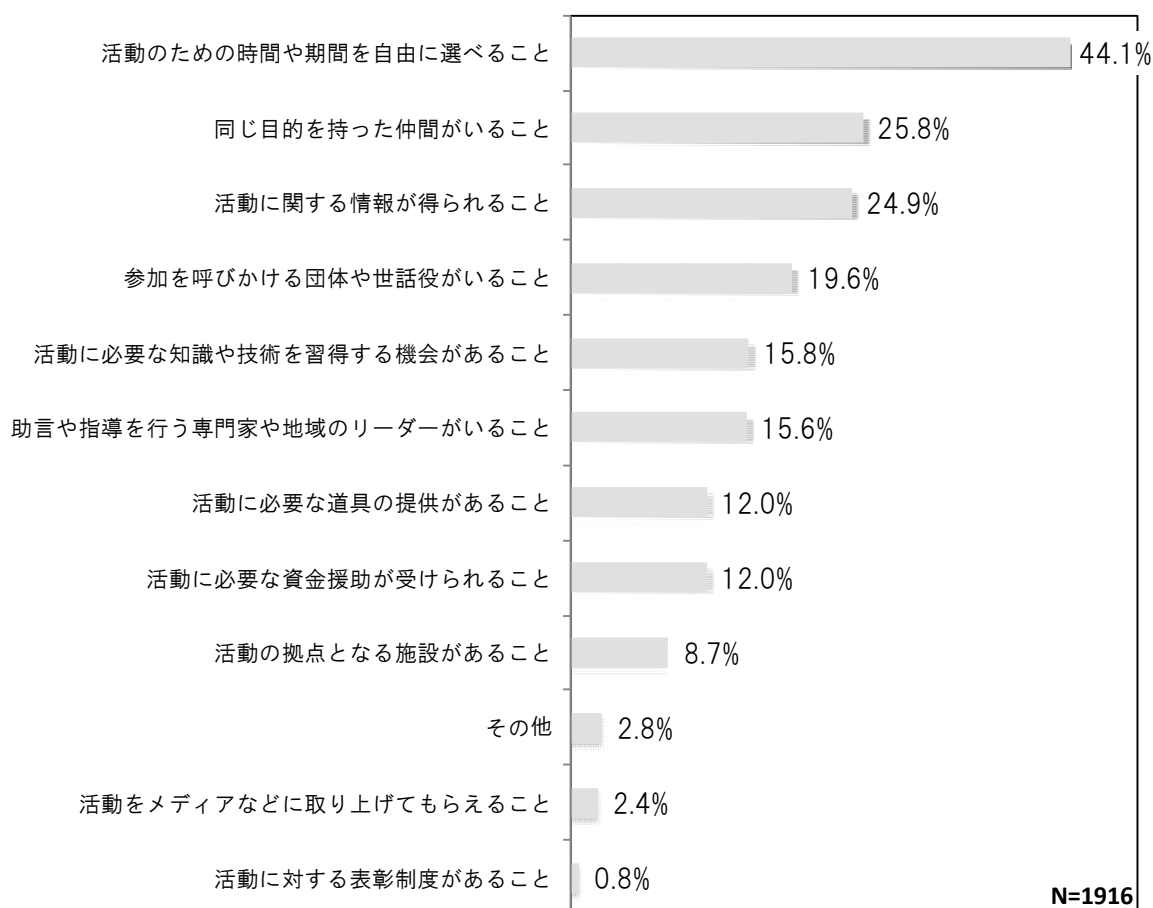


(3)みどり豊かなまちづくりの活動に参加するための条件

みどり豊かなまちづくりの活動に参加するための条件については、「活動のための時間や期間を自由に選べること」(44.1%)が最も多く、次いで「同じ目的を持った仲間がいること」(25.8%)、「活動に関する情報が得られること」(24.9%)、「参加を呼びかける団体や世話役がいること」(19.6%)、「活動に必要な知識や技術を習得する機会があること」(15.8%)となっている。

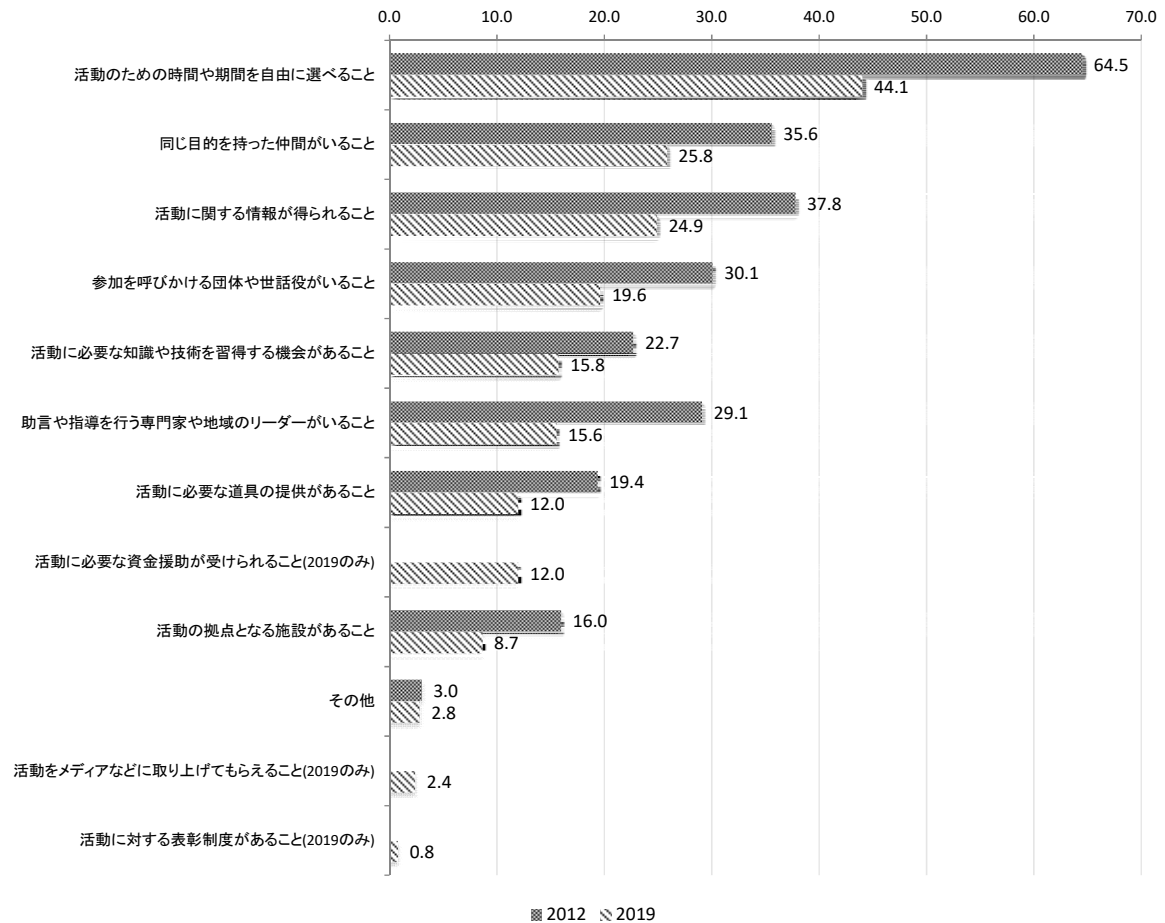
問 34 あなたが、みどり豊かなまちづくりの活動に参加するための条件は何ですか。

(主にあてはまる番号3つまでに○)



● 2012年アンケートとの比較 ●

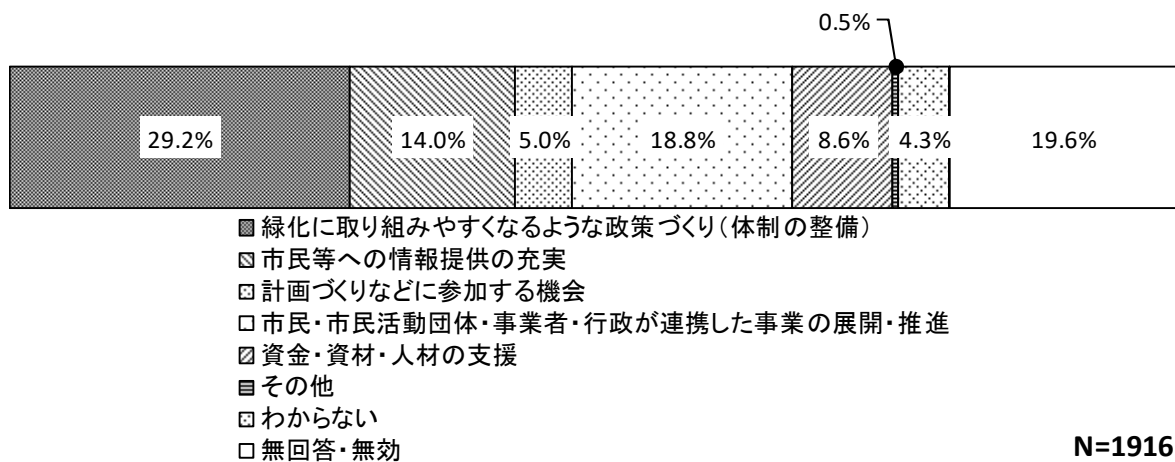
2012年と比較すると、「活動のための時間や期間を自由に選べること」や「同じ目的を持った仲間がいること」、「活動に関する情報が得られること」が上位であることに変わりはないが、その割合は大きく減少しており、その他の回答も全て減少している。



(4)みどり豊かなまちづくりのために最も必要なこと

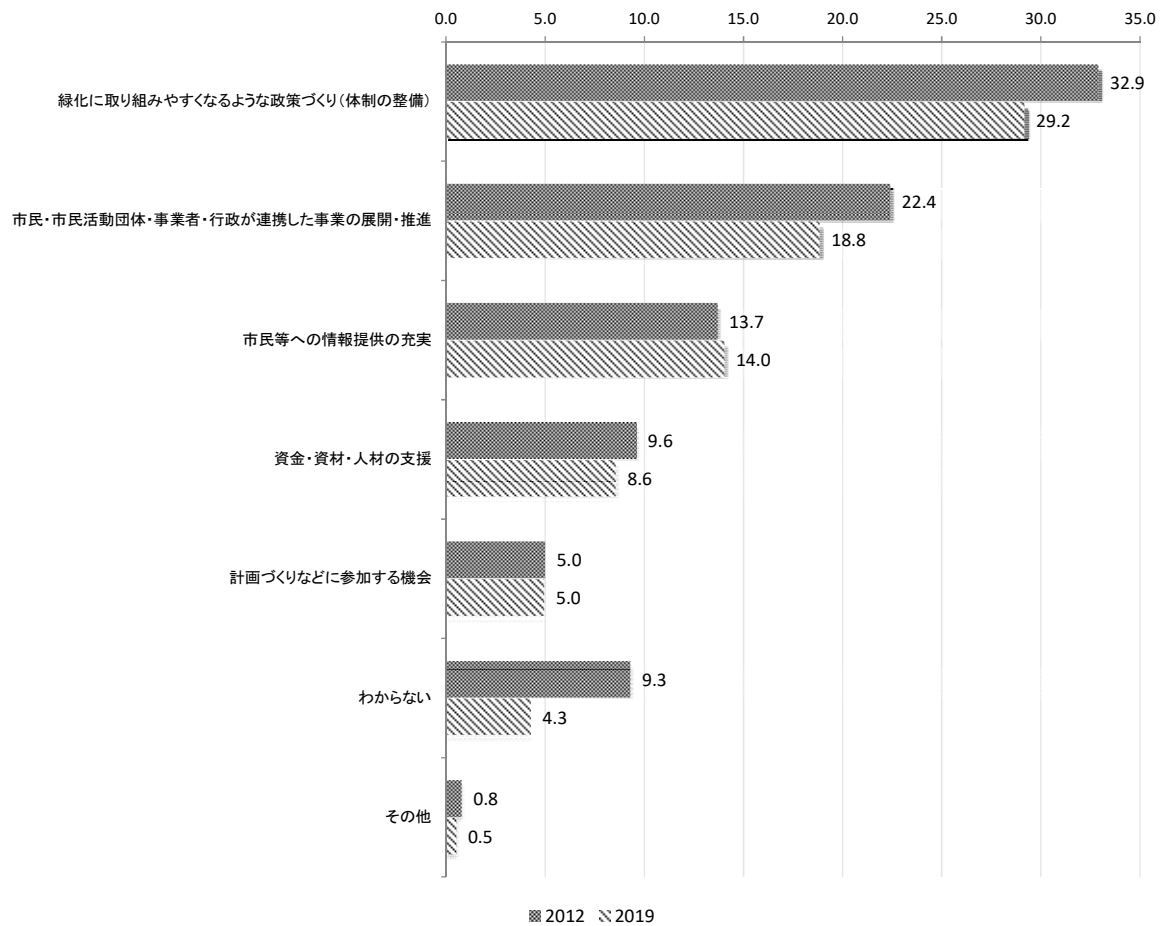
みどり豊かなまちづくりのために最も必要なことについては、「緑化に取り組みやすくなるような政策づくり（体制の整備）」（29.2%）が最も多く、次いで「市民・市民活動団体・事業者・行政が連携した事業の展開・推進」（18.8%）、「市民等への情報提供の充実」（14.0%）、「資金・資材・人材の支援」（8.6%）、「計画づくりなどに参加する機会」（5.0%）となっている。

問 35 みどり豊かなまちづくりのためには、市民・市民活動団体・事業者・行政、それぞれの役割をはっきりとさせ、お互いが協力していくことが重要です。そのために最も必要なことは何だとお考えになりますか。（あてはまる番号1つに○）



● 2012年アンケートとの比較 ●

2012年と比較すると、「緑化に取り組みやすくなるような政策づくり（体制の整備）」や「市民・市民活動団体・事業者・行政が連携した事業の展開・推進」が変わらず上位となっているが、その割合は減少している。



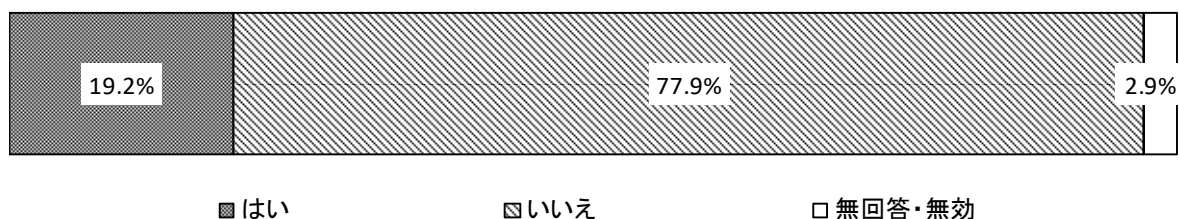
5. 「グリーンインフラ」について

①グリーンインフラという言葉の認知度

グリーンインフラという言葉を知っているかについては、「いいえ」(77.9%)が過半数を占め、認知度が低い。

問 36 あなたはグリーンインフラという言葉を知っていますか。

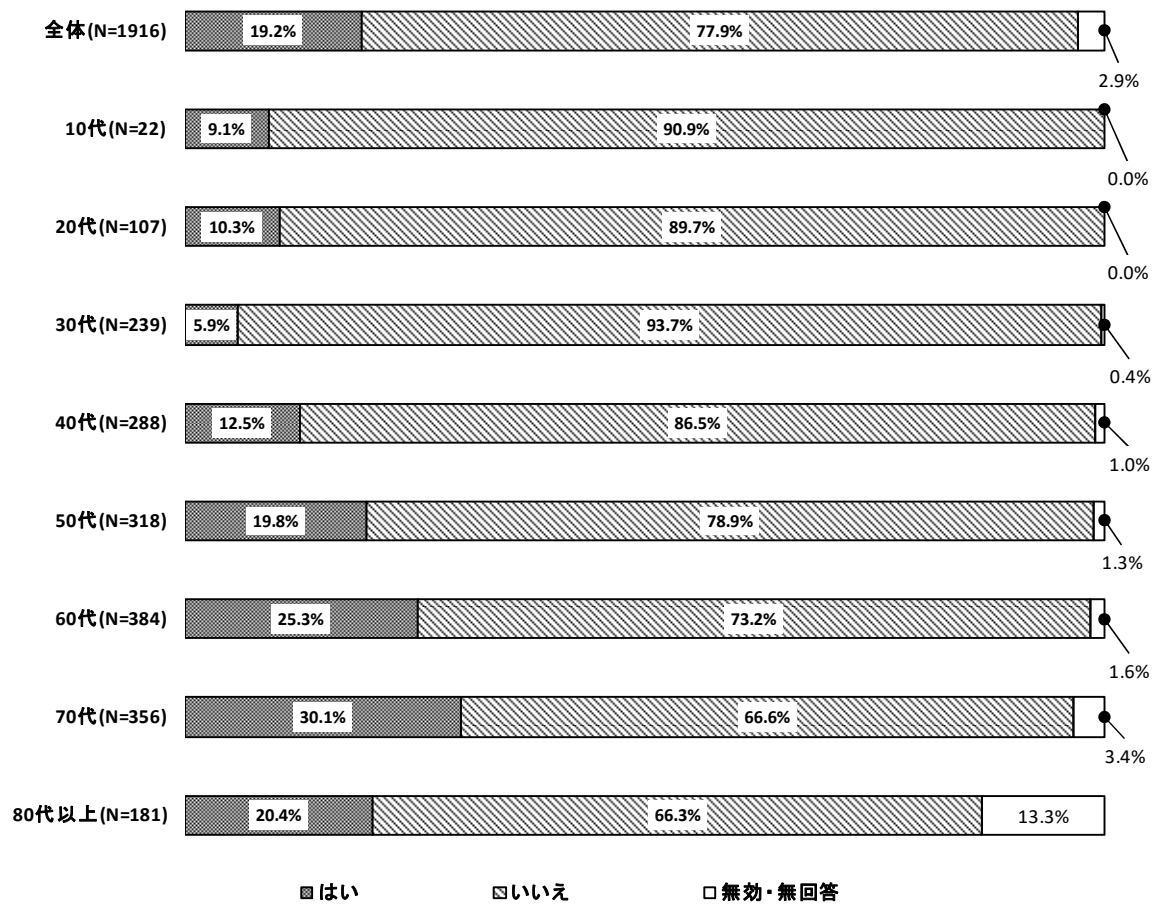
(あてはまる番号1つに○)



N=1916

● 年代別 ●

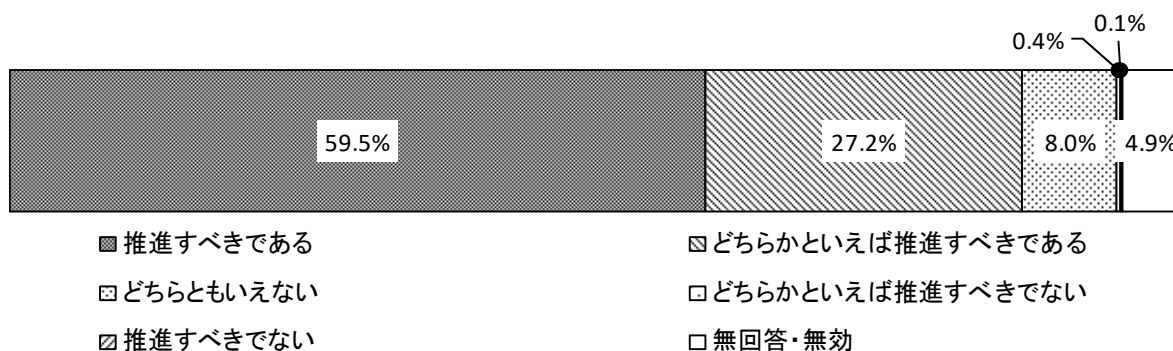
年代別にみると、「知っている」は、【50代】以上で割合が高く、特に【70代】は約3割となっている。



②グリーンインフラの考えを取り入れたまちづくり

グリーンインフラの考え方を取り入れたまちづくりについて、「推進すべきである」(59.5%)が最も多く、次いで「どちらかといえば推進すべきである」(27.2%)、「どちらともいえない」(8.0%)となっている。

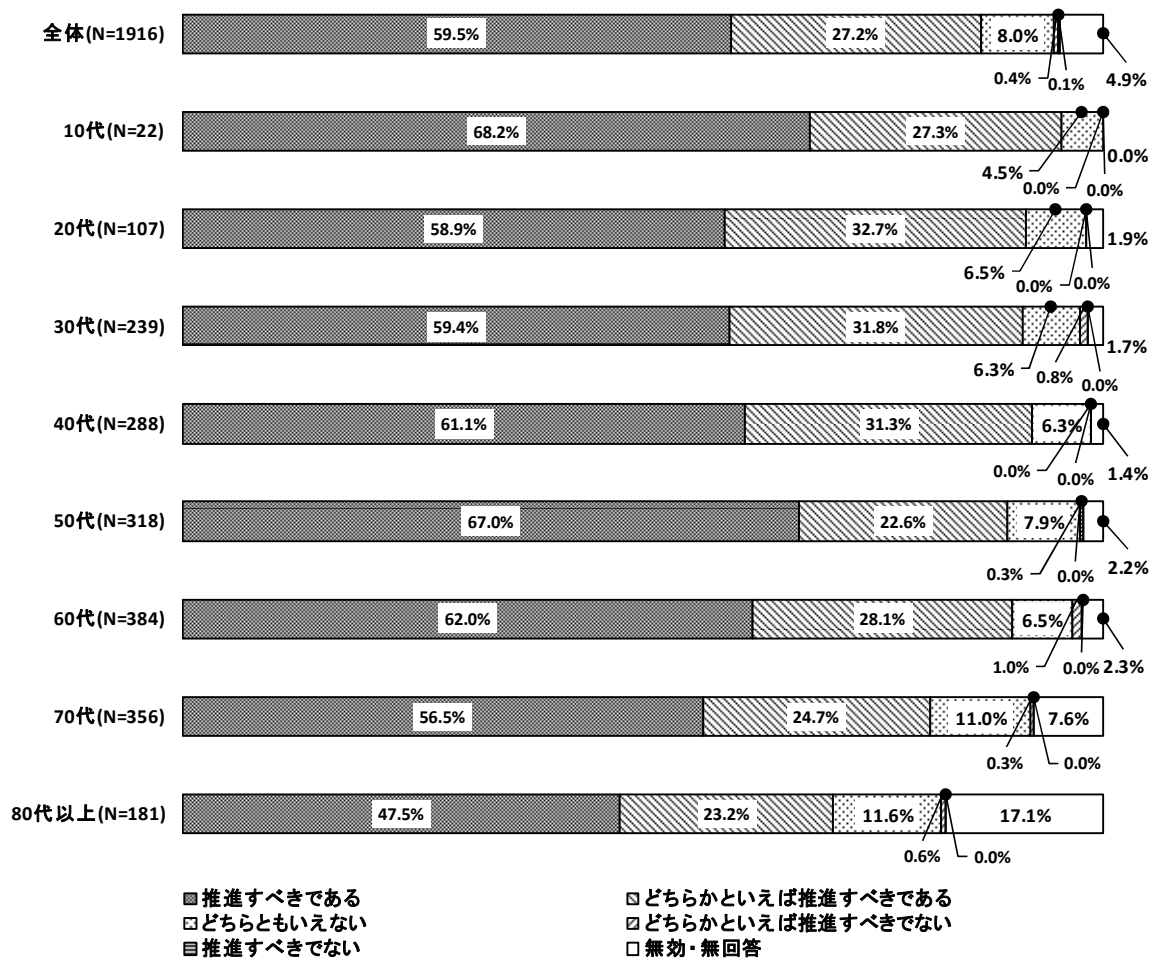
問 37 あなたはグリーンインフラの考え方を取り入れたまちづくりについて、どう思いますか。
(あてはまる番号1つに○)



N=1916

● 年代別 ●

年代別にみると、「推進すべきである」、「どちらかといえば推進すべきである」の合計が、各年代で7割以上となっている。



6. 「みどり」に関する意見・要望

「みどり」に関するご意見・ご要望などを記入していただいたところ、491名の方から回答があった。記入内容を分類（複数回答扱い）すると、下表のとおりとなっている。

その他「みどり」に関するご意見・ご要望などがあれば、自由に記述してください。

(N=491)

	内容	件数
1	街路樹について（みどりの質）	94
2	仙台らしさ、「杜の都」という言葉について	81
3	公園について（みどりの量）	51
4	取組み方針、体制づくりなどのソフト面に関することについて	47
5	整備・管理などハード面に関することについて	41
6	財政、事業コストについて	33
7	公園について（みどりの質）	32
8	アンケートについて	29
9	大規模開発等によるみどりの喪失について	28
10	みどりの保全と都市開発との調和について	26
11	みどりの保全について	23
12	住宅地のみどりについて	22
13	まちづくりへの参加について	19
14	市民意識の醸成について	18
15	みどりに関するPRについて	18
16	街路樹について（みどりの量）	17
17	公園その他	17
18	市民協働による緑化の推進について	15
19	みどりの必要性について	13
20	みどりを意識した教育について	11
21	街路樹その他	11
22	グリーンインフラの推進について	10
23	その他	155
	合計	811